

中世・近世公験文書料紙の変遷

—真言院後七日御修法請僧交名と東福寺公帖—

富田 正弘

はじめに

最近における日本中世文書の料紙体系やその系譜に関する研究状況は、十数年前に到達した上島有の業績(「中世文書の料紙の種類」小川信編『中世古文書の世界』等)からの脱却・発展という長らく模索されてきた研究課題が、ようやく現実的なものとなってきたという感が深い。その代表的な成果としては、最近湯山賢一が展開している所論(「和紙にみる日本の文化」湯山賢一編『文化財学の課題』)のように、文書料紙に限定せず仏教経典その他の紙素材文化財全体にまで視野を広げ、時代的にも奈良時代に、さらには唐代以前にまで遡る系譜論的考察を行うことによって、日本中世文書の料紙研究の進展を図ろうとした所論であろう。またもう一つの成果としては、保立道久・江前敏晴らが目論んでいのように、文書料紙の原料組成の分析や形態の数量化目指して、これに徹する分類論を展開するものであり、これも日本中世文書料紙論を豊かにする試論であるといえる。湯山の議論は、上島の設定した日本という地域、中世という時代、文書という素材などの限定を取り払った地点からの再検討であり、保立らの目論見は料紙の風合いについての経験的な感得に依拠する上島の研究法を料紙の原料成分等の観察から見直すものであろう(2002年度～2004年度科学研究費補助金(基盤研究(A))(2)研究成果報告書)『禅宗寺院文書の古文書学的研究—宗教史と史料論のはざま—』)。私もこのような研究動向を念頭に置き、料紙の時代的変遷や料紙原料素材の分析的観察を基礎におきながら、ここでは特定用途の文書に限定して固執し、その料紙がどのように変遷していったのか、細かく年次を追って実証的に明らかにする試みを行ってみたい。このような試みも、上島氏の研究成果をさらに発展させるさらにもう1つの研究方法となるであろうと考えるからである。

日本中世・近世の政治文書のうちで最重要文書の1つであると考えられてい

る公験については、律令政治が変質した平安中期以降、国家が公認する土地の利権を証明する証拠書類として、近世の末期まで作成され続けられている。このような公験のうちでとくに中心となる文書は、平安時代後期から鎌倉時代前期までは太政官符・太政官牒、鎌倉時代中期から南北朝時代までは院宣・綸旨、南北朝時代末期から戦国時代・安土時代までは室町殿御判御教書、桃山時代は豊臣秀吉判物・朱印状、江戸時代では徳川将軍判物・朱印状等であろう。このような各時代における王権を掌握する為政者が発給する文書は、荘園領主や近世大名の領知を保証する公験としても用いられており、それぞれの時代の政治社会体制の基本構造を支える文書となっていることはいうまでもない。

これらの文書の料紙については、上島有が院宣や室町殿御判御教書を例に指摘しているように、厚くて大きくてかつ上質な紙を使用している(「公家文書の料紙の使い方—古文書の料紙について(二)—」『古文書研究』第 28 号等)。このような紙質は、王権掌握者の権威を誇示する手段であることは言うまでもない。しかし、それだけではなく他方、厚くて大きいということは、丈夫であるということでもあり、公験として長期に保存しなければならない文書にとっての必須要件でもあるのだから、一義的に王権の権威性にのみ帰すのは一面的と言わざるを得ない。また、公験文書に用いる料紙は厚くて大きくかつ上質とはいうものの、どの程度厚く大きく、どの程度上質の紙質であるのか、そしてそれがどのような種類の料紙であるのか、どのような分類名称で呼ぶべきかについては、それぞれの公験文書の性質と密接な関連があるわけであり、それぞれ区々であるといわなければならない。

たとえば、太政官符・太政官牒は天皇の政務を補佐する公卿の連合組織である太政官の発給する文書であり、その料紙は公式様文書うちで天皇文書には質的に及ばないものである。院宣・綸旨は政務を握る院・天皇の側近の奉行が発給する文書であるが、これも公卿や殿上人の名義で発給する文書であり、その紙質は院・天皇が直接に出す御宸翰には及ばない。室町殿御判御教書は政務を握る為政者が自身の署判を据えて出す最高文書であるが、その紙質は前時代における公家政務文書料紙の優雅さに対比して、武家的な剛健さを強調する。豊臣秀吉判物・朱印状も政務を握る為政者が自身で出す最高文書であるが、とくに東アジアの国際情勢を意識して特大な料紙を使用しはじめる。徳川将軍判物・朱印状も豊臣秀吉のそれを引き継いだ料紙を用いるが、徐々に公家を凌ぐ公儀最高文書としてその紙質の品質を向上させていくのである。このように公験文書も紙質は一口に厚くて大きく上質であるといっても、時代によってその料紙の品質上のランクや権威性として強調される料紙の風合いがそれぞれ異なっているのである。公験という共通性からくる(厚くて大きく上質という)連続性の解明も必要ではあるが、それぞれの時代の政務形態や政治局面に対応し

たそれぞれ異なった特色付けがあるという断続面を明らかにすることもまた重要ではあるまいか。

このような公験文書料紙の各時代における特色を区別するにはそれに相応しい料紙の分類名を必要とするが、その料紙の分類名に関わる所論は近年一種の水掛け論の様相を呈しつつある。その食い違いの原因は、料紙の分類名称を文書が発給された当時の歴史的名称に求め、これをもってこれを呼ぶか、あるいは現在の研究者の感覚で捉え直した歴史学の学術用語を定義して、これをもってこれを称するか、という立場上の相違によることが大きい。歴史的名称をもってこれを分類しようとする立場からすると、結論を先に言うようであるが、平安時代後期から鎌倉時代前期までの太政官符・太政官牒および鎌倉時代中期から南北朝時代までの院宣（綸旨は宿紙であることが多いので、ここでは一応検討の対象から除外しておく）は檀紙であり、南北朝時代末期から戦国時代・安土時代までの室町殿御判御教書は強杉原、桃山時代の豊臣秀吉判物・朱印状および江戸時代の徳川将軍判物・朱印状は大高檀紙ということになる。

私たちはこのような歴史的名称を重視する立場に立つものであるが、確かに上島が指摘するように文献資料によってのみ中世近世の文書料紙を論ずるのでは、議論のみが空転し、混乱を引き起こす結果になることが多い。しかし、だからと言って文献資料に現れる料紙の名称からは分類名称は解明できないということにはならないであろう。私たちの研究は、上島の警告に学びながら、料紙に関する文献史料の叙述と伝存文書料紙の調査とを突き合わせることで、その混乱を克服し研究の前進を図ろうとしてきたのである。しかし、文献史料の叙述と伝存文書の料紙との突き合わせるという実証は、十分にできているわけではなく、研究成果はまだまだ不十分である。この研究方法は大変難しいことかもしれないが、文書料紙の歴史的解明のためにはこれを成し遂げなければならないし、また可能なものと考えている。このような立場に立脚して私たちは平成4年度から6年度まで初めて科研費総合研究（A）を得て共同研究を行い、平成7年に『古文書原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究』という研究成果を発表した。これは、私どもとしても十分な研究成果が得られたものであるとは考えておらず、研究の中間報告のつもりであったが、これに対し上島から痛烈な批判（「檀紙・引合・杉原考—中世の紙に関する研究の動向—」『和紙文化研究』第8号）を頂戴した。それはまさに私たちの未熟な点を鋭く突いたものであり、それらの批判点は甘んじて受け入れなければならないものも多々あると考える。そのため、当該科研『紙素材文化財（文書・聖教・典籍・絵図）の年代測定に関する基礎的研究』の15年度から17年度までの分の報告では、前科研で歴史的料紙分類の定義を示していないという上島の根本的な批判に応える意味もあって（本当の目的はこれからの新しい料紙研究

者と生産的な議論を行っていくための試論として)、「紙素材文化財の料紙判定法について」という表題で、料紙の歴史的分類名称である檀紙・引合・杉原紙・強杉原・大高檀紙・奉書紙・美濃紙等の素材・製法の特徴を分析することにより、それぞれの紙種についてその定義を試みてみた。その内容はここでも再度徐々に後述していくが、これで最終的な結論が出たとは思わないものの、ひとつの叩き台を提出できたのではないかと考えている。私どもは、上島のように料紙の歴史的分類名称は解明できないという立場は取らないないし、上島の歴史的名称をさし措くところの体系論には、このさきの文書料紙研究をさらに前進させうるものになるとはもはや感じられないのである。

しかし、そうは言っても上島の業績には無視してはならない論点が多々ある。そのうち本論と密接に関係するものに「檀紙論」があるが、それは、檀紙の時代的な変遷過程の見通しを述べたもので、檀紙に限定したものではあるが、いわば公験料紙の時代的な断絶面を追及したものとして注目すべきものである。上島の説くところによれば、檀紙は次のように変遷したという(「檀紙について」上・中・下『古文書研究』第33・34・35号)。

「中世で一般に檀紙といわれるのは、鎌倉末から南北朝末・室町時代にかけての公験になる院宣あるいは御判御教書などにみられるやや茶色味を帯び、がさがさした厚い料紙である」として、鎌倉末から南北朝末・室町時代にかけての檀紙を檀紙Ⅰと称している。それ以前の公験料紙については、「平安時代以来の良質の料紙を広く檀紙といってもよいが、本稿では厳密な意味での檀紙と区分して、それを奉書Ⅰ・Ⅱとよぶことにする」、あるいは「奉書Ⅰあるいは奉書Ⅱは、いずれもしなやかで表面がすべすべして上品な感じがする」として限定をつけながらも、檀紙の範疇から除外して、これを奉書Ⅰあるいは奉書Ⅱとしている。戦国時代以降については、「戦国時代から江戸時代初期の檀紙になると、かつてのものとは少し異なり、それ(檀紙Ⅰ)より質が落ち厚さも薄くなり、ぶよぶよした感じのものとなる。それとともに部分的に自然に横にシワがみられるようになる。(中略)一般に大高檀紙といわれるものがこれである」として、ほぼ室町義晴の御判御教書から徳川家光の朱印状までの公験料紙を、檀紙Ⅱa(大高檀紙a)とよんでいる。また、徳川家綱の寛文印知以降幕末まででは、「この自然のシワがさらに一歩進むと、人工的に横にシワをつけるようになる。人工的につけられたものであるから、紙面一杯に整然としたシワが見られる」として、この時期の公験料紙を檀紙Ⅱb(大高檀紙b)とよんでいる。しかし、家綱寛文印知以降のうちでも、「家綱・綱吉段階の檀紙Ⅱbは、厚くて品があり、もっとも引き締まった感じがする。次の吉宗の時代になると、人工のシワがさらに細かくきれいになるが、前代の引き締まった感じはなくなり、ふわふわとして腰が弱くなる。それとともに色も純白に近くなり、(中略)さらに漸次腰が弱くなり幕

末におよぶ」として、その中に画期を指摘している。さらに、家綱以降では、公帖等の料紙では、「シワがなくなり、厚さも厚くなる。(中略)それとともに腰がしっかりしてきて、細かい目の詰まった堂々たる檀紙がみられるようになる」として、これを檀紙Ⅲ（上島は大高檀紙と捉えないようである。筆者注）と称している。この檀紙Ⅲは、「おそらく檀紙Ⅰと材料・製法はほとんどかわらないと考えられるが、近世のものという関係から、檀紙Ⅰに比べると抄紙技術の進歩が見られる。すなわち、檀紙では荒い楮の繊維が残ってがさがさしていたが、檀紙Ⅲでは抄紙技術の進歩にともなって、楮の繊維が細かく叩解され、質が均一になるとともに荒々しさがなくなり、上品な感じのものになる」という。

以上が、上島の檀紙変遷論の概略であるが、公験料紙の変遷論に置き換えて整理すると、平安～鎌倉中期が奉書Ⅰ・Ⅱ、鎌倉末～室町が檀紙Ⅰ、戦国期～江戸が檀紙Ⅱ(大高檀紙)、江戸期の寛文以降に檀紙Ⅲが現われる、ということになる。料紙の形態の数量化や成分観察を欠いた表面観察に終始した所論ではあるが、当否はともかくその画期を提示された問題意識と調査努力とには心から敬意を表したい。そして、上島と生産的な議論をすることは学界の利益になるであろうし、氏に対する礼儀でもあると考える。

この論考では、平安時代後期から江戸時代までの、私どもが檀紙・強杉原・大高檀紙と考える公験料紙について、その素材や製法の特徴とその変遷を追うことにより、上述した上島の公験料紙の変遷に関する見解との相違点を明らかにしてみたい。素材から見ればこれらは全て楮を主原料とする楮紙ではあるが、非繊維物質を徹底的に洗い落した純粋な繊維だけで紙を漉き上げるか、態と非繊維物質を多く残して漉き上げるか、あるいは非繊維物質の洗い流しは適当にして添加物として米粉を配合してこれを漉き上げるか、そのいずれかによって異なった風合いの料紙が出来上がる。また、料紙の表面を滑らか仕上げるか、粗く仕上げるか、ふっくらと仕上げるかによっても、打紙・襷紗紙・強紙と呼ばれるまた違った風合いの料紙となる。これらは素材の精選や添加物の有無、使用する簀簾、乾燥法などによってこのような区別された風合いの料紙を作ることができるのである。ここでは、平安時代後期から江戸時代末期までの公験文書料紙について、檀紙・強杉原・大高檀紙という分類名称をひとまず差し置いて、これらに分類される紙がどのような素材や製法で造られているのか、伝存の公験文書料紙について年次を追って、その数値データを計測しながら、またその繊維組成を顕微鏡によって観察し、それぞれの時代の公験文書料紙の特徴と変遷を提示してみたい。

このような問題設定で研究を行なうためには、平安時代後期から江戸時代までの太政官符・太政官牒・院宣・室町殿御判御教書・豊臣秀吉領知判物・徳川将軍領知判物について年次を追って調査する必要がある。しかしながら、本科

研では、諸般の事情で今までのところこのような網羅的な調査は行われていない。ある程度の粗い間隔のデータはあるにはあるものの、年次を追った形のものはいまだ示せる段階には至っていない。それは次の科研の課題でもあるが、そこでここでは次善の策として、15年度から19年度までの科研の期間に調査対象とした東寺百合文書のうちの宮中真言院後七日御修法請僧交名と東福寺文書のうちの公帖とを素材としてこれを検討し、その文書料紙がどのような素材や製法で造られているのか、年次を追う形での料紙の数値データと繊維組成の顕微鏡観察による所見とを明らかにしてみたい。

東寺百合文書に伝存している真言院後七日御修法請僧交名は、最も古い天仁3年(1110)から最も新しい宝永8年(1711)まで、途中紛失したと思われる1211年から1261年までの50年程と、御修法が中断された15世紀中ごろから17世紀初期までの150年程とを除いて、毎年のそれが確認される。したがって、この真言院後七日御修法請僧交名の料紙を対象にして、平安時代後期から室町時代中期までについては、逐年の料紙調査がほぼ可能なのである。また、東福寺公帖は、延徳3年(1491)の自悦守懌を安芸国永福寺住持に任命する室町義材公帖を初見として、弘化4年(1847)の周良西堂を東福寺住持に任命する徳川家慶公帖まで、断続的に232通の公帖が残されている。したがって、この東福寺公帖の料紙を対象として、戦国期から江戸末期までの数年間隔での年代変化の追跡が可能なのである。そして、この2つの資料をあわせて考察すれば、公験料紙の計測・観察データについて、13世紀の50年程と15世紀後半が30年程とはその空白が免れないものの、平安後期から室町中期までは毎年の、戦国期以降ではほぼ10年の以下の間隔で料紙データの採取が可能であり、公験料紙的文書の変遷を考えることができるのである。

1. 真言院後七日御修法請僧交名の伝存形態と料紙計測観測データ

厳密に言えば、真言院後七日御修法請僧交名は公験ではないし、また為政者が発給した文書ではない。むしろ、作成主体である東寺のもとに残された記録であるから、公験文書の料紙調査の代用にはならないという批判もあるかもしれない。しかし、まず一般に公験を得るために提出される申状の類は、公験と同質の料紙が用いられることが多いということを指摘しておきたい。これは提出先である為政者に対する礼儀として厚く大きく上質の料紙を使用したのであろうし、また場合によってはこのような上申文書は公験に添えられる「本解」として転用されることもあるからであろう。宮中真言院で行われる後七日御修法の記録(日記の類としての「年記」である、書出が「〇〇年 真言院後七日御修法請僧等事」で始まる)である請僧交名も、その写しが国家祈祷の報告と

して天皇ないし政務である院に提出されるものであろうから、その報告は為政者に対する礼儀として厚く大きく上質の料紙を使用しなければならなかったものと考えられる。しかし、いまここで取り上げる後七日御修法請僧交名は、東寺長者ないし東寺執行の許に保管されてきた日記（裏面は開白日と結願日の日記となっていることが多い。裏面は公家への報告には必ずしも相応しくない内容もあるので、この部分は報告用では省略された可能性が高い。）であり、公家に提出された報告用写本と同質の料紙とはいえないかもしれない。確かにいくつかの年次における一部の料紙を見ると、報告用写本ではおそらくもっと上質のものを用いたであろうと思われるものもないではないが、この後七日御修法は真言宗の最重要法会であり、後七日御修法請僧交名は宗派の重要記録として寺内に永く保存する必要があったであろうから、全般的には概ね公家に提出したものと同質ないしそれに次ぐ紙質の料紙をこれに用いていると考えてよいのではないかと思われる。したがって、いずれ改めて公験として用いられている太政官符・太政官牒・院宣・室町殿御判御教書にあたって比較検討をする必要はあるが、今回はこの後七日御修法請僧交名をもって室町時代中期までの公験料紙の検討材料とすることが可能だと考える。

なお、この節における後七日御修法請僧交名の料紙の検討は、伝存している天仁3年(1110)から宝永8年(1711)までを扱うが、この検討の結果得られる公験文書料紙についての推察は、室町時代に中断した長祿4年(1460)までに限定し、それ以後の公験文書料紙についての推察は、第2節で行う東福寺公帖の考察に委ねることとしたい。なぜならば、元和9年(1623)年以後に再興された真言院後七日御修法請僧交名の料紙は、毎年書かれたものではなく、ある一時期にまとめて写された可能性が否定できないからであり、公験文書よりはっきりと劣る料紙を用いているものが少なくないからである。

さて、まず真言院後七日御修法請僧交名料紙の調査について、その概要を述べてみる。料紙のデータは、次のように計測・観測した。まず、料紙の大きさを示すものとしてその平面積を数値化できるように縦寸法と横寸法を計測（単位 mm）した。そして、縦と横との対比の変遷をみるため、縦寸法と横寸法との比率を計算した。また、大きさというか迫力を示すものとしてシックネスゲージを使用して料紙の厚みを測定（単位 10μ ）した。幸いなことに真言院後七日御修法請僧交名には裏打ちが一切なかったことが厚み測定を可能にしてくれたのである。なお、厚みは天地それぞれ5か所合計10か所を計測し、その平均値をもってその料紙の厚みとした（卷子であるため袖と奥は計測不能）。通常はさらに料紙の迫力を示すものとしてその重さを量るところであるが、この後七日御修法請僧交名は最大50紙程の卷子に仕立てあるので、1紙ごとの重量の計測は不可能であった。縦横寸法・厚さ・重さが揃っていると密度が計算でき、

その密度の数値によって紙の組成が推測できるのであるが、この交名については残念ながら重量を測れることができないため、密度の算出についてはこれを断念しなければならなかった。

次に料紙の表面の風合いをうかがう材料として、簀目が紙の表裏のどちら側にあるか、簀目の太さ（1寸あたりに何本の簀目が確認できるか）、簀目の目立ち具合、糸目の目立ち具合、糸目と糸目との幅（単位mm）、板面が紙の表裏のどちら側にあるか（反対に刷毛面の表裏も）、繊維束の多少等を測定・観察した。簀目の目立ち具合・糸目の目立ち具合・繊維束の多少はどうしても主観的な判断になるのは仕方のないところであろう。さらに紙の原料・製法を判定するため、100倍の顕微鏡による透過光観察を行った。繊維の太さ、繊維の密集度、非繊維物質の残存状況、米粉や白土などの添加物の有無・多少を観察するためである。以上のような計測・観察データを一覧にしたのが、表1「真言院後七日御修法請僧交名料紙データ」である。

表1の「縦寸法」欄に示した縦寸法について年代順の変化をみるため、図1のような「後七日御修法請僧交名料紙縦寸法の年代変化」という折線グラフを作成してみた。このグラフからみると、この真言院後七日御修法請僧交名の料紙は、12世紀初期の320mmから13世紀初期の340mmまで漸増していることが確認できる。このあと50年のブランクがあり、13世紀後半に入って360mm前後になるから、この漸増傾向は13世紀後半の360mmまで続くと考えた方がよいであろう。13世紀後半は360mmから330mmまで急減するが、14世紀には330～380mmの間を高下しながら、15世紀初めに340mm前後に落ち着く。江戸期には大きな変化をみるが、江戸時代の公験料紙の検討は第2節の東福寺文書で行うから、ここでは問題から除外しておきたい（以下の考察においても、ここでは江戸時代のデータについては考察を保留しておきたい）。図2の「後七日御修法請僧交名料紙横寸法の年代変化」は、表1の「横寸法」欄に示した横寸法について年代順の変化をみた折線グラフである。12世紀初めの580mmから14世紀初めごろの550mmへと漸減しているが、14世紀の間には500mm以下から600mmを超えるものまでの振幅で大きい変動を見ながら、15世紀初めには560mmぐらいに落ち着くようである。

図3の「後七日御修法請僧交名料紙面積の年代変化」は、表1の「面積」欄に示した面積について年代順の変化をみた折線グラフである。面積でみると縦寸法と横寸法との変化にも関わらず、12世紀前半から15世紀中ごろまで0.16㎡から0.22㎡の範囲で変動しながら漸増し、15世紀末には0.19㎡前後に落ち着くように見える。図4の「後七日御修法請僧交名料紙縦横比の年代変化」は、表1の「縦横比」欄に示した縦横比について年代順の変化をみた折線グラフである。12世紀初めの1.8倍から13世紀中ごろの1.6倍に漸減し、13世紀後半

から 15 世紀中頃までは 1.6 倍で横這いとなる。因みに、この 1.6 倍はまさに黄金比に近い数値である。白銀比に近いといわれる 1.4 倍ほどに減少する江戸時代も視野に入れると、時代が下がるほど縦の比率が高くなるといわれる説を裏付ける結果となっている（上島有「古文書料紙について(1)一文書料紙の縦横の比率をめぐって一」『古文書研究』27号）。

図5の「後七日御修法請僧交名料紙厚みの年代変化」は、表1の「厚み」欄に示した厚みについて年代順の変化をみた折線グラフである。12世紀から13世紀初めまでは 220μ 前後であるが、13世紀後半から15世紀初頭にかけて 280μ から 500μ までの幅で上下があるものの、平均的に 350μ 程に急に厚みを増している。15世紀前半から中頃では、平均 270μ 前後に薄くなっていることがわかる。

図6の「後七日御修法請僧交名料紙簀目目立の年代変化」は、表1の「簀目立」欄に示した簀目の目立度について年代順の変化をみた折線グラフである。簀目が顕著に見えるものが5、やや目立つものが4、目立たないが透かすとはっきり見えるものが3、目立たないものが2、微かにしか見えないものが1、全く見えないものが0としている。12世紀から14世紀前半までは1から3までのランクで、平均してほぼ2ランクであり、あまり簀目が目立たない。これに対し、14世紀後半から15世紀中期にかけては4ないし5ランクと、簀目が目立とももの変わっていることがわかる。図7の「後七日御修法請僧交名料紙簀日本数の年代変化」は、表1の「簀日本数」欄に示した1寸当たりの簀日本数について年代順の変化をみた折線グラフである。12世紀から14世紀前期までは12本から14本で平均13本であるのに対し、14世紀中ごろから15世紀中ごろまでは10本から12本で平均11本となる。この変化は簀目の目立度の変化とほぼ対応しているようである。

図8の「後七日御修法請僧交名料紙糸目立の年代変化」は、表1の「糸目立」欄に示した糸目の目立度について年代順の変化をみた折線グラフである。これも簀目の目立ち度と同様に、糸目が顕著に見えるものが5、やや目立つものが4、目立たないが透かすとはっきり見えるものが3、目立たないものが2、微かにしか見えないものが1、全く見えないものが0としている。このグラフによれば12世紀から15世紀中頃まで全く見えないものが多く、見えても微かに分かる程度ということになる。これは江戸時代の料紙の一部が2ないし4程度の目立ち度を示しているのと非常に対照的である。図9の「後七日御修法請僧交名料紙糸目幅の年代変化」は、表1の「糸目幅」欄に示した糸目と糸目の間の距離について年代順の変化をみた折線グラフである。0であるのは糸目が見えないため計測不能なものを示す。計測不能なものが多いが、見えるもので見ると、12世紀から14世紀前半までは20数mmから30数mmまでで平均30

mmぐらいである。14世紀後半から15世紀中頃では30mmから40mmまでのはばがあり、平均すると35mmぐらいに拡大するようである。

図10の「後七日御修法請僧交名料紙米粉量の年代変化」は、表1の「米粉量」欄に示した填料として加えられている米粉の量について年代順の変化をみた折線グラフである。米粉の量については江戸時代の奉書紙にはいっているくらいの量（比率）を10、南北朝の杉原紙にはいっている程度を6、全くはいっていないものを0として、10ランクに表示してみた。これをみると、12世紀から14世紀中ごろまでは2から6ランクまでに上下しながら、4ランクに最も集中している。14世紀後半から15世紀中ごろまでは0から1ランクに集中していることがわかる。このころに米粉をほとんど入れない料紙を使用していることを示している。

図11の「後七日御修法請僧交名料紙非繊維物質の年代変化」は、表1の「非繊維量」欄に示した非繊維物質の量について年代順の変化をみた折線グラフである。料紙は原料である楮皮の構成要素のうち繊維を取り出し漉き上げるものであるが、繊維以外の非繊維物質については叩解・水洗・塵取によって極力排除することができる。しかし、手間を省けば、これらの残存比率が高まり、料紙の品質を低下させるとともに経年変化で黄ばんだものとなる。しかし、非繊維物質の残存率がある程度多いものは締まった丈夫な紙となるため、意識的に非繊維物質を残した紙種もある。これも多分に主観的判断となるが、顕微鏡の透過光観察によって非常に多いものが5、やや多いものが4、残存が容易に確認できるものが3、少ないものが2、微かに残されているものが1、全くないものが0としている。このグラフを見ると、12世紀から14世紀前半までは1ないし3ランク、14世紀後半から15世紀中頃までは3ランクに集中している。前時代の方が、非繊維物質を除去しようとする努力がなされていることが窺える。

図12の「後七日御修法請僧交名料紙繊維束量の年代変化」は、表1の「繊維束量」欄に示した叩解されない繊維の束や漉舟の中で絡み合った繊維溜の量について年代順の変化をみた折線グラフである。これは繊維束・繊維溜が非常に多いものが5、やや多いものが4、中世文書の平均的な量のものが3、少ないものが2、わずかなものが1、全くないものが0としている。これをみると、繊維束・繊維溜の量は、12世紀から15世紀中ごろまで、1から5まで大きなばらつきを持ちながら、平均3程度で推移している。ほぼ3程度の繊維束・繊維溜がこの料紙には普通だったのであり、このような現象をみると、繊維束はおそらく生産効率というより、意識的に残していたのでないだろうか。

以上、後七日御修法請僧交名料紙の各々の計測・観測データについて、12世紀から15世紀中頃までの年代的な変化を検討してみた。その結果、ある観点から見ると13世紀中頃に、また、別の視点から見ると、14世紀中頃以降あたり

に、それぞれ何らかの画期が認められるようである。そこで、次に 12 世紀から 15 世紀中頃までの年代的な変化を便宜的に (a) 12 世紀から 14 世紀中頃までの時期と、(b1) 14 世紀中頃から 15 世紀中頃までの時期に分けて考えてみることにする。さらに、(a) 12 世紀から 14 世紀中頃までの時期を 13 世紀中頃で分け、12 世紀から 13 世紀中頃までを (a1) の時期、13 世紀中頃から 14 世紀中頃までを (a2) の時期と定義しておく。

まず、(a) 12 世紀から 14 世紀中頃までの時期であるが、13 世紀中頃より以前(a1)の時期とそれより以後(a2)の時期との料紙の縦横寸法・面積・縦横比・厚みなど料紙の大きさおよび形を比較してみる。例えば(a1)13 世紀中頃以前の例である表 1 の 74 番の建久 3 年(1192)後七日御修法請僧交名は、縦横寸法がそれぞれ 340mm・580mm、面積 0.1972 m²、縦横比 1.71、厚み 246 μ である。これに対し、(a2)13 世紀中頃以後の例である表 1 の 97 番の文永 3 年(1266)後七日御修法請僧交名は、縦横寸法がそれぞれ 350mm・567mm、面積 0.19845 m²、縦横比 1.62、厚み 410 μ である。この両者は、面積はほぼ同じであるが、(a1)前者は、(a2)後者に対し縦がより短く、横がより長くなっており、その結果として、縦横比が、前者で 1.71 なのに対し、後者で 1.62 というように縦長になり、相違が生じている。また、厚みは、前者が 246 μ なのに対し、後者は 410 μ と 1.5 倍以上の厚みとなっている。このような 14 世紀中頃以前における文書料紙の縦横寸法・縦横比と厚みの変化は、図 1 縦寸法年代変化・図 2 横寸法年代変化・図 4 縦横比年代変化・図 5 厚み年代変化のグラフからも読み取れるように、13 世紀中頃を境とすると見做してよいようである。この文書料紙の縦横寸法と厚みに変化が見られる 13 世紀中頃は、ちょうど中世的院政親政政治体制が確立する後嵯峨院政期にあたり、新政治体制の整備とその政治体制が発給する公驗文書料紙の大きさ・形の面での形態変化とが連動しているように思われる。

ところが、紙質をあらわす簀目・糸目・米粉・非繊維物質に関わるデータで見ると、(a1)13 世紀中頃以前の時期の例である表 1 の 74 番の建久 3 年(1192)後七日御修法請僧交名は、簀目の目立がランク 2、簀日本数 13 本、糸目の目立がランク 0、米粉の添加ランク 4、非繊維の残留量がランク 3、繊維束の量がランク 1 である。これに対し、(a2)13 世紀中頃以後の時期の例である表 1 の 97 番の文永 3 年(1266)後七日御修法請僧交名は、簀目の目立がランク 1、簀日本数 13 本、糸目の目立がランク 0、米粉の添加ランク 3、非繊維の残留量がランク 1、繊維束の量がランク 3 である。両者は、料紙の大きさ・形・厚みを表すデータと異なり、ほぼ似通った数値・データを示している。すなわち、両者ともに、非繊維物質を比較的良好に洗っている繊維に少し米粉を填料として加え、1 寸当たり 13 本の太い萱簀で漉きながら簀目や糸目が余目立たない紙であり、これは両者ともに檀紙という紙種であることが確認できる(富田正弘「紙

素材文化財の料紙判定法について」平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究 A）研究成果報告書『紙素材文化財(文書・典籍・聖教・絵図)の年代推定に関する基礎的研究』。非繊維物質が少なく、米粉を多少加えているため、厚目のものでも少し柔らかい感じがする。このように(a)12 世紀から 14 世紀中頃までの時期の料紙については、13 世紀中頃に、縦横寸法・縦横比や厚みに変化が見られるものの、紙の種類としては、13 世紀中頃の変化が見られず、(a)12 世紀から 14 世紀中頃までの時期を通して檀紙が用いられているということが出来る。もちろん、この東寺に残された後七日御修法請僧交名は、朝廷に提出する料でなく、寺内に留めるものであったので、まま杉原紙や強杉原などで書かれているものもあるが、それでも大半は檀紙という同種の料紙を用いることが確認できるのである。

次に、(b 1)14 世紀中頃から 15 世紀中頃までの時期の後七日御修法請僧交名料紙について、その大きさに関するデータをみると、例えば表 1 の 226 番の応永 3 年(1396)後七日御修法請僧交名は、縦横寸法がそれぞれ 345mm・549mm、面積 0.189405 m²、縦横比 1.59、厚み 388 μ である。これらのデータの値は、先に見た(a2)13 世紀中頃以後から 14 世紀中頃までの時期の例である表 1 の 97 番の文永 3 年(1266)後七日御修法請僧交名の値、縦横寸法がそれぞれ 350mm・567 mm、面積 0.19845 m²、縦横比 1.62、厚み 410 μ とさほど変わらない。つまり、大きさ・厚みから見れば、(a2)13 世紀中頃から 14 世紀中頃までのものと、(b1)14 世紀中頃から 15 世紀中頃までの後七日御修法請僧交名の値はほぼ同じなのである。しかし、応永 3 年の後七日御修法請僧交名について紙質をあらわす簀目・糸目・米粉・非繊維物質に関わるデータの値をみると、簀目の目立がランク 5、簀日本数 11 本、糸目の目立がランク 1、米粉の添加ランク 0、非繊維の残留量がランク 3、繊維束の量がランク 5 である。これらの値は、さきに挙げた(a2)13 世紀中頃以後の時期の例である表 1 の 97 番の文永 3 年(1266)後七日御修法請僧交名は、簀目の目立がランク 1、簀日本数 13 本、糸目の目立がランク 0、米粉の添加ランク 3、非繊維の残留量がランク 1、繊維束の量がランク 3 とは、かなりの差異が認められる。すなわち、(a) 12 世紀から 14 世紀中期までの時期の料紙である檀紙と、異なる料紙であることがわかる。この(b1)の時期にあたる応永 3 年の後七日御修法請僧交名は、そのデータ値からすると、非繊維物質や繊維束を多く残存するものの、米粉等の填料をもほとんど加えずに漉いた硬い紙であると、判断できるのである。檀紙よりも太目の、1 寸当たり 11 本という太い萱簀で漉いているため、簀目が自然に皺を成し、非繊維物質が多いため繊維結合を強くし硬い紙を成し、経年変化で黄ばんだ紙となる。これが、ごわごわした感じがする強紙の強杉原という紙である（富田正弘「紙素材文化財の料紙判定法について」『本科研 15-16 年度報告書』）。図 6 簀目目立年代変化・図 7

簀目本数年代変化・図 10 米粉量年代変化・図 11 非繊維物質年代変化・図 12 繊維束量年代変化のグラフをみても、(b1)14 世紀後期から 15 世紀中期までの期間の後七日御修法請僧交名では、檀紙や杉原紙と思われる料紙も若干見受けられるが、大方応永 3 年の後七日御修法請僧交名のような強杉原が用いられているということが出来る。つまり、(a) 12 世紀から 14 世紀中頃までの時期の檀紙とは異なる紙種が用いられているのである。

なお、江戸期の後七日御修法請僧交名は、表 1 の料紙分類欄に示したように、その料紙は、紙種として大高檀紙・奉書紙・細皺大高等が用いられている、としている。しかし、前述したようにこれら江戸期のものは、毎年作成されたものではなく、何年か分をまとめて書き上げた形跡が認められる。(a1)(a2)(b1)の時期のものが、毎年その後七日御修が済んだ直後に朝廷へ報告した報告書の控えであり、かつ真言宗の重要法会の直接的記録であるのとはことなり、これらはその闕分を後に写した可能性が否定できないので、その分析・考察は、ここでは行わないことにする。

以上、後七日御修法請僧交名料紙の時代的変遷について考察したが、これが公験文書料紙の時代的変遷と相似するとすれば、12 世紀から 15 世紀半ばまでの公験文書料紙は次のように変遷したとまとめることができる。(a)の時期の 12 世紀から 14 世紀半ばまでは、楮紙の繊維を程ほどよく洗い、洗い足りないところは米粉少量を填料として加え補なって抄紙する「上品なすべすべした」檀紙を用い、(b1)の時期の 14 世紀半ば以降から 15 世紀半ばまでは、主として、楮紙の繊維をよく洗わず意識的に不純物を残し、米粉も加えない「荒々しく簀目の目立つ」強杉原を使うようになった。しかし、縦横寸法からみれば、(a)(b1)を通じた時期、言い換えれば檀紙あるいは強杉原が主流のそれぞれの時期を通じて、14 世紀半ば（後嵯峨院政の確立）が画期で、縦寸法では、(a1)であるその画期以前が 320mm から 360mm へ漸増過程、(a2)と(b1)であるそれ以後が 340mm への収束過程であり、横寸法は、(a1) (a2) (b1)を通して 580mm から 550mm への漸減過程であるが、結果として、縦横比は、(a1)であるその画期以前が 1.8 から 1.6 への漸減過程、(a2)と(b1)であるそれ以後が 1.6 前後の黄金比に定着する時期ということが出来る。厚みからみれば、これも、紙種が檀紙・強杉原に関係なく、14 世紀半ばが画期で、(a1)であるその画期以前が 220 μ であったものが、(a2)と(b1)であるその画期以後は 350 μ ほどに急に厚みを増していることがわかる。つまり、14 世紀半ばを境に、公験文書が重量感を増すことが確認できる。なお、強杉原に関しては、15 世紀初めから厚みが 300 μ 弱に減ずる傾向にあるが、これについては、2 節で検討を加える。

2 東福寺公帖の文書形態と料紙計測観測データ

つぎに東福寺に所蔵されている公帖であるが、これらは東福寺派の禅僧の住持補任状であり、十刹・諸山住持の補任状、東福寺さらには南禅寺の住持の補任状を含む。すなわち、五山・十刹・諸山の住持職の任命状であり、土地の利権を保証する公験とは異なるが、官寺長官の任命状として寺院の支配権を保障する文書であり、室町殿はこれに荘園領主の安堵状と同じ御判御教書形式の文書でもって、豊臣秀吉・徳川将軍はこれに領知安堵と同じように判物・朱印状・黒印状形式の文書をもってこれを与えている。したがって、東福寺公帖の料紙を検討することは、公験文書のそれを検討することと同じことになるものと考えるのである。もちろん、これもまた後日公験として用いられている室町殿御判御教書・豊臣秀吉領知判物・徳川将軍領知判物にあたって比較検討をする必要があることは言うまでもない。

東福寺伝来する公帖は、応仁の乱以降昭和初期に至る約 450 年間に 232 通にのぼる。室町将軍家・豊臣閔白家・徳川将軍家・明治天皇などの公権力から出されたものの外、東福寺を創建した九条道家の後裔にあたる九条家当主から出されたものも含む。九条家公帖については厳密には公権力からものでないので、これはのち程比較材料として検討するとして、ここでは明治天皇綸旨（公帖）を除く前近代の室町将軍家公帖・豊臣閔白家公帖・徳川将軍家公帖の正文 208 通を検討材料とする。表 2 の「東福寺公帖様式表（その 1）」は、室町将軍家・豊臣閔白家・徳川将軍家公帖の正文についてその様式に関する調査データを中心に示した表である。データの配列は、公帖の日付順で、「番号」欄は東福寺文書目録の番号を、「年」・「月」・「日」の欄は公帖の日付を、「西暦」の欄は公帖日付の西暦換算数値を、「文書名」の欄は発給者を主体として命名した文書名を、「差出」の欄は差出書の官途部分を、「印判」の欄は差出書の署判部分について花押・朱印・黒印の別を、「包紙」の欄は懸紙（封紙・立文）の有無およびその表書の表記を、「充名」の欄は公帖本紙の充名表記を、「僧名」の欄は「充名」の僧侶の道号・僧名（実名）を、「住持」欄は公帖でその住持に任じられた寺院名を示す。この表の「年」・「月」・「日」・「西暦」の欄から、現在東福寺に伝存する公帖の最も古いものが延徳 3 年(1491)の室町義材公帖、最も新しいものは弘化 4 年(1847)の徳川家慶公帖であり、この間ほぼ 10 年未満の間隔で公帖が発給され伝存していることがわかる。これらの公帖は、戦国期から江戸末期までの 350 余年間にわたる公帖料紙について、その年代変化を覗うのに格好の材料を提供してくれる。

東福寺に残されている公帖は、東福寺派（聖一派）禅僧の住職補任状であると考えられるが、表 2 の「住持」欄についてその内訳をみると、東福寺住持補

任が 36 通のほか、南禅寺住持補任が 18 通、真如寺住持補任が 75 通、禅興寺住持補任が 1 通、その他の諸山住持補任が 78 通である。表 2 について「僧名」欄初出の年代順を維持しながら、「僧名」の同じ公帖のデータを集合させたものが表 3 の「東福寺公帖様式表（その 2）」である。これをみると、東福寺所縁の禅僧の出世コースについては、諸山の地方禅寺の住持から十刹の京都真如寺・鎌倉禅興寺（1 例のみ）の住持を経て、五山の東福寺の住持となるもののようである。そして、東福寺住持を経験した僧の一部の者がしばらくしてから五山の上の南禅寺住持に転出する、というものであるらしい。安芸永福寺・壱岐海印寺・摂津光雲寺・伊勢安養寺・出雲華蔵寺・加賀安国寺・三河長興寺等の地方諸山禅寺住持補任、そして真如寺・禅興寺の十刹住持補任は、東福寺住持に昇進するために一時的に席を置くもので、実際には本人が赴任しないものであったものであろう。このような住持職補任の公帖を坐公文といい（今枝愛真『中世禅宗史の研究』）、東福寺に居ながらにして公帖を受取り、これらが東福寺に残されたものと考えられる。東福寺住持補任の公帖が東福寺に残されているのは説明する必要はないが、南禅寺住持補任の公帖が東福寺に伝存するのは、その公帖が本人の没後にその弟子の許に伝えられてきたためであろうか。

実際、表 2 に見える南禅寺住持補任の公帖 18 通のうち、当該被補任僧についての東福寺住持補任公帖も合わせ残されている僧のものが、16 通である。あとの 2 通のうち、慶長 9 年に南禅寺住持に補任された友月龍珊のものについては、天正 17 年の摂津光雲寺住持と同年の真如寺住持にかかる坐公文が東福寺に残り、後述するように別に慶長 4 年の東福寺住持補任の九条家公帖も残されているから、友月龍珊も東福寺住持歴任後に南禅寺住持に転出したことが確認できる。寛永 16 年に南禅寺住持となった棠陰玄召も、東福寺住持補任の公帖は残っていないが、『読史備用』東福寺住持歴代の条に 235 代住持としてその名が挙げられている。以上のように、表 2 に見える南禅寺住持補任の公帖 18 通の被補任者は、いずれも東福寺住持を経たのちに南禅寺に転じた僧であることが確認でき、東福寺に残る南禅寺住持補任公帖は、全て東福寺住持歴任後に南禅寺住持となった僧のものばかりと言いうる。

表 3 の「東福寺公帖様式表（その 2）」を公帖で各寺住持に補任された僧名別に整理し直したものが、表 4 「東福寺派僧侶住持別公帖整理表」である。「諸山禅寺名」の欄は、「道号僧名」欄の禅僧が住持に補任された地方の諸山クラスの禅寺名（ただし、一部は地方十刹も含む）、「諸山公帖充名」欄は、諸山住持を補任する公帖の本紙充名表記、「諸山公帖任年」欄は、その公帖の年紀、「諸山公帖西暦」欄は、その公帖の日付の西暦年号および月日の数値表記である。西暦年号は、最初の 4 桁に西暦年号の数値を示し、前から 5 桁目は、和年号が「元年」ならば「1」、それ以外なら「0」という数値をおいた置数である。前から

6～7桁が月の数値表記で、8桁目には、もしその月が閏月であるならば「5」を、通常の月ならば「0」という数値を置数として置いた。前から9～10桁が、日の数値表記である。「十刹公帖充名」欄は京都真如寺および鎌倉禅興寺住持補任公帖の充名表記であるが、鎌倉禅興寺住持補任公帖は1通のみで*印のついたものである。「住持代数」欄は『読史備用』東福寺住持歴代の条に示す東福寺住持の代数を示す。「東福寺公帖充名」欄以下の「東福寺公帖」とは、公権力が東福寺住持を補任した公帖を、「九条家公帖充名」欄以下の「九条家公帖」とは、東福寺本家の九条家・一条家が東福寺住持を補任した公帖を指す。「**充名」・「**任年」・「**西暦」欄は、「諸山公帖充名」・「諸山公帖任年」・「諸山公帖西暦」欄の説明に準ずる。

表4のように整理をすると、上に述べた東福寺派の禅僧の出世コースが一層明確になる。例えば、44番目の南宗祖辰は、寛文7年(1667)6月7日に徳川家綱公帖で諸山伊勢国安養寺住持に任ぜられ、同年7月17日に同公帖で十刹京都真如寺住持、寛文13年(1773)8月17日に同公帖で五山東福寺住持に補任されている。さらに、東福寺住持補任については延宝4年(1676)4月14日九条兼晴公帖で寛文13年の家綱公帖の補任を再確認している。そして、元禄8年(1696)12月7日に徳川綱吉公帖によって南禅寺住持に補されていることがわかる。諸山安養寺住持補任から十刹真如寺住持補任までの間は僅か40日、真如寺住持補任から東福寺住持補任までは9年余、東福寺住持補任から南膳寺住持補任までが20余年である。それでは、他の禅僧の昇進間隔(速度)はどうであろうか。まず、地方諸山住持補任から京都・鎌倉十刹住持補任までの間隔をみると、天文7年の竹英元龍の例では諸山安芸永福寺住持と十刹京都真如寺住持の補任が同日に行われており、最もそれが短い。間隔が長いものでも、天正11年4月に諸山山城三聖寺住持に補任された文坡令愨は、その12月に十刹京都真如寺住持に補任されており、その間隔は8カ月未満であった。概して、諸山住持補任から十刹住持補任までの間隔は一か月以内であり、諸山住持補任は真如寺住持となるための箔付けのようなものである。次に、京都・鎌倉十刹住持補任から東福寺住持補任までの間隔をみると、文禄5年真如寺住持に補任された文英清韓は慶長5年に東福寺住持に補任されるまでが4年未満であり、これが最も間隔が短い。間隔が長いものでは、寛文13年真如寺住持補任をうけた香林宗寔が、元禄11年に東福寺住持に補任するまでの25年余である。概して、京都・鎌倉十刹住持補任から東福寺住持補任までの間隔は10年前後のものが多い。さらに、東福寺住持補任から南膳寺住持補任までの間隔は、最長のものが、寛文5年に東福寺住持に補任された南宗祖辰が元禄8年に南禅寺住持に補任されまでの22年である。最短のものは、慶長5年東福寺住持になった文英清韓が慶長9年に南禅寺住持となるまでの4年弱である。概して、東福寺住持補任から南膳寺住持補

任までの間隔は、やはり 10 年前後のものが多いようである。このように、東福寺派のエリート禅僧の出世コースは、地方諸山住持を 1 ヶ月ほど経歴して、京都真如寺・鎌倉禅興寺住持となり、10 年前後ののち東福寺住持、そしてそののち 10 年前後で南禅寺住持となるものようである。

さきに述べたように、東福寺住持補任の公帖は、公権力発給のものが 36 通、本家発給のもの 19 通合計 55 通残るが、これらは同一補任案件に公権力と九条家から重複して出されるものなので、住持代数でいうと 38 代分しか残っていない。『読史備用』東福寺歴代住持の条によると、戦国時代から江戸末期までの所載の東福寺住持は 100 余代を数えるから、その代数比率からいけば伝存率は 3 分の 1 程である。東福寺住持は他の五山住持と同様に重任・三任が多いといわれるが、その重任・三任以下の際には公帖発給が省略されているらしい（今枝愛真『中世禅宗史の研究』）。実際、東福寺文書の中には、同一僧侶に対し東福寺住持補任について 2 通以上の公帖を出した例は、公権力発給公帖に関する限り 1 例もない。九条家発給のものでいえば、慶長 5 年 7 月と同年 5 月に文英清韓に対して九条兼孝公帖が 2 通出されているが、その間隔が 3 か月であり、三年二夏（満 2 年）といわれる任期からみて、重任にしては奇妙である。7 月の公帖には花押がないから関ヶ原の合戦をめぐる政治的な事情が介在しているのかもしれない。したがって、重任には公帖が出ないということは、東福寺の例においても確認できるのはなかろうか。『読史備用』東福寺歴代住持の条にも重任の僧を住持代数に数えていないから、さきに述べたように、これら東福寺公帖の伝存率は 3 分の 1 程度と考えることができる。

以上、東福寺文書の受給・伝来の文書について考えたが、つぎにこの受給・伝来に関係する範囲内で充名・差出書・包紙などの様式・形態についても検討しておきたい。室町将軍家・豊臣関白家・徳川将軍家等の公権力から出された公帖については、本紙の折り方が、外折り（文面を外にしておく）する「縦の中折り」であり、さらに充名が最も外側のなるように三つ折りするところの、六つ折りである。包紙の折り方は、「縦の中折り」したのちさらに本紙を三つ折り包みした（場合によっては二つ半折包み、あるいは二つ三分の一折包みした）うえで、折封を加えたものである。書式は、書留文言が「之状、如件」で、日下に位署を、奥下に充名を書く室町殿の（奥上充名をもつ）御判御教書の様式を継承する。

まず、地方諸山住持補任の公帖については、その差出の署名は、表 2 の「東福寺公帖様式表（その 1）」の「差出」「印判」の欄のように、室町将軍家は一部を除いて花押のみ、豊臣関白家は官職（または位階）と花押、徳川将軍家では秀忠・家光が官職（または位階）と花押、家綱の明暦 3 年（1657）までは官職と朱印、家綱の寛文 7 年（1667）までは官職と黒印、家綱の寛文 10 年（1670）

以降幕末に至るまで官職・位階はなく黒印のみが押されている。地方諸山の公帖の充名は、表 2 の「充名」欄のとおり、全時代を通じて僧名に「首座」という役職名が敬称に加えられていることが確認できる。これは、諸山の住持に任ぜられる東福寺僧は首座クラスのものであること示すものである。包紙については、「包紙」欄に「無」そして「**公帖と共包」とあるように、そのほとんどが専用の包紙はなく、平均して一か月以内に発給される十刹住持補任の公帖の包紙に内包されているのである。その状況は表 2 を並べ直した表 3 の「東福寺公帖様式表（その 2）」の「包紙」欄で見ればわかりやすい。つまり、諸山住持補任の公帖は十刹住持補任の際に日付を遡らせて作成され、十刹住持公帖とともに任僧に送られている可能性が高いといわざるをいない。表 3 の「包紙」欄に「異」と表記のある 1 番の延徳 3 年の室町義材公帖（自悦守憚任安芸永福寺住持）、2 番の文亀 2 年の室町義高公帖（茂伯令才任安芸安国寺住持）、24 番の天正 12 年室町義昭公帖（桂庵守広任永福寺住持）、73 番の寛永 8 年徳川家光公帖（牧庵善忠任永福寺住持）、188 番の寛政 6 年徳川家斉公帖（恵運任永福寺住持）の 5 例は、いずれも包紙の充名表記が「**西堂」と書かれており、本紙の充名の「**首座」とは異なっているから、これら 5 通の公帖の本来の包紙ではない。おそらく、その後に補任された十刹住持の公帖の包紙であり、この 5 例の諸山住持補任公帖は、むしろそれぞれその十刹住持補任公帖とともにその包紙と一緒に入れられていた、いわばお客さんだったはずである。それが、のちに十刹住持補任の公帖が失われ、内包されていた諸山補任の公帖のみが包紙に取り残されたものと考えられる。「包紙」欄に唯一「有」とある 73 番の寛永 13 年徳川家光公帖（永周任伊勢安養寺住持）は、十刹住持補任の公帖とセットではなく、諸山住持補任公帖が単独で発給されている珍しい例といえることができる。その包紙の上書きの差出が「従一位（朱印）」であり、本紙の差出書が「従一位（花押）」と署判部分が異なっているが、この花押と朱印の署判の異は、書札札から考えるべき問題であり、本紙と裏紙の錯誤の問題ではない。

次に、十刹である京都真如寺・鎌倉禅興寺住持補任の公帖については、その差出書は、表 2 の「東福寺公帖様式表（その 1）」の「差出」「印判」の欄のように、室町将軍家・豊臣関白家および徳川将軍家の家光までは、官職（または位階）と花押、家綱の寛文 13 年までは官職と朱印、家綱の延宝 6・7 年（1678・9）は官職・位階なしの朱印のみ、綱吉以降幕末までは官職と黒印である。充名は、表 2 の「充名」欄からわかるように、全時代を通じて僧名に「西堂」という役職が敬称として添えられる。このことから、十刹寺院の住持には、西堂クラスの禅僧が補任されていることがわかる。包紙は、前述したように 4 通を除いて自前の包紙を持ち、その中にその直前に補任された諸山住持補任の公帖をも内包している。その包紙の表書は、室町将軍家の公帖では充名部分には本紙

の充名と同じく僧名に「西堂」の敬称、差出部分にはこれも本紙の差出書と同じく官職と花押を書く。豊臣関白家公帖の包紙表書の差出部分では、秀吉の関白時代が本紙と同様に官職と花押、太閤時代は官職と朱印となり本紙の差出書と異なる。徳川将軍家公帖の包紙表書部分は家康・秀忠では本紙差出書と同じ官職と花押であったが、秀忠の元和 8 年(1622)以降は官職と黒印（一部に朱印とあるが要検討）となる。そして、家綱の寛文 10 年以降幕末まで包紙表書の差出部分は書かれなくなるのである。概して、十刹住持公帖の包紙表書は、充名部分は僧名と「西堂」敬称というように本紙と同じであるが、差出部分は豊臣関白家公帖では秀吉太閤時代以降、徳川家公帖では秀忠の元和 8 年以降に本紙より 1 ないし 2 ランク下の署判となるようである（ついでながら、包紙表書差出部分の表記が本紙差出の表記よりも 1 段低いものとなることについては、諸山住持公帖の 1 例のみの例でも確認される）。

また、五山である東福寺住持補任の公帖については、その差出書は、表 2 の「東福寺公帖様式表（その 1）」の「差出」「印判」の欄のように、室町将軍家・豊臣関白家および徳川将軍家の家光までは十刹住持補任公帖とほぼ同じく官職（または位階）と花押（ただし、慶長 2 年の豊臣秀吉公帖のみは太閤・朱印である）、綱吉以降幕末までは官職と朱印へと変化する。十刹住持公帖では綱吉以降に朱印が黒印へと変わるから、東福寺はこの点で 1 ランク上である。充名は、表 2 の「充名」欄からわかるように、全時代を通じてほぼ僧名に「西堂」という役職が敬称として添えられ、これも十刹住持補任公帖とほぼ同じである。ただ 1 例であるが、天正 3 年の室町義昭公帖では竹園玄珪を東福寺住持に補任するのに「玄珪和尚」というように僧名と「和尚」という敬称の組み合わせの充名が書かれている。包紙については、3 通ほどこれを欠くが、必ず東福寺住持補任公帖 1 通のみが包まれていて、他の公帖を内包することはなかったと考えられる。包紙の表書きは、充名部分が本紙充名と同じく僧名と「西堂」「和尚」であり、差出部分は、室町将軍時代で官職と花押、豊臣関白家では官職と花押から官職と朱印に変化し、徳川時代では一旦官職と花押に戻り、秀忠末期から官職（位階）と黒印に変化し、家綱の半ばころから官職も印もない無くなる。家綱以降だけをみると、包紙表書は一見充名・差出ではないように見えるが、時代的な変化をみると、やはり充名・差出であり、差出が省略されたものと考えてよいであろう。包紙の表書については、前述した十刹住持補任公帖とほぼ変わらないようである。

さらに、五山の上である南禅寺住持補任の公帖については、その差出書は、表 2 の「東福寺公帖様式表（その 1）」の「差出」「印判」の欄のように、一時綱吉の時代に官職と朱印で出されているが、それ以外は室町将軍家・豊臣関白家および徳川将軍家を通じて、官職（または位階）と花押である。この点は、

東福寺住持の補任公帖が、家綱以降に官職と朱印に変化することと異なっている。充名は、すべて道号と「和尚」という敬称との組み合わせである。この点も、東福寺住持のあて名が僧名と「西堂」という敬称であったことと相違しているのである。東福寺住持補任公帖で唯一「和尚」という充名のある天正3年の室町義昭公帖では、竹園玄珪を「玄珪和尚」というように僧名と「和尚」という敬称の組み合わせの充名が書かれていて、「竹園和尚」という風に道号と「和尚」の組み合わせではない。和尚クラスのものが東福寺住持となっても、その充名の書き方では差別があるようである。包紙については、欠けているもの2通、南禅寺住持当人が東福寺住持補任の際の九条家公帖に包まれているもの1つのほかは、それぞれ専用の包紙を持つ。南禅寺住持補任公帖も当該文書のみを包み、他の文書は内包していないものと考えられる。包紙表書の充名部分は、道号と「和尚」の敬称であり、本紙充名と同じである。差出部分は、室町将軍家の公帖が官職と花押、豊臣関白家が関白のときの官職と花押から太閤のときの官職と朱印へと変化が見られ、徳川将軍家は家康が官職と花押に戻り、家光から官職と黒印へ、さらに家綱以降は差出部分が省略される。

東福寺公帖の充名・差出書・包紙の有無・包紙の表書等の様式を概観すると、東福寺派禅僧の職階昇進制、諸山・十刹・五山・五山の上の寺格格差、公権力の権威の上昇過程などが窺がえて大変興味深い。このことについては、外のデータと付き合せて、後日さらに詳しく検討をしてみたい。

以上、東福寺公帖の文書形式の考察が長くなってしまったが、いよいよその料紙のデータの検討を行ってみたい。調査項目は、第1節で考察した真言院後七日御修法修僧交名と同じであるが、論考として取り上げることのできるデータ項目に少し違いがある。まず大きな違いは、これら興福寺公帖は、裏打ちも製巻もされていない、初な形を残している文書だったので、一紙一紙の重量を測定でき、したがってまた、その密度を計算できた点である。これは、真言院後七日御修法修僧交名の料紙データにはない有力な客観データが加わったことになる。もう一つの相違は、真言院後七日御修法修僧交名の料紙調査は、筆者が全体にわたって再調査を行ったのに対し、東福寺公帖の料紙調査は数人で分担して調査したあと、統一的な再調査を行っていないという点である。したがって、簀目の目立、繊維束、米粉、非繊維物質等主観的な判断に依らざるをえないデータについては、そのランク付けが不可能であり、参考データとしてしか、扱うことができなかった。その点を、まずお断りしておきたい。

表5「東福寺公帖料紙データ表」は、室町将軍家・豊臣関白家・徳川将軍家公帖の正文についてその料紙に関する調査データを中心に示した表である。データの配列は、公帖の日付順である。データ項目「番号」・「年」・「月」・「日」・「西暦」・「文書名」・「僧名」・「住持」欄は、表2「東福寺公帖様式表（その1）」

と同じである。「紙種」は調査データを基に筆者が判断した料紙の種類、「簀目目立」以下は表1「真言院後七日御修法請僧交名料紙データ」のデータ項目説明と同じである。表1と異なる項目としては、「重さ」・「密度」・「乾燥法」・「干皺」・「皺付法」を載せた。「重さ」は一紙の重量(単位0.1g)、「密度」は重さ÷(面積×厚み)(単位kg/m³)、「乾燥法」は板干か吊干かの区別、「干皺」は吊干と判断できる吊皺の場所等の確認、「皺付法」は紙面に皺をつける方法についての推測を示す。

最初に、客観データである「縦寸法」・「横寸法」・「縦横比」・「面積」・「厚み」・「重さ」・「密度」・「簀日本数」・「糸目巾」の年代変化を考えてみよう。図13「東福寺公帖料紙縦寸法の年代変化」は、表5の「縦寸法」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。これによると、東福寺公帖の縦寸法は、天正10(1582)年の本能寺の変以前における室町殿公帖が350mm前後であったのが、桃山時代の室町義昭公帖が400mmに増加した後を受け、天正13(1585)年以降の豊臣関白家公帖がさらに460mmほどに増加する。慶長8(1603)年徳川家康将軍就任以降の徳川将軍家公帖も、秀忠の一時期を除いて豊臣関白家の公帖の縦寸法を維持していることが確認できる。そのうちでも、家綱治世の寛文年間(1661～)以降は460mm前後に固定化されることは注目に値する。図14「東福寺公帖料紙横寸法の年代変化」は、表5の「横寸法」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。これによると、東福寺公帖の横寸法は、天正10年以前における室町殿公帖が470～560mm、平均520mm前後であったのが、桃山時代の室町義昭公帖が590mmに増加した後を受け、天正13年以降の豊臣関白家公帖がさらに640～670mm、平均650mmほどに増加する。慶長8年以降の徳川将軍家公帖は、家康は豊臣関白家の公帖の横寸法を引き継ぐが、秀忠・家光・家綱は620mmほどの短いものも用いた。しかし、家綱の寛文年間以降は660mm前後の横寸法に固定化されることが確認できる。

図15「東福寺公帖料紙縦横比の年代変化」は、表5の「縦横比」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。これによると、東福寺公帖料紙の縦横比は、室町殿公帖が1.50前後であったのが、天正13年以降の豊臣関白家公帖・慶長8年以降の徳川将軍家公帖ともに1.4ないし1.3台に減少する。ただし、家綱の寛文年間(1661～)以降は1.42前後の縦横比に固定化されるようである。図16「東福寺公帖料紙面積の年代変化」は、表5の「面積」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。これによると、東福寺公帖料紙の面積は、当然ながらほぼ縦寸法の年代変化と似通った変化を示す。すなわち、天正10年の本能寺の変以前における室町殿公帖が0.16～0.20m²であったのが、桃山時代の室町義昭公帖が0.23m²台に増加した後を受け、天正13年以降の豊臣関白家公帖がさらに0.30m²前後に増加する。慶長8年徳川家康将軍就任以降の徳川将軍家公帖は、

家康は豊臣関白家の公帖の横寸法を引き継ぐが、秀忠・家光・家綱は 0.28 m^2 台以下の比較的小さいものも用いた。しかし、家綱の寛文年間以降は 0.30 m^2 台の面積に固定化されることが確認できる。

図 17「東福寺公帖料紙厚みの年代変化」は、表 5 の「厚み」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。東福寺公帖料紙の厚みの年代変化は、その縦寸法・横寸法・縦横比・面積の変化とはかなり異なった様相を見せる。天正 13 年以前における室町殿公帖が $200\sim 300 \mu$ でかなりバラつきがみられるが、このようなバラつきはその後の時代も同じである。天正 13 年以降の豊臣関白家公帖及び徳川家康公帖においては、 200 から 280μ で前代の室町将軍家公帖とより少し薄めにまっている。徳川秀忠公帖以降は、秀忠・家光が 300μ を越える料紙を時々用いるようになる。さらに、家綱の時代に急に厚くなり、寛文年間以降は 450μ を越え、その後も年代が降るほど一貫して厚みを増し、幕末には 800μ を超えるものも現われる。図 18「東福寺公帖料紙重さの年代変化」は、表 5 の「重さ」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。東福寺公帖料紙の重さの年代変化は、その面積の年代変化が概して大きな変化なかつただけに、厚みの変化に概ね比例する傾向が見られる。すなわち、天正 13 年以前における室町殿公帖が $9\sim 15 \text{ g}$ あるが、桃山時代の室町義昭公帖が $18\sim 20 \text{ g}$ に続いて、天正 13 年以降の豊臣関白家公帖においては $17\sim 28 \text{ g}$ と増加傾向を示す。慶長 8 年徳川家康将軍就任以降の徳川将軍家公帖の重さは、家光までは $16\sim 25 \text{ g}$ と豊臣関白家の公帖とほぼ変わらない。ところが、家綱の時代に急に重くなり、寛文年間以降は 30 g を越え、その後も年代が降るほど一貫して重さを増し、幕末には 70 g を超えるものも現われる。

図 19「東福寺公帖料紙密度の年代変化」は、表 5 の「密度」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。東福寺公帖料紙の密度の年代変化は、上で見てきた諸項目の年代変化とは全く異なる様相を呈する。天正 13 年以前における室町殿公帖の密度が $0.25\sim 0.41 \text{ kg/m}^3$ であり、密度が高いのに対し、天正 13 年以降の豊臣関白家公帖は $0.23\sim 0.32 \text{ kg/m}^3$ と少し低くなっている。慶長 8 年徳川家康将軍就任以降の徳川将軍家公帖も、家綱の時代までは 1 例 (0.34 kg/m^3) を除いて $0.21\sim 0.31 \text{ kg/m}^3$ と豊臣関白家の公帖の密度と異ならない。綱吉治世の元禄年間 ($1688\sim$) 以降になって 0.30 kg/m^3 を恒常的に越えるようになる。綱吉以降の公帖の腰が丈夫になるのは、この密度が高いせいである。

図 20「東福寺公帖料紙簀目本数の年代変化」は、表 5 の「簀目本数」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。これによると、東福寺公帖料紙の 1 寸当たりの簀目本数は、天正 13 年以前における室町殿公帖が $12\sim 16$ 本、平均で 14 本あったのが、天正 13 年以降の豊臣関白家公帖は $9\sim 12$ 本で、平均 11 本であり、太い萱簀で漉き上げられている。慶長 8 (1603) 年徳川家康将軍就任以降の

徳川将軍家公帖も、綱吉の元禄末年頃まで9～14本で、豊臣家の公帖料紙の簀目の本数とほぼ同じである。綱吉治世の元禄末年以降は家治治世明和年間(1764～)までは15～20本と比較的細い簀を用いて漉き上げている。それ以後は11～15本に減少していく。図21「東福寺公帖料紙糸目幅の年代変化」は、表5の「糸目幅」欄の年代変化を折線グラフにしたものである。東福寺公帖料紙の糸目巾の年代変化は、天正13年以前における室町殿公帖が平均30mmであるのに対し、天正13年以降の豊臣関白家公帖及び慶長8年徳川家康将軍就任以降の徳川将軍家公帖ともに、平均360mmで幅が広く、ほぼ一定である。

以上、東福寺公帖料紙について、数値として測定できる料紙データについて、その年代変化をいちいち検討を加えた。その結果、いくつかのその年代変化の画期が見えてきた。まず、「縦寸法」・「横寸法」・「縦横比」・「面積」・「重さ」・「糸目巾」からいえば、天正13年(1585)年秀吉関白就任に画期が見え出すことができよう。また、「密度」・「簀目本数」・「繊維束」・「非繊維物質」・「皺付法」に注目すると、徳川家綱ないし綱吉の時代あたりにもう一つの画期がありそうである。したがって、以下の行論では、次のような時期区分をもってその画期を論じて行きたい。東福寺公帖のうち室町殿公帖初見の延徳3年(1491)から最後の義昭公帖の天正12年(1584)までの時期、すなわち15世紀末から16世紀後期を(b2)の時期とし、豊臣関白家公帖初見の天正13年(1585)から徳川将軍家公帖最後の弘化4年(1847)までの時期、すなわち16世紀末から19世紀中頃までを大きく(c)の時期とする。そして、(c)の時期を2つに分け、豊臣関白家公帖初見から徳川綱吉公帖あたりまで、すなわち16世紀末から17世紀までを(c1)の時期、綱吉公帖以降江戸時代末まで、すなわち18世紀から19世紀中頃までを(c2)の時期とすることにする。

「縦寸法」でいえば、(b2)の天正13年以前の時期では、天正11・12年の室町義昭公帖を除けば、最大でも360mmであったものが、(c)の天正13年以後の時期では急に460mmに拡大し、「横寸法」も、(b2)の天正13年以前の時期では、天正11・12年の室町義昭公帖を除けば、最大でも560mmであったものが、(c)の天正13年以後の時期ではこれも急に660mmを越えるものが現われる。文書の大型化であり、成り行きとして、その「面積」も、(b2)の天正13年以前時期では、天正11・12年の室町義昭公帖を除けば、最大でも0.20㎡余であったものが、(c)の天正13年以後の時期では0.30㎡を越えるものが普通になるのである。このように大きさについては、(b2)の時期と(c)の時期の格差は大きい。

「厚み」については、天正13年の前後で明確に区切ることができないが、徳川秀忠以降年代を降るほど尻上がりに厚くなっていくから、その前後での相違を敢えていうならば、(b2)の以前の時期より(c)の以後の時期の方が、厚いということができる。「重さ」については、(b2)の以前の時期が12～15gだったものが、

(c)の以後の時期には 20 g 以上に増えるから、ここでも明確な差異が見られる。また、「糸目巾」については、(b2)の以前の時期が 300mm であるのに対し、(c)の以後の時期は 360mm であり、はっきり相違がある。「縦横比」についても、(b2)の以前の時期は 1.5 であるのに対し、(c)の以後の時期は 1.4 ほどであるから、これも明らかな相違点であろう。

それでは、この天正 13 年を境にするこれらの前後の料紙は、どのような紙であろうか。まず(b2)の天正 13 年以前の時期の公帖料紙であるが、この料紙は大きさ・厚みが(c)の天正 13 年以後の時期の料紙より小さく薄いのであるが、しかしこれは(c)の以後の時期の紙が大きすぎ厚すぎるのである。この料紙は、十分に大きく厚いといってもよい。第 1 節で検討した(b1)14 世紀中頃から 15 世紀中頃までの時期の後七日御修法請僧交名料紙は、例えば表 1 の 226 番の応永 3 年(1396)後七日御修法請僧交名では、縦横寸法がそれぞれ 345mm・549mm、面積 0.189405 m²、縦横比 1.59、厚み 388 μ である。また、その紙質をあらわす簀目・糸目・米粉・非繊維物質に関わるデータの値は、簀目の目立がランク 5、簀日本数 11 本、米粉の添加ランク 0、非繊維の残留量がランク 3、繊維束の量がランク 5 であった。これと、(b2)の天正 13 年以前の時期の公帖料紙とを比較してみる。例えば表 5 の 15 番の永禄 3 年(1560)室町義輝公帖は、縦横寸法がそれぞれ 341mm・523mm、面積 0.178343 m²、縦横比 1.53、厚み 270 μ である。また、その紙質をあらわす簀目・糸目・米粉・非繊維物質に関わるデータの値は、簀目の目立が顕著、簀日本数 13 本、米粉の添加なし、非繊維の残留量あり、繊維束有である。(b2)の時期の后者は、(b1)の時期の前者に比べて、縦横寸法・面積は僅かに小ぶりであるがほぼ同じ程度の数値であり、縦横比も 1.5 台でほぼ同じであろう。簀目の本数も 13 本と 11 本とともに簀目の目立つ本数である。米粉の添加がなし、非繊維の残留量があり、繊維束が有で、ランク付けがなされていないのは遺憾であるが、不純物や繊維束が残り、米粉が入っていない点は、(b1)の時期の前者と同じといってもよいであろう。ただ異なるのは、厚みであって、(b2)の時期の后者は、(b1)の時期の前者に比べて、その 3 分の 2 強しかない。このような比較から考えて、(b2)の天正 13 年以前の時期の公帖料紙は、(b1)の時期の前者と同じ強杉原であるといってもよい。ただ、厚みが薄く、前者に比べ腰が弱い感じは免れない。

(b2)の天正 13 年以前の時期の公帖料紙は、表 5 の「非繊維物質」欄で分かるように非繊維物質を残して漉かれた、また、同表の「米粉」欄で分かるように米粉を填料と加えない料紙であるから、硬いごわごわした強紙ということができる。同表の「簀目目立」欄でも確認できるように、簀目の目立が顕著(ランク 5)・僅か(ランク 4)・透視(ランク 3)とランクの高いものが多く、非常に簀目のはっきりした料紙であることが分かる。同表の「皺付法」では、「簀目

皺」とあるように、簀目が自然に皺を成しているのであって、けして後に述べるような人為的につけた皺ではないということである。このような皺どうしてできるかという、同表の「干皺」欄に「端天・端地」等と記入があるように、料紙の角隅などに引っ張られた皺が確認できることから判断できるのであるが、これは吊干の跡であり、簀目に沿って自然にできた凹凸の皺を無くさないようにする乾燥法なのである。同表の「乾燥法」欄は干皺などから判断した、吊干か板干か等の判断を記載した欄である。非繊維物質を意識的に残し、米粉を加えず、簀目の目立つ強紙は、歴史的用語としては強杉原と呼ばれる（富田正弘「紙素材文化財の料紙判定法について」平成15年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究A）研究成果報告書『紙素材文化財(文書・典籍・聖教・絵図)の年代推定に関する基礎的研究』）のであるが、吊干で乾燥させる強杉原は、戦国期に特有なもので、南北朝・室町期のものではまだ確認していない。この乾燥方法も、この料紙を腰の弱いものになっている要因の1つかもしれない。

では、(c)の天正13年以後の時期における特大に大きく厚く重たい料紙はどのような紙であろうか。再び表5の「非繊維物質」欄を観て欲しい。豊臣関白家公帖や徳川将軍家の初期の公帖には、「あり」と記載されているものもあるが、「少しあり」とか「少ない」とかも多く、記載のないものもある。これは室町殿公帖がほとんど断定的に「あり」と書かれているものと比べて分かるように、少ないのである。さらに寛文年間以降のものでいえば、ほとんどが「なし」と記載されている。すなわち、天正13年以降の公帖料紙は、よく繊維をよく水洗いして不純物を少なくするか完全に除去して、漉かれた紙なのである。そして、同表の「米粉」欄に「なし」とあるように、米粉のような填料も一切加えない紙であることが分かる。このようによく水洗いをし、非繊維物質を洗い流した紙は、非繊維物質を残した強杉原や美濃紙よりは柔らかく（非繊維物質は繊維結合の接着剤として働く）綺麗な純白な紙となる。(c1)の天正13年から元禄年間までの時期の公帖料紙の密度が、(b2)の天正13年以前の時期の室町殿公帖のそれよりも小さいのは、非繊維物質による繊維結合の助けがないからでもある（元禄年間以降の公帖料紙の密度が高くなることについては後述する）。また、同表の「簀目目立」欄の「顕著」・「僅か」・「透視」とあるようによく簀目の目立つ料紙であるが、これも強杉原と同じように簀目が自然に皺を成している料紙とってよいであろう。そして、この自然の皺も吊干の乾燥法によって、自然に皺が付いた料紙となるのである。このように強杉原とは異なり、非繊維物質をよく洗い、かつ簀目に添った自然の皺を意識的に残した料紙は、大高檀紙と呼ばれる。大高檀紙は、檀紙の一種と捉える研究者もいると思うが、私は檀紙と区別された新種の紙種と考えた方が、説明しやすいと考えている（上記富田「紙素材文化財の料紙判定法について」）。

さて、(c)の天正 13 年以降の時期の公帖料紙を、大高檀紙であると判定することについては、異議を唱えるものはおらないであろう。それはそれでよいとしても、前述した公帖料紙の客観データの検討の際に、同じ天正 13 年以降の時期でも、家綱の寛文年間、綱吉の元禄年間にも小画期があることを示唆しておいた。すなわち、料紙の縦寸法・横寸法・縦横比・面積が寛文以降一定の大きさに固定化されたようであり、これは明らかな人為的な企画化としか考えられないのである。その意味でこの寛文年間が小画期と考えることができる。しかし、料紙の大きさ・形については問題であり、寛文年間が紙質に関わるような画期といえないのではないだろうか。

密度について考えてみると、綱吉の元禄年間の前後で、以前の $0.21\sim 0.31\text{kg/m}^2$ から、以降の 0.30kg/m^2 を恒常的に越えるようになる。このような密度の相違はどこから生じたのであろうか。それは、大高檀紙の皺付法と乾燥法の差異から生じた可能性がある。元禄年間以降の公帖には、「吊干跡」欄に見えるように、吊干の痕跡である吊干の引っ張り皺が確認できなくなるのである。そして、皺を成しているところの簀目は平均的に潰されたような跡が確認できるようになる。これは、吊干しではなく、板干しであるが、このような板干しでは簀目による自然な皺を残すことができないから、乾燥のため板に張る時、生乾きの紙料を紙床から鋭角度に引き剥がすことにより、人為的な皺をつける方法を取るといふことらしい。そして、鋭角度に引き剥がすことによって生じた毛羽立ちを調整するため、板に押し付け、少しプレスをかける。このことによって、皺や簀目の表面に板に押し付けたような跡が付くのである。そのため、繊維間の空隙が押しつけられ、多少密度を高める結果になるのである。私としては、この元禄年間の境とする大高檀紙の変化を確認するために、(c1)のそれ以前の時期における公帖料紙を大高檀紙①とし、(c2)のそれ以後の時期における料紙を大高檀紙②と仮に定義しておきたい。この大高檀紙②においては、不純物を全くないといってよいほど綺麗に洗い流し、填料を加えずに繊維だけで漉くものであり、品質的には引合にほぼ近い上質の料紙といふことができる。

なお、表 6 の「東福寺住持補任九条請公帖料紙データ表」は、室町殿・豊臣関白家・徳川将軍家などの公権力による東福寺住持補任の公帖を追認する形で、東福寺の「本家」九条家から出された公帖の一覧であり、その料紙データを載せたものである。表 4 の「東福寺派僧侶住持別公帖整理表」からわかるように、東福寺公帖のうちに東福寺住持補任の公帖が 36 通あるが、その 36 人の禅僧のうち 16 人分について、九条家から再確認をうけた公帖が確認できる（文英清韓の分はどのようなわけか 2 通ある）。また、東福寺住持補任について公権力からの公帖が残されていないものの九条家からの再確認の公帖だけが伝存しているものが 2 通ある（自悦守懌と友月龍珊の分）。これら合わせると、九条家公帖（一

条冬良が出したものも含む) が全部で 19 通認めることができるが、これらの公帖の料紙について調査した結果を一覧したのが表 6 である。

表 6 の全体にわたる考察は、今ここで省略するが、公権力の公帖と紙質が異なる料紙が混じっているのが、(c)の秀吉以降の時期における公権力の公帖料紙と対比するために、18 番の天明 5 年(1785)九条尚実公帖のみを検討してみる。この料紙の計測データは、縦横寸法がそれぞれ 504mm・657mm、縦横比 1.30、面積 0.33 m²、厚み 406 μ 、重さ 40.4 g、密度 0.30kg/m³、簀目本数 18 本/寸、糸目巾 37mm である。この時期の公権力の公帖である表 5 の 175 番の天明 5 年徳川家斉公帖の計測データ、縦横寸法がそれぞれ 465mm・658mm、縦横比 1.42、面積 0.30 m²、厚み 612 μ 、重さ 54.8 g、密度 0.29kg/m³、簀目本数 12 本/寸、糸目巾 36mm と比較してみると、横寸法はほぼ同じであるが、縦寸法は前者の方が 40mm も高い。したがって、面積が前者の方が 0.03 m² 広い。すなわち、九条家公帖の方が徳川將軍家公帖より大きいのである。ただ、縦横比率からいうと、白銀分割に近い家斉公帖料紙の比率に対して、尚実公帖はその形は崩れているといわざるを得ない。また、厚みを観ると、尚実公帖もけして薄いわけではないが、家斉公帖の 3 分の 2 なのである。結局、体積で考えると家斉公帖の方が大きく、重さも家斉公帖の方が重く、重量感があるということになる。

密度での比較はほぼ変わりなく、数値的にはやや尚実公帖が勝るのであるが、面積が大きくて薄い分だけ、外見的にはより柔弱な感じを与える。しかし、この両者の相異はこれだけではなく、大きさや質量観だけではなくもっと品質的なところにある。両者の上の計測データのほかのデータを挙げると、尚実公帖においては、簀目本数が 18 本/寸、米粉入り、非繊維物質記載なし、である。これに対し、家斉公帖は簀目本数が 15 本/寸、米粉なし、非繊維物質なし、である。家斉公帖の簀目本数 15 本はこの頃の外の徳川將軍家の公帖(12・13 本である)と比して少し多いが、尚実公帖の 18 本は奉書紙の簀目本数に近い数値である。決定的なのは、けして米粉などの填料を加えない大高檀紙を用いる家斉公帖に対して、奉書紙と同じように米粉を填料として加えている紙を、尚実公帖の料紙は、用いているということである。非繊維物質については、家斉公帖には全く認められないから、徹底して水洗いがなされていると考えられるが、尚実公帖は記載のないところを観ると、米粉が多かったために確認できなかったと考えるべきであろう。非繊維物質の残存を隠すために米粉を加えたか、あるいは非繊維物質をよく洗ったにしても米粉を入れる奉書紙を用いたのか、どちらかであろう。江戸時代には、將軍発給文書に用いる米粉を入れない大高檀紙と、老中発給文書に用いる米粉入りの奉書紙とは、画然とした格差があった。尚実公帖は奉書紙に類似した料紙を用いているということができる。

尚実公帖料紙の表面には、大高檀紙のように横皺が認められるが、その皺は

大高檀紙よりは細かい。将軍家判物・朱印状などには用いられないが、その写しや案文にはよく使用されている紙である。この料紙がなんと呼ばれているのか、不勉強で知らないが、これを大高檀紙と呼んだとしたら、混乱の基となるのではないかと思われる。この料紙は大きな奉書紙に皺をつけたもので、奉書紙を漉く簀は細かい目のもので漉くので、付けられた皺は細くなる（大高檀紙の皺が太いのは、簀目の太い萱簀で漉いているからである）のである。表1の「真言院後七日御修法請僧交名料紙データ」に載せる306番寛永19年の真言院後七日御修法請僧交名等の料紙もこのような奉書紙に皺をつけた紙であり、この表の「料紙分類」欄では、大高檀紙とは区別して、仮に「細皺大高」としておいた。この料紙は、大高檀紙よりは格下の紙であることは明らかであるが、奉書紙と比べてどうなのかは、今後の課題として置きたい。

煩瑣な検討となってしまったが、これをまとめると、東福寺の公帖料紙は、(b2)の天正13(1585)年以前の時期における室町殿公帖では、これに強杉原を使用し、(c)の天正13年以降の時期における豊臣関白家及び江戸期の徳川将軍家の公帖料紙には、これに大高檀紙が用いられたといえることができる。そして、天正13年以降の大高檀紙は、後年になるほど質が良くなっていき、綱吉治世の元禄期を境にそれ以前の簀目が自然に皺となる大高檀紙から、その後的人為的に剥ぎ皺をつける大高檀紙にかわるのではないかと考えることができる。大高檀紙は、このあと安政ごろにまた変化するという議論もあるが、表5のデータの幕末部分にやや不安なところがあるので、ここでは検討を保留をしておきたい。

以上、東福寺料紙の時代的変遷について考察したが、これも公験文書料紙の時代的変遷として総括できるとすれば、15世紀末から19世紀半ばまでの公験文書料紙は次のように変遷したとまとめることができる。15世紀末から16世紀後半豊臣秀吉関白就任(1585)以前までの公験文書料紙には、楮の繊維を適度に洗うもののまだ非繊維物質を残し、米粉などをも填料として加えない「やや黄ばんだがさがさした簀目の目立つ」強杉原を用い、豊臣秀吉関白就任(1585)以後の公験文書料紙は、楮繊維に含まれる非繊維物質をよく洗い落とし、米粉などをも填料として一切加えない「白っぽい簀目に添った皺が目立つ」大高檀紙を使用している、といえることができる。この強杉原と大高檀紙とは、このような風合いの相異に加え、明確に異なるのはその大きさの点である。縦寸法では、強杉原が350mmなのに対し、大高檀紙が450mm超であり、横寸法では、前者が530mm前後であるのに対し、後者は650mm超なのである。したがって、これを面積でみると、前者が0.2㎡以下なのに対し、後者は0.3㎡超と前者を圧倒し、顕著な相異を見せる。縦横比で見ても、前者は1.6前後の黄金比であるのに対し、後者は1.4余の白銀比であり、形態に対する美意識の相異を見せる。

ただ、この戦国期の強杉原と17世紀まで（徳川綱吉の元禄期まで）の大高檀

紙とは、風合いからいうと、一見見分けがつかないぐらいに似通って見えるのである。戦国期の強杉原は、14世紀末ごろの強杉原と比べると、非繊維物質を余残さないようになり、また厚みも後者が400 μ 前後であったものが300 μ 以下となり、少し白っぽく腰が弱くなっているのである。これに対し、17世紀まで（徳川綱吉の元禄期まで）の大高檀紙も、18世紀以降の大高檀紙と比べて、まだ非繊維物質の洗い流しや繊維束の除去が不十分なところがあり、厚さも300 μ 少し越える程度で、17世紀後半以降の大高檀紙が400 μ を越えるのに比べて、少し腰が弱いのである。密度からみても、戦国期の強杉原が0.23から0.42まで（平均0.30前後）バラつきがあり、やや腰が弱い、17世紀以前の大高檀紙も0.21から0.35まで（平均0.25前後）バラつきをみせ、もう少し腰が弱い。これに対し、18世紀以降の大高檀紙は0.32以上に落ち着き、次第に腰がしっかりしていき、非繊維物質の洗い流しや繊維束の除去が完璧に行われるようになり、きめの細かい中世の引合を思わせるような上質の料紙に成長していく。この18世紀以降の大高檀紙と戦国期の強杉原との風合いの相異は、一目瞭然である。

むすびに

以上、中世・近世の公験文書料紙の変遷を考えるための次善の策として、1節においては東寺に伝来した東寺百合文書のうちの真言院後七日御修法修僧交名について、2節においては東福寺に伝来している東福寺文書のうちの公帖について、それぞれその料紙を計測観察し、考察を加えた。その結果、1節においては、12世紀から14世紀半ばまでの真言院後七日御修法修僧交名の料紙には、主として檀紙を用いており、14世紀半ばから少なくとも15世紀なかごろまでのそれらには、主として強杉原を使っていたと判定した。また、2節においては、15世紀終わりから1585年の豊臣秀吉関白就任以前までの東福寺公帖の料紙には、全て強杉原を用いており、豊臣秀吉関白就任以後から19世紀中頃までのそれらには、全て大高檀紙を使っていたものと判定した。

したがって、以上1節・2節の判定を総合して推測するに、後日、公験文書である太政官牒・院宣・室町殿御判御教書・同御内書・豊臣徳川家判物・同朱印状などについて年を追って計測・観察し、検証を行う必要があるのではあるが、中世・近世の公験文書の料紙は、12世紀から14世紀半ばまでは檀紙、14世紀半ばから16世紀後半豊臣秀吉関白就任以前が強杉原、豊臣秀吉関白就任以後から江戸末期までは大高檀紙であった、とまとめることができる。

そこで、問題となるのは上島有の檀紙論であろう（上島有「檀紙について」上・中・下『古文書研究』33・34・35）。これを筆者なりに公験文書料紙論に読み替えれば、はじめにでまとめたように、公験文書料紙としては、平安～鎌倉

中期には奉書Ⅰ・Ⅱが、鎌倉末～室町期には檀紙Ⅰが、戦国期～江戸期には檀紙Ⅱ(大高檀紙)が使用された、ということになる。3期にわたる変遷の画期には少し異論があるが、その3区分の時代における支配的な公験文書料紙に対するイメージはそれほど相異がないものと考えられる。しかし、その紙種の名称や定義についてはやはりはっきりさせておかなければならない。

上島は、平安～鎌倉中期には奉書Ⅰ・Ⅱが用いられるとしているが、上島が奉書Ⅰとしているのは、歴史的な用語としては引合のことであり、奉書Ⅱとしているのは檀紙のことである。上島自身、「檀紙について」上(前掲)において、「平安時代以来の良質の料紙を広く檀紙とってよい」として、広義の檀紙の範疇に奉書Ⅰ・Ⅱを含めている。また、同じ論文で、「奉書Ⅰを含めて奉書Ⅱは、「みちのくにかみ」＝「檀紙」(「引合」もこれに含めてもよかろう)と呼ばれ」として、奉書Ⅰ・Ⅱが歴史的な用語としては引合・檀紙であることを認めている。さらに、鎌倉末～室町期には用いられた檀紙Ⅰについても、同論文で、「ここですこし横道にそれることになるが、この檀紙Ⅰが、中世において「強杉原」(こわすぎはら)と呼ばれていたことを述べておこう」として、やはり歴史的用語としては強杉原(こわすいばら)と呼ばれていたことを、自ら認めているのである。上島の料紙論の特徴は、混乱する歴史的用語を排除して、伝来する文書原本と現在の抄紙技術を参考とした類推から、再構築していこうという自ら選択した方法論に立って論を進めていることは、十分に理解できることである。しかし、その方法を通して、得られた結論を再度歴史的用語と突合せを行うという作業をどうして行わないのか、筆者には理解に苦しむところである。しかも、近世の有力な料紙の種類で、米粉を大量に填料として加える奉書紙を、米粉を全く入れない引合や、僅かしか入れない檀紙を指す用語に用いるというのはどういうわけであろうか。おそらく、上島は奉書紙に米粉がドッサリ入っているなどとは、思い及ばなかったのであろう。やはり、文書料紙の観察には、透過光による顕微鏡観察が不可欠なのである。また、現在、岩野市兵衛の製作する越前奉書には白土が填料として加えられているという。しかし、江戸時代の奉書には、白土ではなく、米粉が入っているのである。現在の抄紙技術も近代の技術改良や新種の料紙の登場があつて、それを差し引いて考えなければ、前近代の抄紙技術を解明するための参考とはならないであろう。歴史文献資料を無視しては、思わぬ落とし穴に陥るのではないだろうか。

それはともかく、上島の言うところを、私なりに理解すれば、次のようになるのではあるまいか。「公験文書料紙は、大きく厚くて良質の紙であり、これを広く檀紙と呼ぶべきである。そして、この広義の檀紙は、狭義には平安～鎌倉中期に用いられた引合・檀紙、鎌倉末～室町期に使われた強杉原、戦国期～江戸期には大高檀紙、寛文領知以降に使用された檀紙Ⅲに分かれる」、ということ

であろう。前述のように時期区分の画期については、異議があり、また引合はあまり質が良すぎて公験料紙には用いられていないと思うし、檀紙Ⅲについては上大高檀紙のうちに含めて考えてべきと思うが、上島の説くところが不十分なのでこの検討は保留しておきたい。しかし、ともかく、歴史的名称に従って、平安以来の「すべすべした平安時代以来の良質の料紙」は狭義の檀紙であり、南北朝～戦国期に使用された「やや茶色味を帯び、がさがさした厚い料紙」は狭義の強杉原とすべきなのではないだろうか。その上で、檀紙・強杉原・大高檀紙等公験文書料紙の総称として、広義の檀紙と呼ぶのであれば、そのことには賛成したい。

というのは、大高檀紙という名称は、狭義の檀紙の1種類としての大高檀紙ではなく、それと区別された、狭義の檀紙や強杉原と並ぶ1種の紙種名と捉える必要があると思うからである。檀紙のうち、13世紀初め頃に縦寸法の高いものが現れ、これを高檀紙と称したが、15世紀前半には高檀紙のうちを、さらに丈の高さの大小によってこれを分け、大高檀紙・小高檀紙が現れる(富田「古代中世における文書料紙の変遷—文献に見る紙の名称の考察—」平成6年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書『古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究』)。しかし、この大高檀紙はその縦寸法が檀紙より高いに過ぎないのであって、紙質は檀紙と変りはなかった。つまり、楮の繊維をよく洗って、足りないところは米粉で補う種類の紙だったのである。しかし、豊臣秀吉以来の大高檀紙は、檀紙とは異なる紙種であり、出現する時代も異なる。先に見たように、この大高檀紙は、系譜的には戦国期の強杉原の風合いを受け継ぎ、簀目の目立ち、簀目に添った皺が付いた料紙である。しかし、縦横寸法が強杉原より特大に大きく、縦横比も独特の白銀比を採る。また、成分的には、非繊維物質を極力洗おうとし、強杉原のように非繊維物質を残そうとする傾向とも異なるのである。また、檀紙と比べても、非繊維物質を極力洗おうとする点は共通するものの、米粉を決して加えないところ、簀目の太い萱簀で漉き上げ、表面に簀目や皺が目立つ点では、檀紙とかなり風合いが異なるのである(富田「紙素材文化財の料紙判定法について」平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書『紙素材文化財(文書・典籍・聖教・絵図)の年代推定に関する基礎的研究』)。そして江戸中期以降には、さらに繊維を精選して漉き上げるようになり、中世の引合以上に良質な料紙に成長するが、やはり表面に皺がある点で引合とも異なるのである。したがって、豊臣秀吉以来の大高檀紙は、狭義の檀紙の1種ではなく、檀紙・杉原紙・強杉原・奉書紙・美濃紙などと並ぶ、独自の紙種と考えるべきであろう。

このように大高檀紙は、江戸時代において、明らかに檀紙とは異なるにもかかわらず、大高「檀紙」と呼ばれていた。大高は丈が非常に高いという意味で

あるから、問題はないが、檀紙と呼ばれるのはどうしてなのであろうか。一つ考えられるのは、成分紙質が檀紙に近いからであろう。江戸幕府では、将軍発給文書には大高檀紙が使われ、老中発給文書には奉書紙が用いられ、厳然と区別されていた。つまり、大高檀紙は奉書紙より格上の紙と位置づけられていたのである。大きさおよび厚みの違いもさることながら、すでに指摘したように、成分的には、大高檀紙はよく洗って非繊維物質を極力排して、白い美しい紙を目指したのに対し、奉書はよく洗うこともさることながら、どちらかというとも米粉を大量に添加することによって、その白さを目指したものである。したがって、大高檀紙は繊維のきらきら輝く透明感のある白さを感じず、奉書紙は粉っぽい白さなのである。その紙質の格差は明瞭であり、中世における檀紙(あるいはその一種の引合)と杉原紙との格差に対比できる。このような成分的要素から、大高檀紙が「檀紙」といわれたのかもしれない。

しかし、私はそればかりではないと考える。公驗文書料紙の変遷を考えてみると、はじめ12世紀から14世紀半ばまでは檀紙であったが、14世紀半ばに強杉原が檀紙に取って代わり、さらに16世紀後半にその地位を大高檀紙が強杉原に取って代わるのである。つまり、公驗文書料紙は最初檀紙が担っていたことが、強杉原に旧来の檀紙の役割を負わせ、さらに大高檀紙にまた公驗文書料紙としての檀紙の役割を負わせたことから、秀吉の開発した公驗料紙を大高「檀紙」と命名するようになったのではないかと推量する。その前提には、公驗文書料紙が即檀紙という意識が伏在したものである。そういう意味から、公驗文書料紙となった檀紙・強杉原・大高檀紙の総称として、これを広義の檀紙と学術的に称することには、賛成である。

もう一つ最後に、大高檀紙に関連して、一つの近世の文書料紙について、問題提起しておきたい。かつて、田中稔は、「徳川幕府の領知安堵と檀紙」(『日本歴史』500号)で江戸時代の大高檀紙の分類に触れて、次のように述べている。

江戸時代に用いられた檀紙はほぼ三種類に分類される。その第一種(A種)は中世の檀紙の製法をそのままに継承するもので、(中略)簀の目が太く粗く横方向に顕著に付いている。そのため、簀の目なりに紙面に凸凹が明瞭につけられ、表面に平滑さが見られない。紙の繊維は長く、叩解の度は少ない。また繊維の晒し方は次のB種に比しても少なく、ごく薄い茶色味を帯びている。

第二種(B種)は、(中略)色は白く、表面に縮緬状の細かい凸凹を持つ皺文が付けられたもので、繊維がよく叩解されている。(中略)

次に第三種(C種)は、一見B種によく似ており、(中略)B種とは製法を異にしている。皺文状の凸凹を出すために、板に細く浅く溝を平行にびっしりと並べ掘り、(中略)これに漉いたばかりの紙を押しつけてこの凸凹をつけ

た紙である。(中略)但し繊維がよく叩解され、色が白い点は B 種と同じである。この C 種は朱印状などの公式文書に使用されることはなく、きわめて略式の檀紙(あるいは檀紙の模造品)と違って差し支えないのかもしれない。田中のいう A 種の大高檀紙は、上島のいう檀紙Ⅱa(大高檀紙 a)であり、本論考で考察した豊臣秀吉から徳川綱吉の元禄時代までの大高檀紙のことであることは、間違いないであろう。また、田中のいう B 種の大高檀紙は、上島のいう檀紙Ⅱb(大高檀紙 b)であり、本論考で考察した徳川綱吉の元禄時代以降の大高檀紙のことである。これらの分類分けは、田中と上島とは一致している。田中が A 種としている大高檀紙は、戦国期の強杉原と紙質が近く、よく不純物を洗っているものの少し残留が認められ、厚みも 300 μ 以下で腰がやや弱く、皺も簀目に沿って自然にできているという紙質の大高檀紙であり、田中が B 種といている大高檀紙は、繊維をよく精選して、不純物をよく洗い流し、厚みも 300 μ 以上で腰のしっかりしていて、人口的な剥ぎ皺をつけた大高檀紙であると考えられ、筆者も、これらに対して異存はない。

問題は、桃山期や江戸期のはじめのうち、田中のいう A 種(上島のいう檀紙Ⅱa)の大高檀紙だけが使用されていたのが、江戸期のある時点から 2 種の檀紙の併用が始まるということである。上島は、それを徳川家綱寛文印知以降とし、檀紙Ⅱa 使用が終わり、それ以後は檀紙Ⅱb と皺のない檀紙Ⅲとの併用となると説く。檀紙Ⅲについては、筆者においては今後の検討課題である。田中においては、吉宗以降に B 種が開発され、それ以後 A 種と B 種とが併用されるという。ここで、問題なのは A 種が B 種に変化するのではなく、これ以降も A 種が継続して B 種と並行して用いられるとするところである。筆者からみると、A 種が B 種に変化していくのであって、A 種の継続使用はないように思う。田中は、別のところで、「この新しい B 種の檀紙は質的に(A 種より)劣るところがあり、書札礼の上では薄礼のものに用いられたのであろう」と述べているが、これも解せない。あるいは、田中は、吉宗以降の A 種の檀紙はそれ以前の A 種の檀紙より質がよくなったと考えているのであろうか。とするならば、おそらく田中のいう吉宗以降の A 種檀紙は、上島のいう檀紙Ⅲを指しているのかもしれない。そうすれば、田中と上島の議論は咬みあってくると思われるが、筆者にとっては、東福寺公帖には上島のいう檀紙Ⅲを確認できなかったもので、これからの課題としておきたい。

つぎに問題なのは、田中が C 種の檀紙としている料紙であるが、上島はこの種の料紙を考察の対象にはしていない。田中は、「この C 種は朱印状などの公式文書に使用されることはなく、きわめて略式の檀紙(あるいは檀紙の模造品)と違って差し支えないのかもしれない。」といているので、大高檀紙の模造品であって、大高檀紙ではないとしているのであろう。これは、本論考で、江戸期の

後七日御修法請僧交名のうちに、表1の料紙分類欄が「細皺大高」としている料紙であり、また表6東福寺住持補任九条家公帖料紙データ表のうち、18番の天明5年九条尚実公帖などのように紙種欄が「細皺奉書」としているような料紙を指しているものと思われる。この料紙は、第2節で考察したように、米粉が大量に入っている奉書紙に皺をつけた料紙であって、米粉の全く入らない大高檀紙とは異なる種類の料紙といわなければならない。米粉がはいっているので大高檀紙よりは格下の料紙であることは明らかであるが、縦横寸法は大高檀紙に相当するから、奉書紙より格上と考えるべきと思うが、その検討は今後の課題としていきたい。この料紙は、田中のいうとおり公式文書に使用されることはないように思うのだが、もう少し材料を集めないと、結論が出せないところである。奉書紙は、簀目が大高檀紙よりかなり細かい（20本／寸ほど）のでこれに剥ぎ皺をつけると細かい皺になる。田中がいうように板で型押しした皺ではないと思う。いずれにしろ、この料紙を、田中は檀紙の範疇で捉えているが、筆者は奉書紙に皺をつけたものと考えているので、檀紙とは異なる名称を与えたいと思うが、近世史研究者の方々の教を請いたいと思う。

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙于一夕

年号	西曆	料紙分類	縦寸 法	横寸 法	面積	縦横 比	厚み	實面	實目 立	實目 数	糸目 立	糸目 幅	板面	米粉 量	非織 量	織束 量	文書名	函卷 名	番号
1	天仁 3年	檀紙	318	505	160590	1.59	170	表	1	14 0			表	2	1	1	後七日御修法修僧交名	ふ函	2-1
2	天永 2年	檀紙	318	586	186348	1.84	200	表	3	14 0			表	2	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-2
3	天永 4年	檀紙	311	563	175093	1.81	200	表	2	13 1	32		表	2	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-3
4	永久 2年	檀紙	332	565	187580	1.7	230	表	3	14 1	29		表	2	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-4
5	永久 3年	檀紙	330	569	187770	1.72	220	表	2	13 0			表	2	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-5
6	永久 4年	檀紙	317	528	167376	1.67	240	表	1	13 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-6
7	元永 2年	檀紙	322	556	179032	1.73	210	表	1	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-7
8	元永 3年	檀紙	320	556	177920	1.74	240	表	3	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-8
9	保安 2年	杉原紙	310	533	165230	1.72	130	表	3	12 1	30		表	6	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-9
10	保安 3年	檀紙	314	550	172700	1.75	210	表	1	14 0			表	4	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-10
11	保安 4年	檀紙	315	560	176400	1.78	220	表	1	12 0			表	4	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-11
12	保安 5年	檀紙	305	581	177205	1.9	240	表	2	13 0			表	4	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-12
13	天治 2年	檀紙	318	577	183486	1.81	200	表	2	13 0			表	3	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-13
14	天治 3年	檀紙	317	549	174033	1.73	200	表	1	13 1	27		表	3	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-14
15	大治 2年	檀紙	317	582	184494	1.84	190	表	3	11 0			表	4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-15
16	大治 3年	檀紙	310	563	174530	1.82	230	表	2	13 0			表	4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-16
17	大治 4年	檀紙	321	580	186180	1.81	240	表	2	13 0			表	2	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-17
18	大治 5年	檀紙	316	560	176960	1.77	210	表	1	13 0			表	3	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-18
19	大治 6年	檀紙	315	581	183015	1.84	220	表	2	14 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-19
20	天承 2年	檀紙	312	552	172224	1.77	170	表	1	14 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-20
21	長承 2年	檀紙	313	563	176219	1.8	240	表	1	14 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-21
22	長承 3年	檀紙	322	565	181930	1.75	260	表	2	14 0			表	2	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-22
23	長承 4年	檀紙	321	572	183612	1.78	190	表	3	12 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-23
24	保延 2年	杉原紙	316	535	169060	1.69	160	表	2	13 1	32		表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-24
25	保延 3年	檀紙	325	593	192725	1.82	230	表	2	13 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-25
26	保延 4年	杉原紙	319	587	187253	1.84	170	表	3	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-26
27	保延 5年	檀紙	326	588	191688	1.8	200	表	0	13 1	32		表	2	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-27
28	保延 6年	檀紙	324	590	191160	1.82	170	表	1	14 0			表	4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-28
29	保延 7年	檀紙	322	558	179676	1.73	200	表	1	14 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-29
30	永治 2年	檀紙	325	574	186550	1.77	210	表	3	13 1	25		表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-30
31	康治 2年	杉原紙	302	500	151000	1.66	170	表	1	13 0			表	6	5	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-31
32	康治 3年	檀紙	322	559	179998	1.74	210	表	1	14 1	25		表	6	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-32
33	天養 2年	檀紙	325	541	175825	1.66	220	表	1	13 0			表	6	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-33
34	久安 2年	檀紙	325	573	186225	1.76	270	表	1	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	2-34

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙子一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸 法	横寸 法	面積	縦横 比	厚み	質面	質目 立	質目 数	糸目 立	糸目 幅	板面	米粉 量	非織 量	織束 量	文書名	函卷 名	番号
35	久安 3年	1147 檀紙	325	576	187200	1.77	250	表	1	14 0			表	2	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-35
36	久安 4年	1148 檀紙	317	549	174033	1.73	190	表	3	13 0			表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-36
37	久安 5年	1149 檀紙	324	547	177228	1.69	190	表	2	14 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-37
38	久安 6年	1150 檀紙	327	577	188679	1.76	330	表	1	13 0			表	2	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-38
39	久安 7年	1151 檀紙	319	563	179597	1.76	230	表	1	14 0			表	2	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-39
40	仁平 2年	1152 檀紙	325	581	188825	1.79	310	表	2	13 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-40
41	仁平 3年	1153 檀紙	329	589	193781	1.79	240	表	2	13 0			表	6	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-41
42	仁平 4年	1154 檀紙	325	548	178100	1.69	200	表	1	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-42
43	久寿 2年	1155 杉原紙	330	580	191400	1.76	140	表	3	13 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-43
44	久寿 3年	1156 檀紙	325	564	183300	1.74	220	表	2	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-44
45	保元 2年	1157 檀紙	325	543	176475	1.67	210	表	2	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-45
46	保元 3年	1158 檀紙	324	570	184680	1.76	180	表	1	13 0			表	4	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-46
47	保元 4年	1159 檀紙	333	561	186813	1.68	200	表	2	13 0			表	4	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	ふ函	2-47
48	永暦 2年	1161 檀紙	340	490	166600	1.44	234	表	2	13 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-1
49	応保 2年	1162 檀紙	340	562	191080	1.65	228	表	1	13 0			表	3	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-2
50	応保 3年	1163 檀紙	336	567	190512	1.69	342	表	2	12 0			表	2	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-3
51	長寛 2年	1164 檀紙	325	551	179075	1.7	204	表	1	12 0			表	3	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-4
52	長寛 3年	1165 檀紙	330	581	191730	1.76	140	表	3	12 1	35		表	6	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-5
53	永万 2年	1166 檀紙	319	570	181830	1.79	218	表	3	13 0			表	6	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-6
54	仁安 2年	1167 檀紙	330	569	187770	1.72	192	表	3	12 1	23		表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-7
55	仁安 3年	1168 檀紙	333	546	181818	1.64	196	表	2	14 0			表	1	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-8
56	仁安 4年	1169 檀紙	321	572	183612	1.78	236	表	0	14 0			表	1	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-9
57	嘉応 2年	1170 檀紙	319	559	178321	1.75	244	表	1	13 0			表	2	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-10
58	嘉応 3年	1171 杉原紙	312	555	173160	1.78	154	表	1	12 0			表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-11
59	承安 2年	1172 杉原紙	312	555	173160	1.78	136	表	1	14 0			表	1	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-12
60	承安 3年	1173 檀紙	314	552	173328	1.76	168	表	1	14 1	26		表	2	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-13
61	承安 4年	1174 杉原紙	316	538	170008	1.7	138	表	1	14 1	26		表	3	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-14
62	承安 5年	1175 檀紙	335	564	188940	1.68	180	表	2	13 1	35		表	4	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-15
63	安元 2年	1176 檀紙	325	585	190125	1.8	282	表	1	13 0			表	6	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-16
64	安元 3年	1177 檀紙	332	574	190568	1.73	206	表	1	13 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-17
65	治承 2年	1178 檀紙	332	569	188908	1.71	178	表	1	15 0			表	0	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-18
66	治承 3年	1179 檀紙	326	532	173432	1.63	232	表	1	15 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-19
67	治承 4年	1180 檀紙	330	570	188100	1.73	224	表	1	15 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-20
68	治承 5年	1181 檀紙	323	535	172805	1.66	208	表	1	13 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	1-21

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙于一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	實面	實目立	實目数	糸目立	糸目幅	板面	米粉量	非織量	織束量	文書名	函巻名	番号
69	養和 2年	檀紙	335	558	186930	1.67	180	表	1	12	0		表	5	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-22
70	壽永 2年	檀紙	343	586	200998	1.71	206	表	1	14	0		表	5	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-23
71	壽永 3年	檀紙	340	588	199920	1.73	250	表	1	14	1	33	表	4	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-24
72	元暦 2年	檀紙	320	512	163840	1.6	242	表	2	14	0		表	3	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-25
73	建久 2年	檀紙	337	535	180295	1.59	206	表	2	13	0		表	5	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-26
74	建久 3年	檀紙	340	580	197200	1.71	246	表	2	13	1	28	表	4	3	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-27
75	建久 4年	檀紙	338	566	191308	1.67	206	表	2	13	0		表	5	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-28
76	建久 5年	檀紙	339	511	173229	1.51	190	表	2	12	1	35	表	5	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-29
77	建久 6年	檀紙	340	540	183600	1.59	218	表	2	13	0		表	6	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-30
78	建久 7年	檀紙	332	572	189904	1.72	238	表	3	12	1	30	表	6	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-31
79	建久 8年	檀紙	339	567	192213	1.67	190	表	3	13	0		表	5	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-32
80	建久 9年	檀紙	338	586	198068	1.73	190	表	3	12	1	35	表	6	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-33
81	建久10年	檀紙	338	581	196378	1.72	220	表	2	14	0		表	6	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-34
82	正治 2年	檀紙	333	566	188478	1.7	192	表	3	12	1	23	表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-35
83	正治 3年	檀紙	340	571	194140	1.68	238	表	3	14	0		表	6	3	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-36
84	建仁 2年	檀紙	335	566	189610	1.69	254	表	3	14	0		表	4	3	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-37
85	建仁 3年	檀紙	337	552	186024	1.64	226	表	2	13	1	31	表	3	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-38
86	建仁 4年	檀紙	336	585	196560	1.74	216	表	2	14	0		表	4	3	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-39
87	元久 2年	檀紙	343	580	198940	1.69	220	表	1	14	0		表	6	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-40
88	元久 3年	檀紙	335	570	190950	1.7	230	表	2	13	0		表	6	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-41
89	建永 2年	強杉原	347	577	200219	1.66	260	表	1	13	0		表	2	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-42
90	承元 2年	杉原紙	322	571	183862	1.77	170	表	1	13	0		表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-43
91	承元 3年	杉原紙	330	551	181830	1.67	140	表	2	15	0		表	6	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-44
92	承元 4年	杉原紙	328	536	175808	1.63	210	表	2	14	0		表	6	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	1-45
93	弘長 2年	檀紙	349	537	187413	1.54	380	表	1	14	0		表	3	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-1
94	弘長 3年	檀紙	343	520	178360	1.52	390	表	1	13	0		表	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-2
95	弘長 4年	檀紙	344	544	187136	1.58	390	表	1	14	0		表	4	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-3
96	文永 2年	檀紙	349	544	189856	1.56	370	表	1	13	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-4
97	文永 3年	檀紙	350	567	198450	1.62	410	表	1	13	0		表	3	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-5
98	文永 4年	檀紙	361	570	205770	1.58	400	表	1	13	0		表	3	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-6
99	文永 5年	檀紙	358	564	201912	1.58	420	表	1	14	0		表	4	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-7
100	文永 6年	檀紙	355	566	200930	1.59	420	表	2	13	0		表	4	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-8
101	文永 7年	檀紙	360	573	206280	1.59	380	表	2	12	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-9
102	文永 8年	檀紙	340	522	177480	1.54	280	表	2	13	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	2-10

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙于一夕

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	竪目立	竪目数	糸目立	糸目幅	板面	米分量	非織量	織束量	文書名	函卷名	番号
103	文永9年	檀紙	356	575	204700	1.62	350	表	1	12	0	表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-11
104	文永10年	檀紙	355	552	195960	1.55	380	表	2	13	0	表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-12
105	文永11年	檀紙	355	554	196670	1.56	380	表	2	13	0	表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-13
106	文永12年	檀紙	358	571	204418	1.59	430	表	2	12	0	表	3	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-14
107	建治2年	檀紙	358	571	204418	1.59	370	表	2	13	0	表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-15
108	建治3年	檀紙	352	540	190080	1.53	360	表	2	14	0	表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-16
109	建治4年	檀紙	346	548	189608	1.58	350	表	1	13	0	表	3	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-17
110	弘安2年	檀紙	347	528	183216	1.52	340	表	0	12	0	表	3	1	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-18
111	弘安3年	檀紙	351	562	197262	1.6	270	表	2	13	0	表	3	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-19
112	弘安4年	檀紙	355	573	203415	1.61	390	表	2	13	0	表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-20
113	弘安5年	檀紙	350	536	187600	1.53	290	表	3	12	0	表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-21
114	弘安6年	檀紙	352	571	200992	1.62	320	表	2	12	0	表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-22
115	弘安7年	檀紙	352	570	200640	1.62	360	表	2	13	0	表	4	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-23
116	弘安8年	檀紙	346	546	188916	1.58	320	表	2	14	0	表	4	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-24
117	弘安9年	檀紙	350	560	196000	1.6	390	表	1	12	0	表	3	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-25
118	弘安10年	檀紙	347	493	171071	1.42	270	表	2	12	1	33	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-26
119	弘安11年	檀紙	345	542	186990	1.57	290	表	2	13	0	表	4	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-27
120	正応2年	檀紙	345	547	188715	1.59	270	表	2	12	0	表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-28
121	正応3年	檀紙	343	512	175616	1.49	220	表	1	14	0	表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-29
122	正応4年	檀紙	341	542	184822	1.59	360	表	2	14	0	表	5	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-30
123	正応5年	檀紙	352	570	200640	1.62	230	表	2	13	1	25	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-31
124	正応6年	檀紙	341	540	184140	1.58	320	表	2	13	0	表	4	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-32
125	永仁2年	檀紙	337	535	180295	1.59	290	表	2	14	1	25	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-33
126	永仁3年	檀紙	353	563	198739	1.59	270	表	1	12	0	表	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-34
127	永仁4年	檀紙	354	571	202134	1.61	310	表	3	13	0	表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-35
128	永仁5年	檀紙	348	565	196620	1.62	360	表	2	13	1	32	4	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-36
129	永仁6年	檀紙	349	515	179735	1.48	310	表	1	14	1	28	4	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-37
130	永仁7年	檀紙	357	575	205275	1.61	240	表	2	13	0	表	4	1	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-38
131	正安2年	檀紙	343	541	185563	1.58	260	表	2	13	0	表	3	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-39
132	正安3年	檀紙	342	539	184338	1.58	300	表	2	13	0	表	3	1	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-40
133	正安4年	檀紙	344	555	190920	1.61	270	表	2	13	0	表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-41
134	乾元2年	檀紙	354	565	200010	1.6	350	表	2	14	0	表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-42
135	嘉元2年	檀紙	345	541	186645	1.57	260	表	2	13	0	表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-43
136	嘉元3年	強杉原	360	576	207360	1.6	360	表	3	12	0	表	3	5	3	真言院後七日御修法請僧交名	ろ函	2-44

表 1 真言院後七日御修法僧交名料紙子一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	質面	質立	質目数	糸目立	糸目幅	板面	米粉量	非織量	織束量	文書名	函巻名	番号
137	嘉元 4年	檀紙	335	544	182240	1.62	240	表	2	14	0		表	5	3	5	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	2-45
138	徳治 2年	檀紙	338	541	182858	1.6	240	表	2	14	0		表	4	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	2-46
139	徳治 3年	檀紙	341	531	181071	1.56	290	表	2	13	0		表	4	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	2-47
140	延慶 2年	檀紙	342	545	186390	1.59	280	表	2	13	1	30	表	4	3	5	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	2-48
141	延慶 3年	檀紙	341	534	182094	1.57	270	表	2	13	0		表	4	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	2-49
142	延慶 4年	檀紙	339	510	172890	1.5	300	表	3	15	0		表	3	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	2-50
143	応長 2年	檀紙	337	528	177936	1.57	350	表	2	14	1	25	表	3	1	5	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-1
144	正和 2年	檀紙	340	534	181560	1.57	220	表	3	14	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-2
145	正和 3年	檀紙	335	529	177215	1.58	260	表	3	13	1	27	表	3	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-3
146	正和 4年	檀紙	340	541	183940	1.59	250	表	3	13	1	23	表	3	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-4
147	正和 5年	檀紙	343	539	184877	1.57	300	表	2	14	0		表	4	1	2	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-5
148	正和 6年	檀紙	357	568	202776	1.59	470	表	3	12	0		表	2	3	2	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-6
149	文保 2年	檀紙	338	533	180154	1.58	360	表	2	14	0		表	3	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-7
150	文保 3年	檀紙	337	530	178610	1.57	290	表	2	14	0		表	2	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-8
151	元応 2年	檀紙	338	534	180492	1.58	290	表	2	13	1	23	表	2	1	0	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-9
152	元応 3年	檀紙	358	570	204060	1.59	440	表	4	12	0		表	3	1	1	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-10
153	元亨 2年	檀紙	338	545	184210	1.61	290	表	2	14	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-11
154	元亨 3年	檀紙	338	530	179140	1.57	260	表	2	15	0		表	2	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-12
155	元亨 4年	檀紙	353	595	210035	1.69	330	表	2	13	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-13
156	正中 2年	檀紙	360	575	207000	1.6	350	表	2	14	1	30	表	3	1	2	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-14
157	正中 3年	檀紙	332	507	168324	1.53	240	表	2	14	1	25	表	3	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-15
158	嘉暦 2年	檀紙	352	555	195360	1.58	320	表	4	13	0		表	4	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-16
159	嘉暦 3年	檀紙	356	566	201496	1.59	370	表	3	12	0		表	6	3	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-17
160	嘉暦 4年	檀紙	332	514	170648	1.55	330	表	1	13	1	21	表	6	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-18
161	元徳 2年	檀紙	352	549	193248	1.56	390	表	2	16	1	21	表	2	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-19
162	元徳 3年	檀紙	352	594	209088	1.69	260	表	2	13	0		表	4	1	1	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-20
163	元弘 2年	檀紙	355	561	199155	1.58	310	表	2	13	0		表	4	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-21
164	正慶 2年	檀紙	355	580	205900	1.63	280	表	3	12	0		表	4	1	1	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-22
165	元弘 4年	檀紙	339	560	189840	1.65	274	表	3	11	0		表	4	3	2	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-23
166	建武 2年	檀紙	355	539	191345	1.52	342	表	2	11	1	33	表	4	3	5	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-24
167	建武 3年	檀紙	366	576	210816	1.57	408	表	3	11	1		表	3	3	5	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-25
168	建武 4年	檀紙	334	508	169672	1.52	254	表	2	15	1	23	表	4	1	2	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-26
169	建武 5年	檀紙	333	516	171828	1.55	268	表	2	15	1	23	表	4	1	1	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-27
170	暦応 2年	檀紙	335	530	177550	1.58	242	表	2	15	1	19	表	2	1	3	真言院後七日御修法僧交名	ろ函	3-28

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙子一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	質面	質目立	質目数	糸目立	糸目幅	板面	米分量	非織量	織束量	文書名	函巻名	番号
171	曆応3年	1340	杉原紙	335	530	177550	1.58	244	表	2	16	1	24	3	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-29
172	曆応4年	1341	檀紙	352	558	196416	1.59	394	表	3	11	0		2	1	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-30
173	曆応5年	1342	檀紙	349	549	191601	1.57	222	表	3	11	0		4	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-31
174	康永2年	1343	檀紙	341	546	186186	1.6	246	表	3	11	0		5	1	2	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-32
175	康永3年	1344	檀紙	353	551	194503	1.56	308	表	4	11	0		4	1	2	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-33
176	康永4年	1345	檀紙	354	593	209922	1.68	382	表	3	12	0		4	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-34
177	貞和2年	1346	強杉原	370	583	215710	1.58	452	表	3	12	0		4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-35
178	貞和3年	1347	檀紙	347	606	210282	1.75	188	表	3	10	0		4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-36
179	貞和4年	1348	檀紙	348	600	208800	1.72	304	表	3	11	0		4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-37
180	貞和5年	1349	檀紙	349	612	213588	1.75	268	表	2	13	0		4	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-38
181	貞和6年	1350	強杉原	353	561	198033	1.59	380	表	4	10	0		3	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-39
182	正平6年	1351	強杉原	348	543	188964	1.56	404	表	4	11	0		2	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-40
183	正平7年	1352	強杉原	365	573	209145	1.57	306	表	4	10	0		2	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-41
184	文和2年	1353	強杉原	352	558	196416	1.59	412	表	2	12	0		3	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-42
185	文和3年	1354	強杉原	352	584	205568	1.66	516	表	3	11	0		2	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-43
186	文和4年	1355	強杉原	348	564	196272	1.62	282	表	4	10	0		0	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-44
187	延文元年	1356	強杉原	335	544	182240	1.62	250	表	3	10	0		3	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-45
188	延文2年	1357	強杉原	350	566	198100	1.62	300	表	3	10	0		2	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-46
189	延文3年	1358	強杉原	345	559	192855	1.62	272	表	3	10	0		0	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-47
190	延文4年	1359	強杉原	347	559	193973	1.61	322	表	3	10	0		2	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-48
191	延文5年	1360	引合	373	614	229022	1.65	340	表	0				0	1	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-49
192	延文6年	1361	強杉原	331	494	163514	1.49	280	表	3	11	0		4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-50
193	貞治元年	1362	強杉原	345	550	189750	1.59	342	表	3	10	0		2	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	3-51
194	貞治2年	1363	強杉原	347	538	186686	1.55	306	表	5	9	0		2	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-1
195	貞治3年	1364	強杉原	348	536	186528	1.54	258	表	4	11	0		1	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-2
196	貞治4年	1365	強杉原	353	557	196621	1.58	300	表	5	10	1	35	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-3
197	貞治5年	1366	強杉原	354	567	200718	1.6	610	表	5	10	0		0	2	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-4
198	貞治6年	1367	檀紙	355	590	209450	1.66	448	裏	1	12	0		3	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-5
199	貞治7年	1368	檀紙	353	592	208976	1.68	364	表	3	13	1	25	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-6
200	応安2年	1369	強杉原	350	567	198450	1.62	272	表	4	12	1	28	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-7
201	応安3年	1370	檀紙	338	522	176436	1.54	278	表	3	14	1	31	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-8
202	応安4年	1371	杉原紙	347	524	181828	1.51	214	表	3	14	1	28	4	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-9
203	応安5年	1372	強杉原	355	566	200930	1.59	372	表	5	10	0		4	5	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-10
204	応安6年	1373	杉原紙	335	506	169510	1.51	246	表	3	14	2	26	4	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-11

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	實立	實目数	糸目立	糸目幅	板面	米粉量	非織量	織束量	文書名	函巻名	番号	
205	応安 7年	1374	強杉原	342	553	189126	1.62	352	表	4	12	1	35	表	2	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-12
206	応安 8年	1375	強杉原	337	510	171870	1.51	280	表	4	11	1	30	表	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-13
207	永和 2年	1376	強杉原	348	560	194880	1.61	414	表	5	10	1	37	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-14
208	永和 3年	1377	強杉原	350	567	198450	1.62	510	表	4	10	1	30	表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-15
209	永和 4年	1378	強杉原	349	564	196836	1.62	464	表	5	9	0		表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-16
210	永和 5年	1379	強杉原	354	567	200718	1.6	466	表	5	10	0		表	0	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-17
211	康暦 2年	1380	強杉原	370	600	222000	1.62	290	表	4	10	1	30	表	2	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-18
212	康暦 3年	1381	強杉原	349	564	196836	1.62	420	表	5	11	1	30	表	0	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-19
213	永徳 2年	1382	強杉原	370	582	215340	1.57	258	表	4	10	1	28	表	2	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-20
214	永徳 3年	1383	強杉原	371	585	217035	1.58	282	表	5	10	2	31	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-21
215	永徳 4年	1384	強杉原	368	588	216384	1.6	226	表	5	9	1	30	表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-22
216	至徳 2年	1385	強杉原	374	586	219164	1.57	234	表	4	11	1	31	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-23
217	至徳 3年	1386	強杉原	352	556	195712	1.58	444	表	4	12	0		表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-24
218	至徳 4年	1387	強杉原	370	590	218300	1.59	258	表	5	12	1	34	表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-25
219	嘉慶 2年	1388	強杉原	364	591	215124	1.62	284	表	4	12	1	31	表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-26
220	嘉慶 3年	1389	強杉原	348	565	196620	1.62	306	表	5	10	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-27
221	康応 2年	1390	強杉原	347	556	192932	1.6	328	表	4	11	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-28
222	明徳 2年	1391	強杉原	345	561	193545	1.63	384	表	5	12	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-29
223	明徳 3年	1392	強杉原	350	594	207900	1.7	464	表	5	9	0		表	6	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-30
224	明徳 4年	1393	強杉原	350	566	198100	1.62	412	表	5	12	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-31
225	明徳 5年	1394	強杉原	369	580	214020	1.57	238	表	5	11	1	29	表	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	4-32
226	応永 2年	1395	強杉原	345	549	189405	1.59	442	表	3	11	0		表	0	4	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-1
227	応永 3年	1396	強杉原	345	549	189405	1.59	388	表	5	11	1	30	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-2
228	応永 4年	1397	強杉原	346	557	192722	1.61	290	表	4	10	1	35	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-3
229	応永 5年	1398	強杉原	346	557	192722	1.61	340	表	5	8	1	35	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-4
230	応永 6年	1399	強杉原	346	566	195836	1.64	420	表	4	10	1	40	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-5
231	応永 7年	1400	強杉原	350	566	198100	1.62	370	表	3	10	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-6
232	応永 8年	1401	強杉原	349	560	195440	1.6	472	表	5	11	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-7
233	応永 9年	1402	強杉原	343	553	189679	1.61	338	表	3	11	1	35	表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-8
234	応永10年	1403	強杉原	345	556	191820	1.61	380	表	5	11	1	35	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-9
235	応永11年	1404	強杉原	345	558	192510	1.62	324	表	5	9	0		表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-10
236	応永12年	1405	強杉原	344	554	190576	1.61	334	表	3	10	1	25	表	0	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-11
237	応永13年	1406	強杉原	348	558	194184	1.6	460	表	4	11	0		表	1	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-12

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙テ一タ

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	質面	質立	質目数	糸目立	糸目幅	板面	米粉量	非織量	織束量	文書名	函巻名	番号
238	応永14年	1407 強杉原	342	556	190152	1.63	284	表	4	11 0			表	0	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-13
239	応永15年	1408 強杉原	344	563	193672	1.64	240	表	5	11 1		35	表	0	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-14
240	応永16年	1409 強杉原	342	557	190494	1.63	230	表	4	10 0			表	2	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-15
241	応永17年	1410 強杉原	341	556	189596	1.63	354	表	4	11 1		26	表	0	5	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-16
242	応永18年	1411 強杉原	342	558	190836	1.63	218	表	4	10 1		40	表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-17
243	応永19年	1412 強杉原	342	555	189810	1.62	230	表	5	11 0			表	0	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-18
244	応永20年	1413 強杉原	342	554	189468	1.62	250	表	4	10 1		41	表	1	4	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-19
245	応永21年	1414 強杉原	341	554	188914	1.62	228	表	4	10 1		39	表	4	3	2	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-20
246	応永22年	1415 強杉原	342	560	191520	1.64	204	表	4	11 1		36	表	4	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-21
247	応永23年	1416 強杉原	341	555	189255	1.63	272	表	4	12 0			表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-22
248	応永24年	1417 強杉原	343	555	190365	1.62	306	表	5	12 0			表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-23
249	応永25年	1418 強杉原	340	555	188700	1.63	294	表	4	11 0			表	4	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-24
250	応永26年	1419 強杉原	342	555	189810	1.62	248	表	4	11 0			表	2	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-25
251	応永27年	1420 強杉原	342	558	190836	1.63	278	表	4	11 0			表	1	3	2	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-26
252	応永28年	1421 強杉原	340	555	188700	1.63	280	表	4	11 0			表	1	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-27
253	応永29年	1422 杉原紙	347	592	205424	1.71	226	表	4	11 0			表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-28
254	応永30年	1423 強杉原	339	541	183399	1.6	274	表	4	11 0			表	1	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-29
255	応永31年	1424 強杉原	340	532	180880	1.56	288	表	5	11 0			表	2	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-30
256	応永32年	1425 強杉原	338	551	186238	1.63	310	表	4	11 0			表	0	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-31
257	応永33年	1426 強杉原	341	544	185504	1.6	230	表	5	11 0			表	1	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-32
258	応永34年	1427 強杉原	342	553	189126	1.62	226	表	4	11 1		38	表	0	3	1	後七日御修法請僧交名	小函	5-33
259	応永35年	1428 強杉原	340	551	187340	1.62	232	表	4	11 0			表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-34
260	正長 2年	1429 強杉原	341	556	189596	1.63	258	表	4	11 0			表	4	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-35
261	永享 2年	1430 強杉原	342	554	189468	1.62	184	表	4	11 1		42	表	1	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-36
262	永享 3年	1431 強杉原	337	557	187709	1.65	248	表	4	11 0			表	1	1	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-37
263	永享 4年	1432 強杉原	338	556	187928	1.64	192	表	5	11 1		37	表	1	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-38
264	永享 5年	1433 強杉原	340	555	188700	1.63	180	表	4	11 1		40	表	1	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-39
265	永享 6年	1434 強杉原	339	554	187806	1.63	198	表	5	11 1		38	表	1	1	3	後七日御修法請僧交名	小函	5-40
266	永享 7年	1435 強杉原	340	552	187680	1.62	196	表	5	11 1		40	表	0	3	5	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-41
267	永享 8年	1436 強杉原	340	544	184960	1.6	232	表	5	10 1		38	表	0	3	3	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-42
268	永享 9年	1437 強杉原	340	545	185300	1.6	234	表	5	10 1		34	表	0	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-43
269	永享10年	1438 強杉原	342	556	190152	1.63	290	表	4	11 0			表	0	3	1	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-44
270	永享11年	1439 強杉原	336	545	183120	1.62	228	表	5	11 0			表	0	3	2	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-45
271	永享12年	1440 強杉原	336	552	185472	1.64	268	表	5	11 0			表	1	3	4	真言院後七日御修法請僧交名	小函	5-46

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙データ

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	質面	質立	質日数	糸目立	糸目幅	板面	米粉量	非織量	織量	文書名	函名	番号
272	永享13年	1441 強杉原	340	555	188700	1.63	324	表	5	11	0		表	0	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-47
273	嘉吉2年	1442 強杉原	344	555	190920	1.61	308	表	5	11	0		表	0	3	4	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-48
274	嘉吉3年	1443 強杉原	340	555	188700	1.63	250	表	5	11	0		表	0	3	4	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-49
275	嘉吉4年	1444 強杉原	338	554	187252	1.64	266	表	5	12	1	43	表	0	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-50
276	文安2年	1445 強杉原	342	550	188100	1.61	314	表	4	11	0		表	0	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	5-51
277	文安3年	1446 強杉原	338	539	182182	1.59	264	表	4	11	1	35	表	0	5	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-1
278	文安4年	1447 強杉原	345	563	194235	1.63	276	表	4	12	0		表	0	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-2
279	文安5年	1448 強杉原	343	562	192766	1.64	228	表	4	12	0		表	0	3	4	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-3
280	文安6年	1449 強杉原	340	552	187680	1.62	248	表	5	11	1	35	表	0	5	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-4
281	宝徳2年	1450 強杉原	342	542	185364	1.58	272	表	5	11	1	40	表	0	5	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-5
282	宝徳3年	1451 強杉原	341	542	184822	1.59	218	表	5	11	0		表	0	5	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-6
283	宝徳4年	1452 強杉原	340	556	189040	1.64	224	表	4	11	0		表	0	3	5	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-7
284	享徳2年	1453 強杉原	336	554	186144	1.65	246	表	5	11	1	36	表	0	5	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-8
285	享徳3年	1454 強杉原	332	552	183264	1.66	200	表	4	12	1	28	表	0	3	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-9
286	康正元年	1455 強杉原	338	552	186576	1.63	224	表	4	11	1	37	表	0	3	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-10
287	長祿4年	1460 強杉原	344	550	189200	1.6	282	表	4	12	0		表	0	3	3	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-11
288	元和9年	1623 大高檀紙	344	627	215688	1.82	280	表	4	13	2	36	表	0	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-12
289	元和10年	1624 大高檀紙	347	657	227979	1.89	272	表	5	12	1	35	表	0	1	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-13
290	寛永2年	1625 大高檀紙	347	670	232490	1.93	298	表	4	13	1	36	表	0	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-14
291	寛永3年	1626 大高檀紙	346	535	185110	1.55	246	表	4	12	2	35	表	0	0	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-15
292	寛永4年	1627 大高檀紙	344	597	205368	1.74	182	表	4	12	2	35	表	1	1	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-16
293	寛永5年	1628 大高檀紙	345	599	206655	1.74	322	表	5	13	1	36	表	0	1	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-17
294	寛永6年	1629 大高檀紙	345	658	227010	1.91	312	表	4	13	1	37	表	0	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-18
295	寛永7年	1630 大高檀紙	343	593	203399	1.73	264	表	4	13	1	34	裏	0	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-19
296	寛永9年	1632 大高檀紙	342	607	207594	1.77	312	表	4	12	0		表	0	1	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-1
297	寛永10年	1633 大高檀紙	342	609	208278	1.78	286	表	4	12	1	37	表	0	0	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-2
298	寛永11年	1634 大高檀紙	342	650	222300	1.9	288	表	4	12	1	40	表	0	0	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-3
299	寛永12年	1635 大高檀紙	341	647	220627	1.9	288	表	4	12	0		表	0	0	1	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-4
300	寛永13年	1636 細皺大高	340	512	174080	1.51	332	表	5	22	4	28	表	4	0	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-5
301	寛永14年	1637 細皺大高	340	514	174760	1.51	384	表	5	23	4	28	表	4	0	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-6
302	寛永15年	1638 細皺大高	340	514	174760	1.51	406	表	5	22	4	30	表	4	0	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-7
303	寛永16年	1639 細皺大高	340	514	174760	1.51	348	表	5	23	4	28	表	6	0	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-8
304	寛永17年	1640 細皺大高	340	513	174420	1.51	336	表	5	23	4	28	表	6	0	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-9
305	寛永18年	1641 細皺大高	340	512	174080	1.51	346	表	5	22	4	30	表	4	0	0	真言院後七日御修法修僧交名	ふ函	8-10

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙子一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	竪面	竪立	竪目数	糸目立	糸目幅	板面	米粉量	非織量	織束量	文書名	函卷名	番号
306	寛永19年	1642	細	341	514	175274	1.51	378	表	5	24	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-11
307	寛永20年	1643	細	340	514	174760	1.51	362	表	5	22	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-12
308	寛永21年	1644	細	340	513	174420	1.51	324	表	5	23	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-13
309	正保2年	1645	細	341	514	175274	1.51	384	表	5	23	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-14
310	正保3年	1646	細	340	514	174760	1.51	360	表	5	23	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-15
311	正保4年	1647	細	341	510	173910	1.5	404	表	5	23	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-16
312	正保5年	1648	細	340	509	173060	1.5	338	表	5	23	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-17
313	慶安2年	1649	細	340	511	173740	1.5	400	表	5	23	4	30	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-18
314	慶安3年	1650	細	340	510	173400	1.5	382	表	5	24	4	30	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-19
315	慶安4年	1651	細	340	510	173400	1.5	350	表	5	24	4	28	表	4	0	真言院後七日御修法修僧交名	ろ函	8-20
316	慶安5年	1652	大高檀紙	419	640	268160	1.53	286	表	4	12	1	37	裏	0	3	紫宸殿後七日御修法修僧交名	ろ函	9-1
317	承応2年	1653	大高檀紙	417	641	267297	1.54	300	表	4	13	2	37	裏	0	3	紫宸殿後七日御修法修僧交名	ろ函	9-2
318	承応3年	1654	大高檀紙	418	646	270028	1.55	296	表	4	13	4	38	裏	0	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-3
319	承応4年	1655	大高檀紙	417	624	260208	1.5	380	表	4	12	4	36	裏	0	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-4
320	明暦2年	1656	大高檀紙	417	649	270633	1.56	352	表	4	12	2	36	裏	0	1	紫宸殿後七日御修法修僧交名	ろ函	9-5
321	明暦3年	1657	大高檀紙	418	623	260414	1.49	314	表	4	13	2	36	裏	0	0	紫宸殿後七日御修法修僧交名	ろ函	9-6
322	明暦4年	1658	大高檀紙	418	643	268774	1.54	326	表	4	13	1	36	表	0	1	紫宸殿後七日御修法修僧交名	ろ函	9-7
323	万治2年	1659	大高檀紙	389	648	252072	1.67	294	表	5	14	1	37	表	0	3	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-1
324	万治3年	1660	奉書紙	391	697	272527	1.78	240	表	4	14	3	31	表	6	3	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-2
325	万治4年	1661	奉書紙	392	592	232064	1.51	224	表	1	17	3	30	表	4	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-3
326	寛文2年	1662	奉書紙	392	572	224224	1.46	316	表	1	18	3	25	表	5	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-4
327	寛文4年	1664	奉書紙	418	584	244112	1.4	152	表	1	20	4	34	表	4	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-5
328	寛文5年	1665	奉書紙	420	580	243600	1.38	188	表	1	21	4	30	表	4	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-6
329	寛文6年	1666	奉書紙	444	626	277944	1.41	244	表	1	20	3	31	表	4	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-7
330	寛文9年	1669	大高檀紙	392	530	207760	1.35	292	表	4	14	2	36	表	0	1	後七日御修法修僧交名	ろ函	9-8
331	延宝2年	1674	大高檀紙	388	533	206804	1.37	278	表	4	14	1	36	表	0	1	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-1
332	延宝3年	1675	大高檀紙	388	536	207968	1.38	288	表	4	14	1	37	表	0	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-2
333	延宝4年	1676	大高檀紙	383	515	197245	1.34	226	表	4	14	1	38	表	2	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-3
334	延宝5年	1677	大高檀紙	384	511	196224	1.33	220	表	4	14	2	37	表	2	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-4
335	延宝6年	1678	大高檀紙	384	513	196992	1.34	230	表	4	14	2	38	表	2	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-5
336	延宝7年	1679	大高檀紙	389	513	199557	1.32	312	表	4	13	2	35	表	1	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-1
337	延宝8年	1680	大高檀紙	400	535	214000	1.34	264	表	4	13	1	40	表	2	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-2
338	延宝9年	1681	大高檀紙	400	534	213600	1.34	326	表	4	14	1	40	表	2	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-3
339	天和2年	1682	大高檀紙	389	515	200335	1.32	338	表	4	13	1	39	表	2	0	後七日御修法修僧交名	ろ函	10-4

表 1 真言院後七日御修法修僧交名料紙子一々

年号	西曆	料紙分類	縦寸法	横寸法	面積	縦横比	厚み	實面	實立	實目数	系目立	系目幅	板面	米粉量	非織量	織束量	文書名	函巻名	番号
340	天和 3年	大高檀紙	400	521	208400	1.3	384	表	4	11	0		表	1	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-5
341	天和 4年	大高檀紙	400	522	208800	1.31	442	裏	4	11	0		裏	1	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-6
342	貞享 2年	大高檀紙	384	510	195840	1.33	276	裏	4	15	1	32	表	0	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-7
343	貞享 3年	大高檀紙	386	529	204194	1.37	288	裏	4	16	1	39	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-8
344	貞享 4年	大高檀紙	389	530	206170	1.36	248	裏	4	16	1	34	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-9
345	貞享 5年	大高檀紙	390	532	207480	1.36	210	裏	4	17	2	35	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-10
346	元禄 2年	大高檀紙	395	531	209745	1.34	204	裏	4	16	2	34	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-11
347	元禄 3年	大高檀紙	386	531	204966	1.38	304	裏	4	16	1	38	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-12
348	元禄 4年	大高檀紙	391	528	206448	1.35	252	裏	4	13	2	33	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-13
349	元禄 5年	大高檀紙	392	535	209720	1.36	260	裏	4	12	2	37	表	0	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-14
350	元禄 6年	大高檀紙	393	536	210648	1.36	242	裏	4	13	2	37	表	0	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-15
351	元禄 7年	大高檀紙	392	518	203056	1.32	272	裏	4	14	2	34	表	2	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-16
352	元禄 8年	大高檀紙	392	528	206976	1.35	248	裏	4	13	2	33	表	3	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-17
353	元禄 9年	大高檀紙	418	558	233244	1.33	240	裏	4	23	2	30	表	0	0	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-18
354	元禄10年	大高檀紙	400	538	215200	1.35	244	裏	4	16	2	40	表	2	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-19
355	元禄11年	大高檀紙	393	538	211434	1.37	284	裏	4	15	2	38	表	3	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-20
356	元禄12年	大高檀紙	392	530	207760	1.35	336	裏	4	14	2	38	表	2	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-21
357	元禄13年	大高檀紙	395	528	208560	1.34	286	裏	4	17	2	31	表	3	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-22
358	元禄14年	大高檀紙	391	530	207230	1.36	262	裏	4	16	2	38	表	3	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-23
359	元禄15年	細皺大高	393	562	220866	1.43	452	裏	4	20	1	31	表	1	3	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-24
360	元禄16年	細皺大高	390	585	228150	1.5	276	裏	4	23	1	30	裏	1	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-25
361	元禄17年	細皺大高	393	581	228333	1.48	250	裏	4	23	2	30	裏	1	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-26
362	宝永 2年	細皺大高	397	568	225496	1.43	272	裏	4	19	2	31	表	1	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-27
363	宝永 3年	細皺大高	398	578	230044	1.45	322	裏	4	20	2	32	表	2	3	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-28
364	宝永 4年	大高檀紙	399	512	204288	1.28	414	裏	4	18	0		表	2	3	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-29
365	宝永 5年	大高檀紙	390	527	205530	1.35	260	裏	4	16	2	34	表	4	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-30
366	宝永 6年	大高檀紙	392	515	201880	1.31	444	裏	4	22	0		表	4	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-31
367	宝永 7年	大高檀紙	403	571	230113	1.42	368	裏	4	18	1	40	表	2	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-32
368	宝永 8年	大高檀紙	405	565	228825	1.4	426	裏	4	24	0		表	1	1	0	後七日御修法請僧交名	ろ函	10-33

図1 後七日後修法請僧交名料紙縦寸法の年代変化

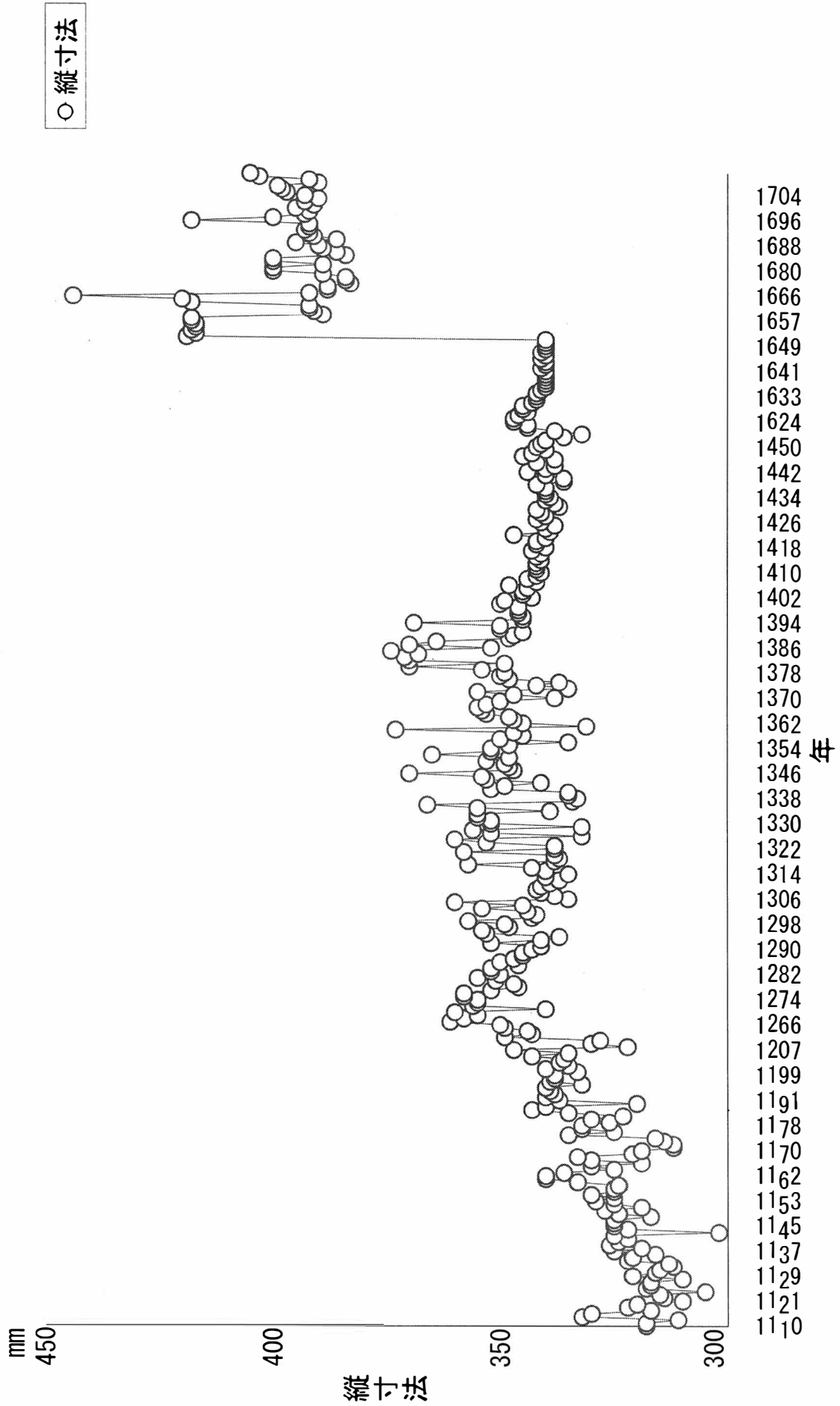


図2 後七日御修法請僧交名料紙横寸法の年代変化

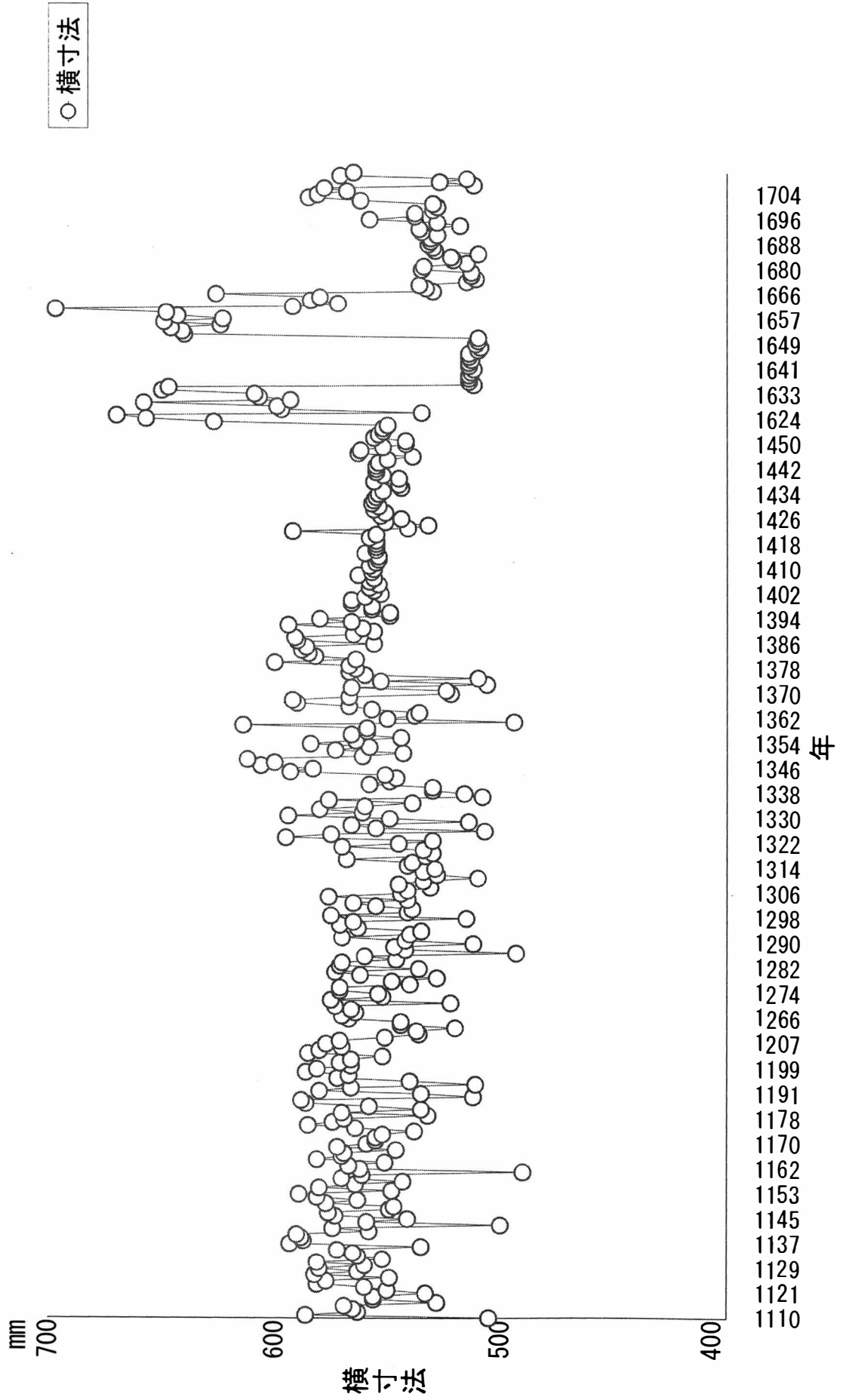


図3 後七日御修法請僧交名料紙面積の年代変化

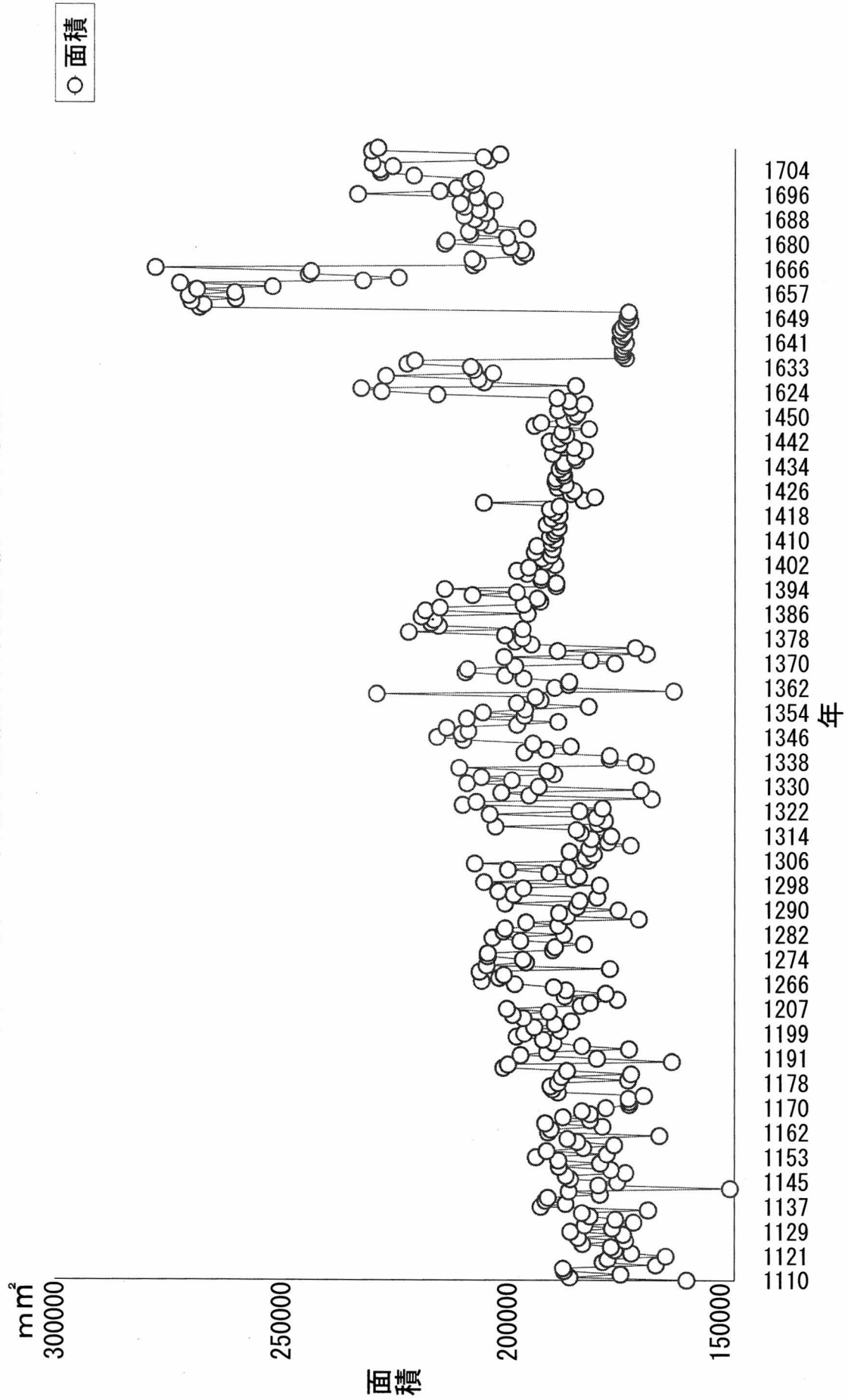


図4 後七日御修法請僧交名料紙縦横比の年代変化

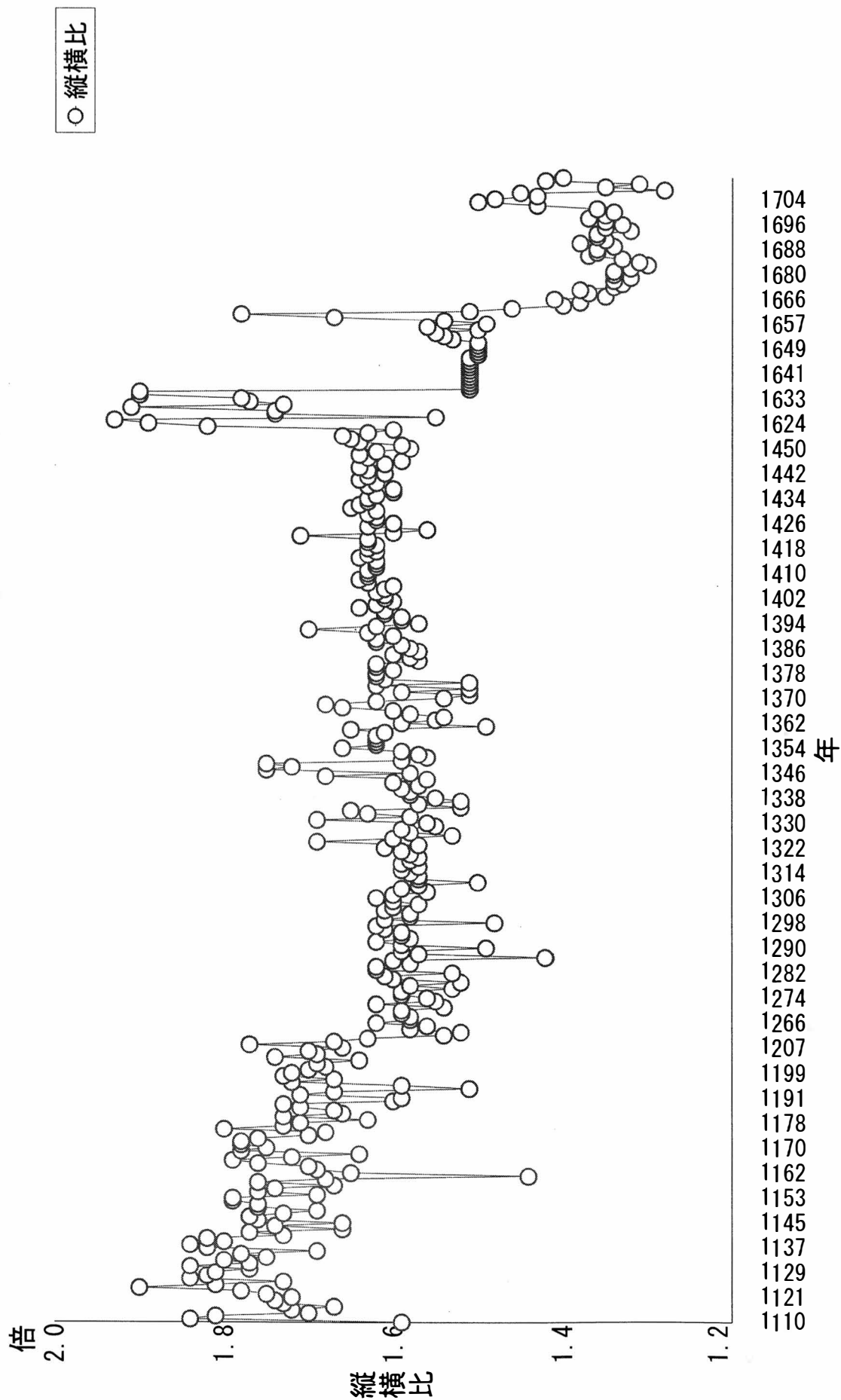


図5 後七日御修法請僧交名料紙厚みの年代変化

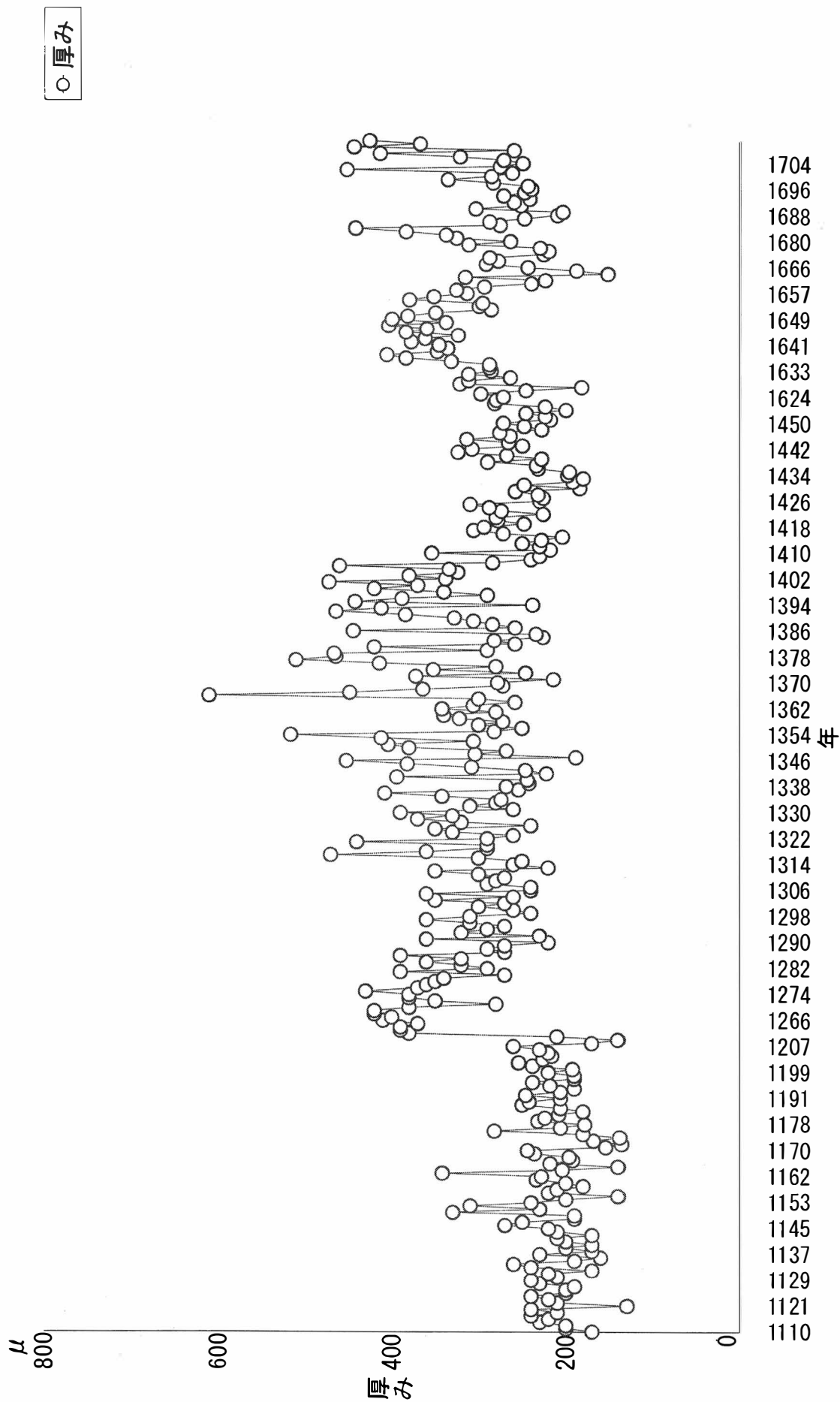


図6 後七日御修法請僧交名料紙簀目立の年代変化

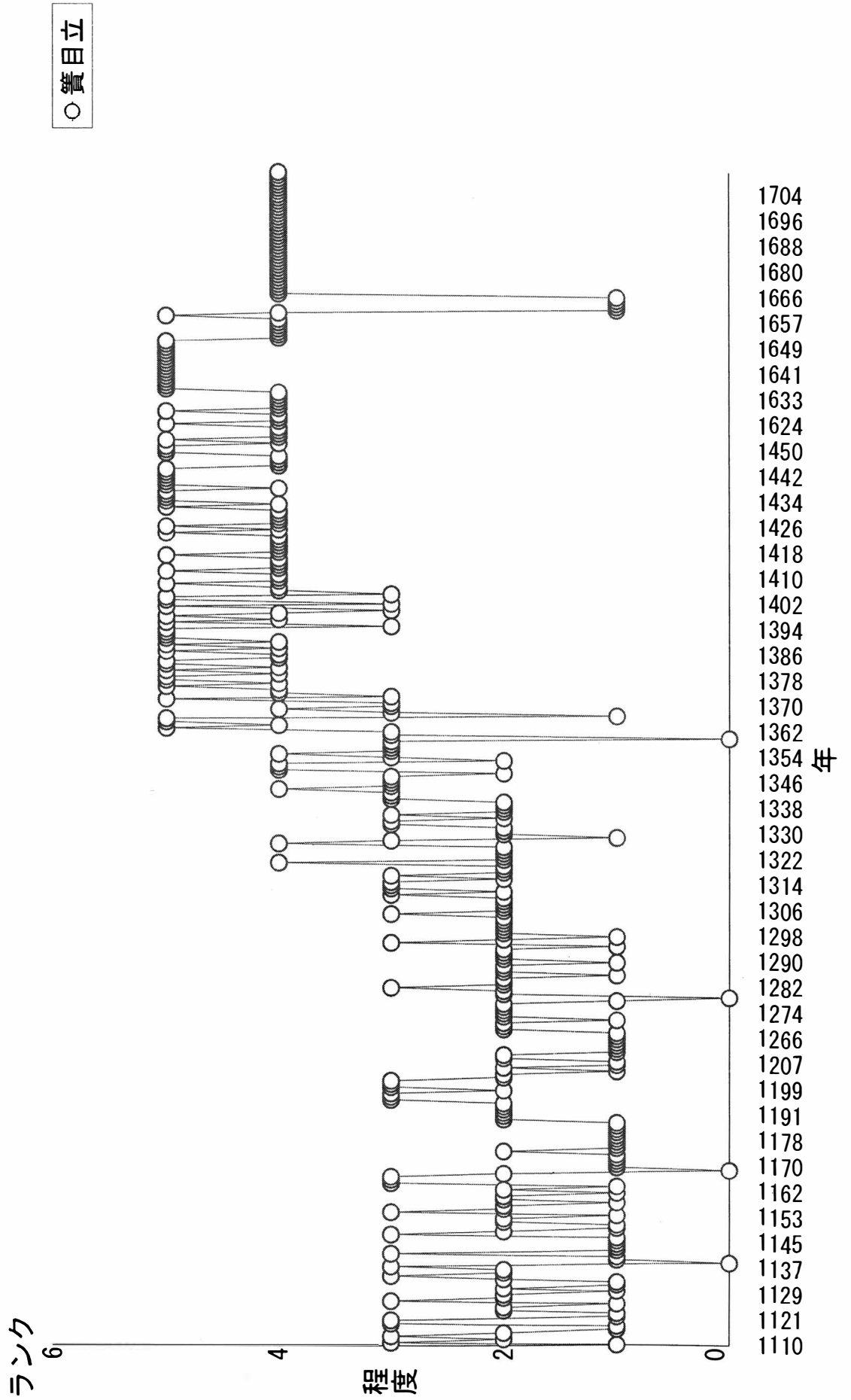


図7 後七日御修法請僧交名料紙簀目数の年代変化

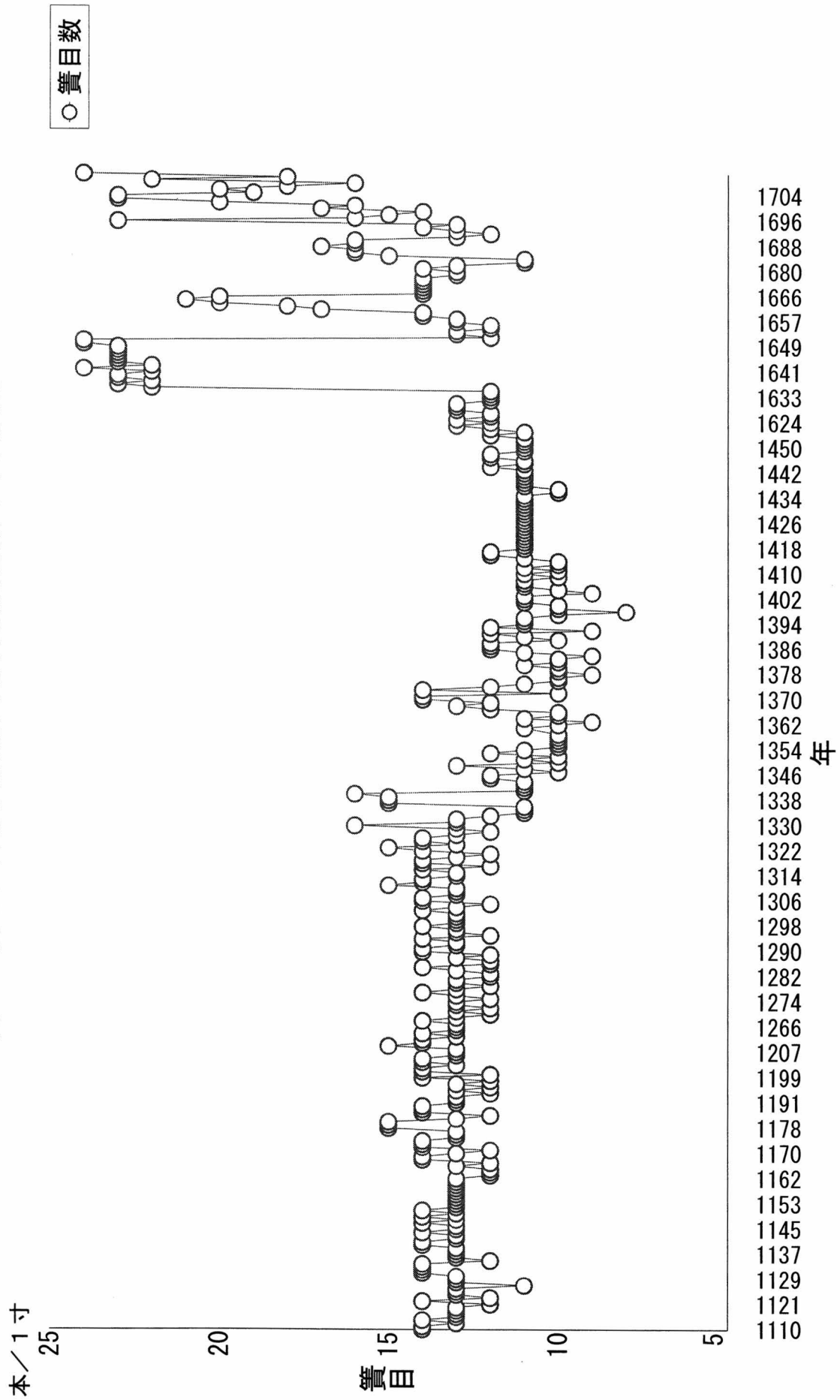


図8 後七日御修法請僧交名料紙系目立の年代変化

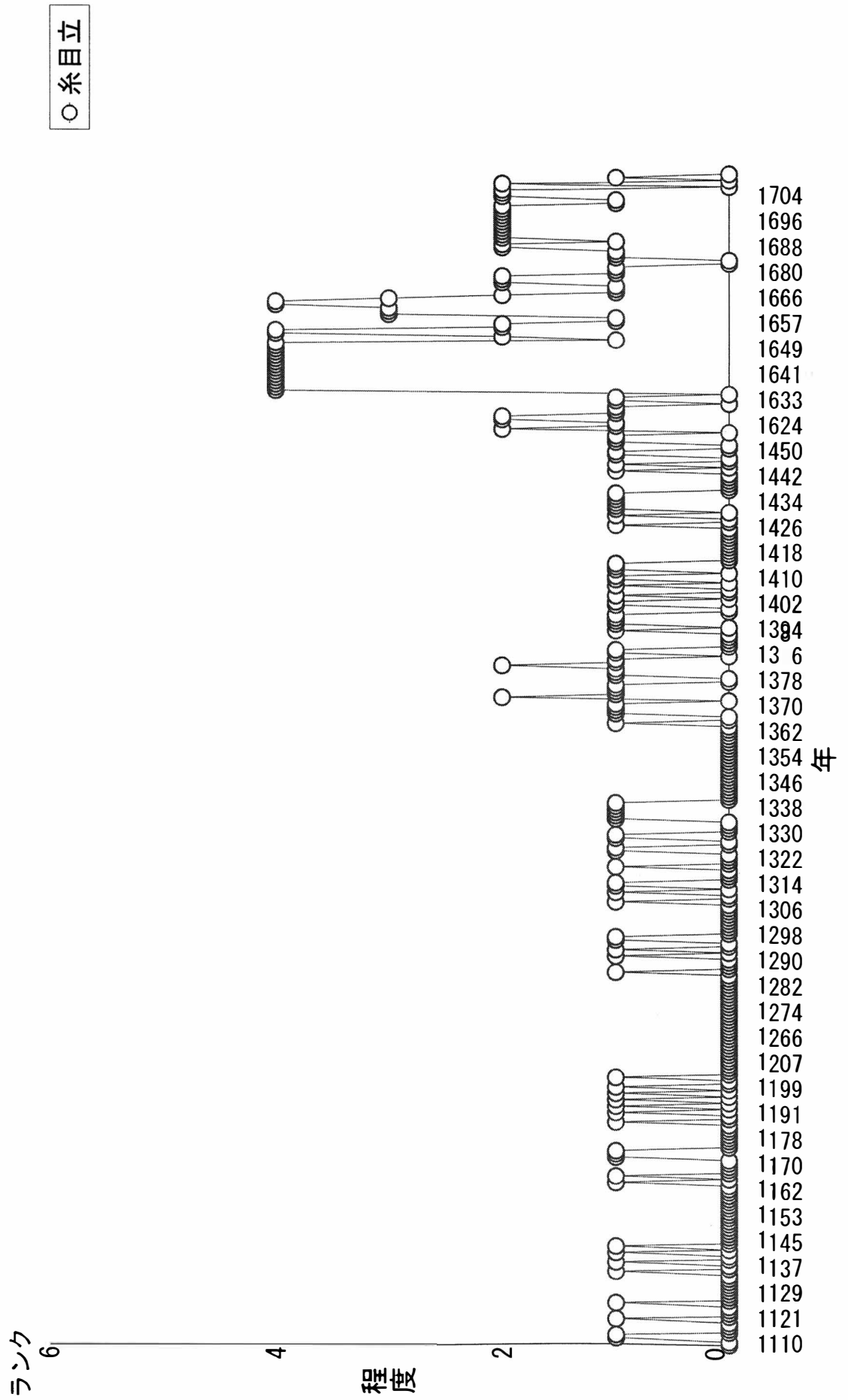
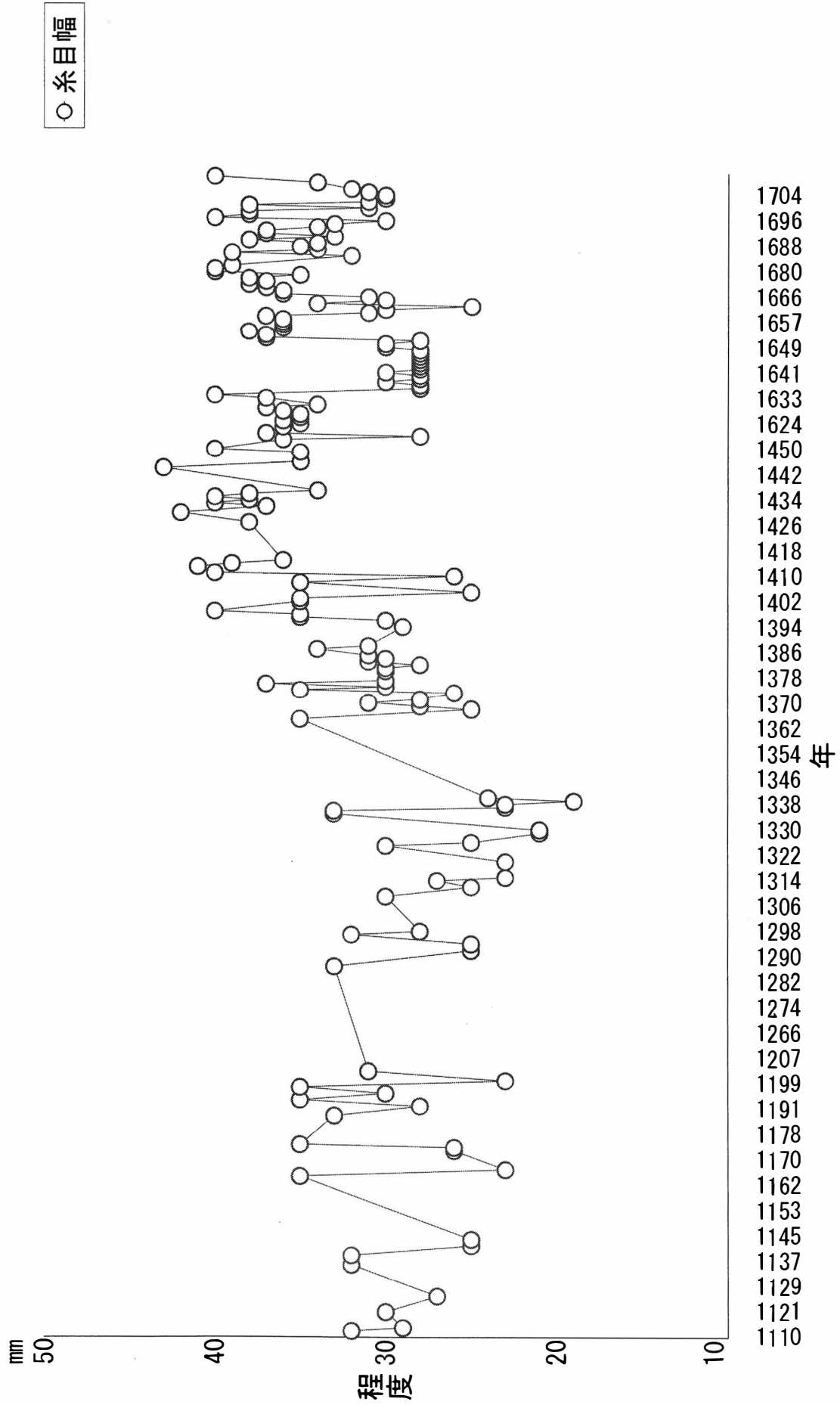


図9 後七日御修法請僧交名料紙糸目幅の年代変化



○ 米粉量

図10 後七日御修法請償交名料紙米粉量の年代変化

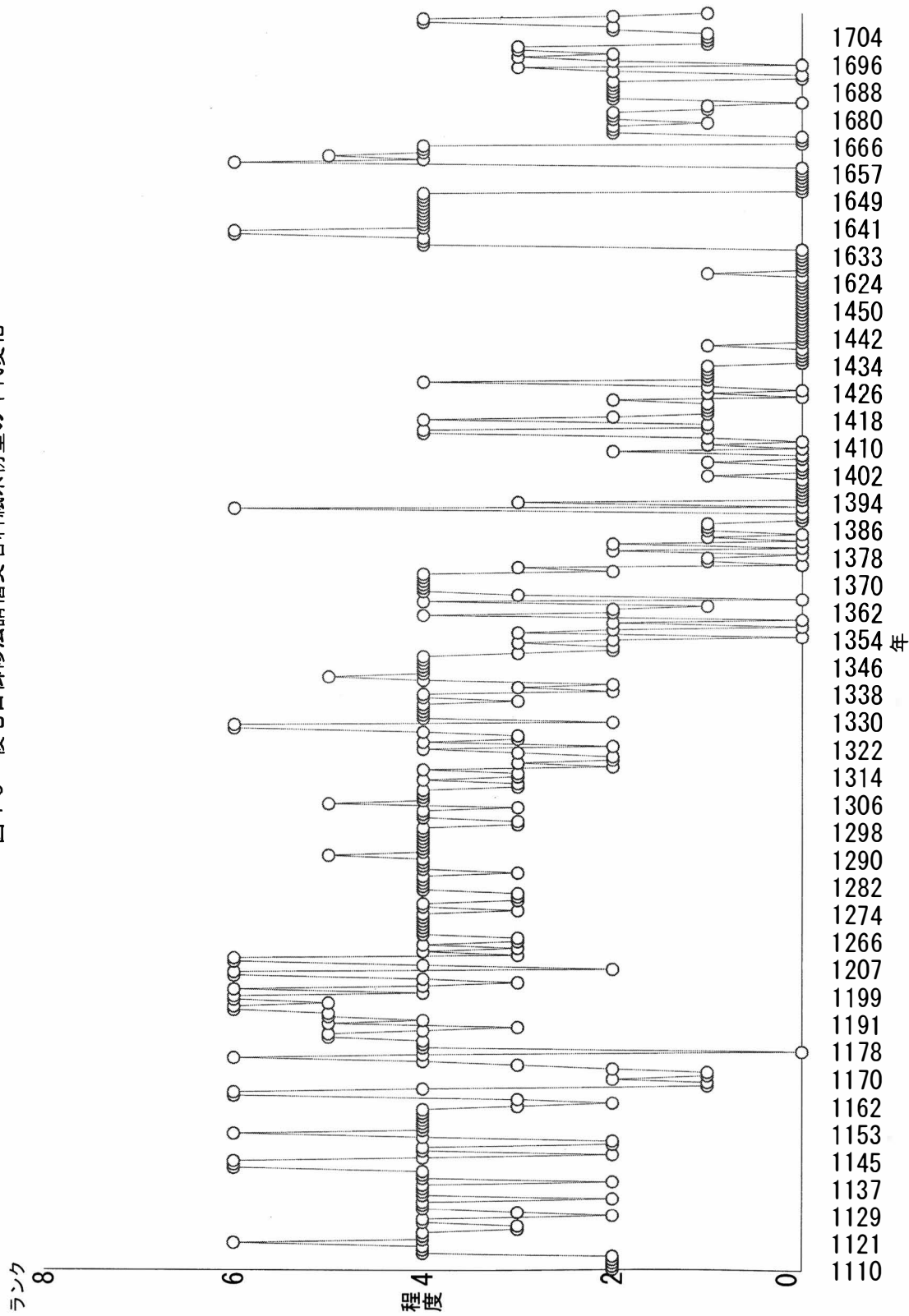


図 1 1 後七日御修法請僧交名料紙非繊維物質量の年代変化

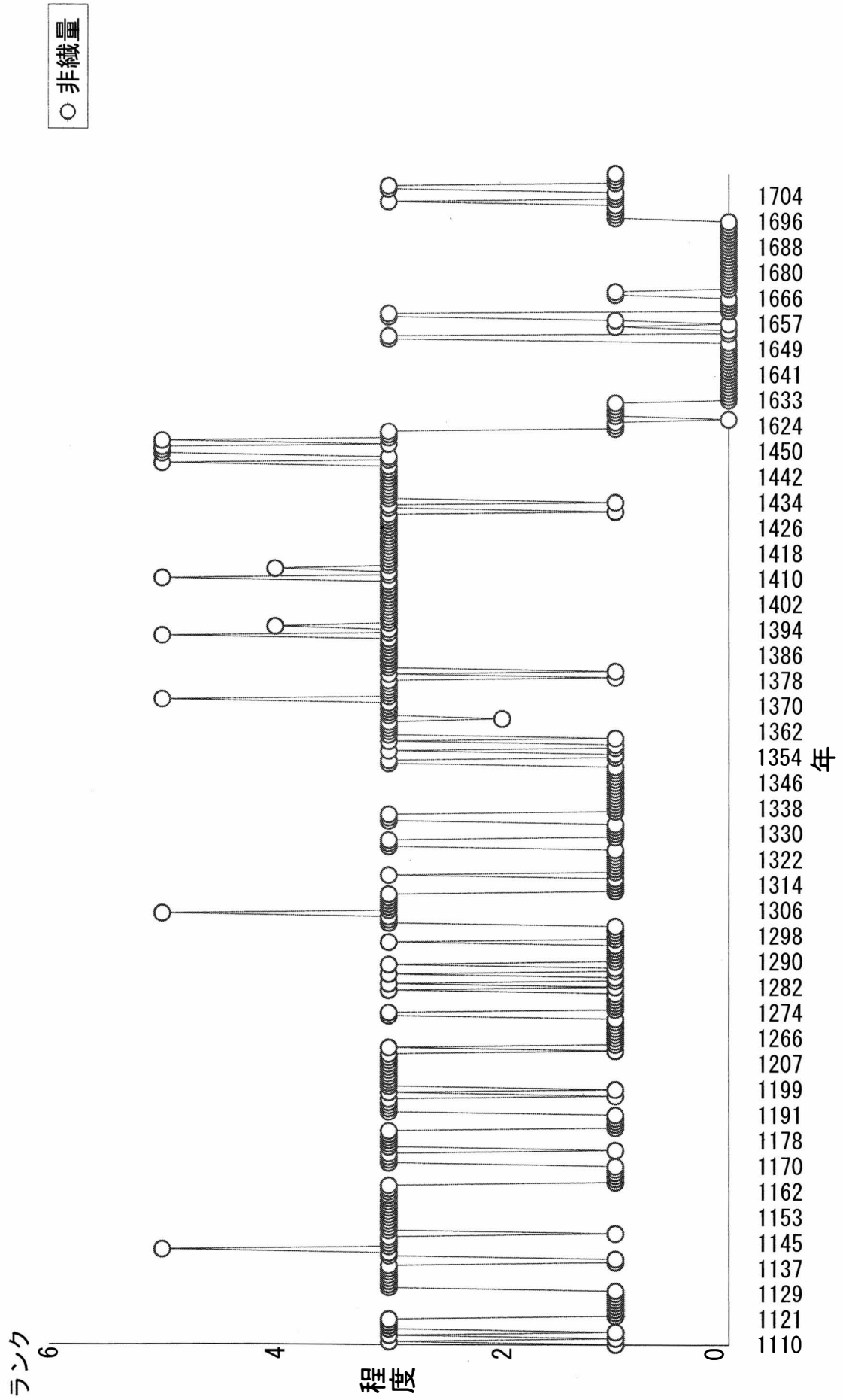


図12 後七日御修法請僧交名料紙繊維束量の年代変化

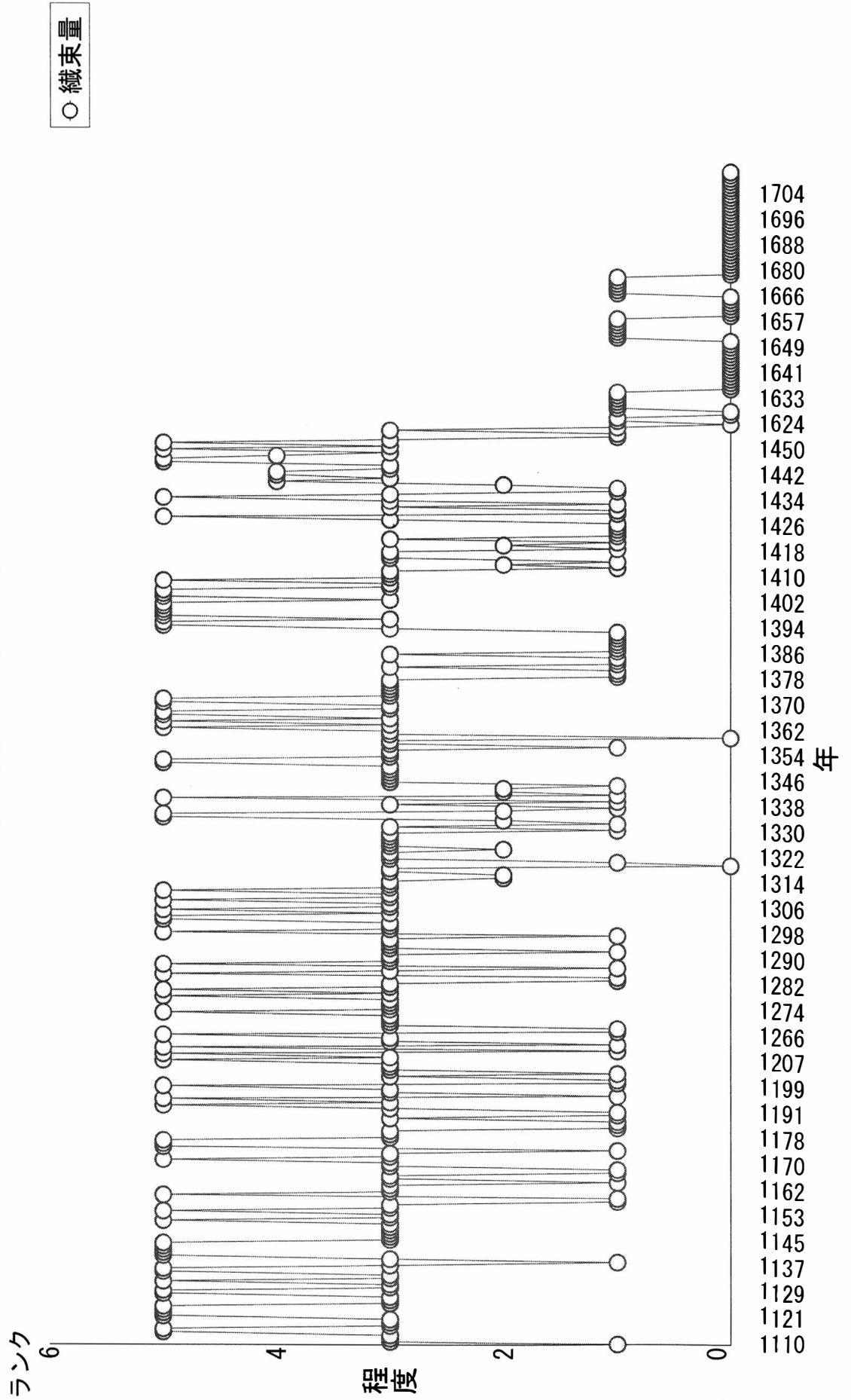


表2 東福寺公帖様式表 (その1)

番号	年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持
1	延徳3年	4月	10日	1491004010	室町義材公帖	—	花押	守懺西堂 左馬頭・花押	守懺首座	自悦守懺	安芸永福寺
2	文龜2年	4月	16日	1502004016	室町義高公帖	—	花押	令才西堂 權大納言・花押(義植)	守懺首座	茂伯守懺	安芸安国寺
3	文龜2年	5月	2日	1502005002	室町義高公帖	左馬頭	花押	有 令才西堂 左馬頭・花押	令才首座	茂伯守才	真如寺
4	永正18年	2月	23日	1521002023	室町義植公帖	—	花押	無 2月23日義植公帖と共包	周仙首座	彭叔守仙	志岐海印寺
5	永正18年	2月	26日	1521002026	室町義植公帖	權大納言	花押	有 周仙西堂 權大納言・花押	周仙西堂	彭叔守仙	真如寺
6	天文7年	4月	5日	1538004005	室町義晴公帖	權大納言	花押	有 守仙西堂 權大納言・花押	守仙西堂	彭叔守仙	東福寺207
7	天文7年	12月	12日	1538012012	室町義晴公帖	權大納言	花押	無 同日義晴公帖と共包	元龍首座	竹英元龍	安芸永福寺
8	天文7年	12月	12日	1538012012	室町義晴公帖	權大納言	花押	有 元龍西堂 權大納言・花押	元龍西堂	竹英元龍	真如寺
9	天文16年	5月	7日	1547005007	室町義藤公帖	左中將	花押	有 彭叔和尚 左中將・花押	彭叔和尚	彭叔守仙	南禪寺
10	天文20年	4月	19日	1551004019	室町義藤公帖	—	花押	無 4月19日義藤公帖と共包	守澄首座	月汀守澄	安芸永福寺
11	天文20年	4月	21日	1551004021	室町義藤公帖	左中將	花押	有 守澄西堂 左中將・花押	守澄西堂	月汀守澄	真如寺
12	天文24年	閏10月	16日	1555010516	室町義輝公帖	—	花押	無 弘治2年義輝公帖と共包	龍喜首座	熙春龍喜	撰津光雲寺
13	弘治2年	5月	3日	1556005003	室町義輝公帖	左中將	花押	有 龍喜西堂 左中將・花押	龍喜西堂	熙春龍喜	真如寺
14	永祿3年	12月	28日	1560012028	室町義輝公帖	—	花押	無 永祿7年義輝公帖と共包	元珪首座	大玄元珪	景徳寺
15	永祿7年	5月	19日	1564005019	室町義昭公帖	左中將	花押	有 元珪西堂 左中將・花押	元珪西堂	大玄元珪	真如寺
16	元龜2年	12月	18日	1571012018	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 龍喜西堂 權大納言・花押	龍喜西堂	熙春龍喜	東福寺214
17	元正3年	正月	14日	1575001014	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 善禪西堂 權大納言・花押	善禪西堂	笑隱善禪	東福寺
18	天正3年	5月	27日	1575005027	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 元珪和尚 權大納言・花押	元珪和尚	竹園玄珪	東福寺?
19	天正11年	4月	15日	1583004015	室町義昭公帖	—	花押	無 12月6日義昭公帖と共包	令憩首座	文坡令憩	三聖寺
20	天正11年	12月	6日	1583012006	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 令憩西堂 權大納言・花押	令憩西堂	文坡令憩	真如寺
21	天正12年	12月	4日	1584012004	室町義昭公帖	權大納言	花押	異 守瓜西堂 權大納言・花押	守瓜首座	桂庵守瓜	安芸永福寺
22	天正17年	3月	27日	1589003027	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	無	永鶴首座	永鶴	景徳寺
23	天正17年	4月	11日	1589004011	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	欠	永鶴西堂	永鶴	真如寺
24	天正17年	9月	13日	1589009013	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	有 熙春和尚 閑白・花押	熙春和尚	熙春龍喜	南禪寺
25	天正17年	9月	15日	1589009015	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	無 9月22日秀吉公帖と共包	龍珊首座	友月龍珊	撰津光雲寺
26	天正17年	9月	22日	1589009022	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	有 龍珊西堂 閑白・花押	龍珊西堂	友月龍珊	真如寺
27	天正18年	2月	14日	1590002014	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	有 令憩西堂 差出無	令憩西堂	文坡令憩	東福寺221
28	文祿2年	10月	13日	1593010013	豊臣秀次公帖	閑白	花押	無 10月15日秀吉公帖と共包	玄索首座	玄索	安芸永福寺
29	文祿2年	10月	15日	1593010015	豊臣秀次公帖	閑白	花押	有 玄索西堂 閑白・朱印	玄索西堂	玄索	禪興寺
30	文祿4年	11月	12日	1595011012	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	無 12月10日秀吉公帖と共包	令柔首座	剛外令柔	三聖寺
31	文祿4年	12月	10日	1595012010	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 令柔西堂 太閤・朱印	令柔西堂	剛外令柔	真如寺
32	文祿5年	正月	10日	1596001010	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	無 2月5日秀吉公帖と共包	龍玄首座	圭叔龍玄	三聖寺
33	文祿5年	2月	5日	1596002005	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 文坡和尚 太閤・朱印	文坡和尚	文坡令憩	南禪寺
34	文祿5年	2月	5日	1596002005	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 龍玄西堂 太閤・朱印	龍玄西堂	圭叔龍玄	真如寺
35	文祿5年	9月	5日	1596009005	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	無 9月10日秀吉公帖と共包	清韓首座	文英清韓	伊勢安養寺
36	文祿5年	9月	10日	1596009010	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 清韓西堂 太閤・朱印	清韓西堂	文英清韓	真如寺
37	慶長2年	2月	21日	1597002021	豊臣秀吉公帖	太閤	朱印	有 守藤西堂 太閤・朱印	守藤西堂	集雲守藤	東福寺223
38	慶長5年	7月	3日	1600007003	豊臣秀頼公帖	中納言	—	有 清韓西堂 中納言 差出無	清韓西堂	文英清韓	東福寺227

表2 東福寺公帖様式表(その1)

番号	年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持
39	慶長9年	4月	11日	1604004011	徳川家康公帖	右大臣	花押	欠	光沢西堂	天備光沢	東福寺228
40	慶長9年	5月	16日	1604005016	徳川家康公帖	右大臣	花押	文英和尚 右大臣・花押	文英和尚	文英清韓	南禅寺
41	慶長9年	7月	5日	1604007005	徳川家康公帖	従一位	花押	守藤西堂 准三宮・兼孝花押	集雲和尚	集雲守藤	南禅寺
42	慶長9年	8月	26日	1604008026	徳川家康公帖	従一位	花押	有友和尚 従一位・花押	友月和尚	友月龍珊	南禅寺
43	慶長10年	3月	5日	1605003005	徳川家康公帖	従一位	花押	有義超西堂 従一位・花押	義超西堂	越溪義超	真如寺233?
44	慶長13年	6月	18日	1608006018	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	無 7月5日秀忠公帖と共包	令悦首座	怡伯令悦	三聖寺
45	慶長13年	7月	5日	1608007005	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 令悦西堂 内大臣・花押	令悦首座	怡伯令悦	真如寺
46	慶長13年	9月	10日	1608009010	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	欠	天備和尚	天備光沢	南禅寺
47	慶長13年	9月	18日	1608009018	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	無 10月10日秀忠公帖と共包	龍俊首座	龍俊	伊勢安養寺
48	慶長13年	9月	28日	1608009028	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	無 10月2日秀忠公帖と共包	受倫首座	備甫受倫	出雲華藏寺
49	慶長13年	10月	1日	1608010001	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 明知西堂 内大臣・花押	明知西堂	惟宗明知	東福寺234
50	慶長13年	10月	2日	1608010002	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 受倫西堂 内大臣・花押	受倫西堂	備甫受倫	真如寺
51	慶長13年	10月	10日	1608010010	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 龍俊西堂 内大臣・花押	龍俊西堂	龍俊	真如寺
52	慶長14年	8月	28日	1609008028	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 令柔西堂 内大臣・花押	令柔西堂	剛外令柔	東福寺230
53	慶長16年	5月	3日	1611005003	徳川秀忠公帖	内大臣	—	無	龍玄西堂	圭叔龍玄	東福寺232
54	慶長16年	10月	10日	1611010010	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	無 11月2日秀忠公帖と共包	惠宥首座	惠宥	安芸永福寺
55	慶長16年	11月	2日	1611011002	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 惠宥西堂 内大臣・花押	惠宥首座	惠宥	真如寺
56	慶長17年	5月	26日	1612005026	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	無 6月2日秀忠公帖と共包	光勝首座	俊甫光勝	三聖寺
57	慶長17年	6月	2日	1612006002	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 光勝西堂 内大臣・花押	光勝首座	俊甫光勝	真如寺
58	元和6年	5月	3日	1620005003	徳川秀忠公帖	従一位	花押	無	守元首座	湘雪守元	安芸永福寺
59	元和8年	3月	5日	1622003005	徳川秀忠公帖	従一位	花押	無 6月20日秀忠公帖と共包	聖興首座	雲裔聖興	三聖寺
60	元和8年	6月	20日	1622006020	徳川秀忠公帖	従一位	花押	有 聖興西堂 従一位・黒印	聖興西堂	雲裔聖興	真如寺
61	元和9年	2月	5日	1623002005	徳川秀忠公帖	従一位	花押	有 永俊西堂 従一位・黒印	永俊西堂	雄峰永俊	東福寺236
62	元和9年	8月	5日	1623008005	徳川家光公帖	内大臣	花押	有 剛外和尚 内大臣・黒印	剛外和尚	剛外令柔	南禅寺
63	元和9年	8月	10日	1623008010	徳川家光公帖	内大臣	花押	無 8月20日家光公帖と共包	明宗首座	明宗	加賀安国寺
64	元和9年	8月	20日	1623008020	徳川家光公帖	内大臣	花押	有 明宗西堂 内大臣・黒印	明宗西堂	明宗	真如寺
65	元和9年	8月	21日	1623008021	徳川家光公帖	内大臣	花押	無 閏8月5日家光公帖と共包	見怨首座	顯宗見怨	三河長興寺
66	元和9年	閏8月	5日	1623008505	徳川家光公帖	内大臣	花押	有 見怨西堂 内大臣・黒印	見怨西堂	顯宗見怨	真如寺
67	寛永2年	3月	10日	1625003010	徳川家光公帖	内大臣	花押	有 惠宥西堂 内大臣・黒印	惠宥西堂	惠宥	東福寺?
68	寛永3年	9月	27日	1626009027	徳川家光公帖	左大臣	花押	欠	龍傑西堂	龍傑	真如寺
69	寛永3年	10月	1日	1626010001	徳川家光公帖	左大臣	花押	無 10月25日家光公帖と共包	清賢首座	清賢	伊勢安養寺
70	寛永3年	10月	25日	1626010025	徳川家光公帖	左大臣	花押	有 清賢西堂 左大臣・黒印	清賢西堂	清賢	真如寺
71	寛永8年	8月	10日	1631008010	徳川家光公帖	左大臣	花押	無 9月3日家光公帖と共包	惠云首座	聘叔惠云	出雲華藏寺
72	寛永8年	9月	3日	1631009003	徳川家光公帖	左大臣	花押	有 惠云西堂 左大臣・朱印	惠云西堂	聘叔惠云	真如寺
73	寛永8年	10月	10日	1631010010	徳川家光公帖	左大臣	花押	異 善忠西堂 左大臣・朱印	善忠首座	牧庵善忠	安芸永福寺
74	寛永13年	2月	9日	1636002009	徳川家光公帖	従一位	花押	有 永周首座 従一位・朱印	永周首座	永周	伊勢安養寺
75	寛永13年	3月	5日	1636003005	徳川家光公帖	従一位	花押	有 永周西堂 従一位・朱印	永周西堂	永周	真如寺
76	寛永16年	6月	12日	1639006012	徳川家光公帖	従一位	花押	有 棠陰和尚 従一位・黒印	棠陰和尚	棠陰玄召	南禅寺235

表2 東福寺公帖様式表(その1)

番号	年	月	日	西曆	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持
77	寛永17年	10月	17日	1640010017	徳川家光公帖	従一位	花押	有	円日西堂	円日西堂	東福寺238
78	承応2年	9月	5日	1653009005	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	無	士寿首座	士寿	円福寺
79	承応2年	9月	12日	1653009012	徳川家綱公帖	右大臣	印	無	令用首座	無外令用	三聖寺
80	承応2年	10月	17日	1653010017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	士寿西堂	士寿	真如寺
81	承応2年	10月	17日	1653010017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	欠	光隣西堂	玉峰光隣	東福寺?
82	承応2年	11月	2日	1653011002	徳川家綱公帖	右大臣	印	有	令用西堂	無外令用	真如寺
83	明暦3年	3月	10日	1657003010	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	無	祖光首座	祖光	安養寺
84	明暦3年	4月	14日	1657004014	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	祖光西堂	祖光	真如寺
85	明暦3年	9月	23日	1657009023	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	永周西堂	永周	東福寺?
86	寛文3年	7月	17日	1663007017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	令瞻西堂	太華令瞻	東福寺241
87	寛文7年	6月	7日	1667006007	徳川家綱公帖	右大臣	黒印	無	祖辰首座	南宗祖辰	安養寺
88	寛文7年	7月	17日	1667007017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	祖辰西堂	南宗祖辰	真如寺
89	寛文7年	9月	18日	1667009018	徳川家綱公帖	右大臣	黒印	無	光鶴首座	丹陽光鶴	三聖寺
90	寛文7年	10月	21日	1667010021	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	光鶴西堂	丹陽光鶴	真如寺
91	寛文7年	11月	24日	1667011024	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	欠	義旭西堂	義旭	真如寺
92	寛文10年	7月	10日	1670007010	徳川家綱公帖	—	黒印	無	光虔首座	九峰光虔	三聖寺
93	寛文10年	8月	15日	1670008015	徳川家綱公帖	—	黒印	無	大珠首座	玉田大珠	安養寺
94	寛文10年	8月	26日	1670008026	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	光虔西堂	九峰光虔	真如寺
95	寛文10年	9月	15日	1670009015	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	大珠西堂	玉田大珠	真如寺
96	寛文10年	9月	20日	1670009020	徳川家綱公帖	—	黒印	無	慧忠首座	丹心慧忠	崇聖寺
97	寛文10年	10月	17日	1670010017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	慧忠西堂	丹心慧忠	真如寺
98	寛文10年	10月	23日	1670010023	徳川家綱公帖	右大臣	花押	有	太華和尚	太華令瞻	南禪寺
99	寛文13年	正月	20日	1673001020	徳川家綱公帖	—	黒印	無	龍楚首座	雲岩龍楚	光雲寺
100	寛文13年	2月	17日	1673002017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	龍楚西堂	雲岩龍楚	真如寺
101	寛文13年	3月	22日	1673003022	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	宗寔西堂	香林宗寔	真如寺
102	寛文13年	5月	17日	1673005017	徳川家綱公帖	—	黒印	無	玄棟首座	松陰玄棟	光雲寺
103	寛文13年	6月	17日	1673006017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	玄棟西堂	松陰玄棟	真如寺
104	寛文13年	8月	17日	1673008017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	祖辰西堂	南宗祖辰	東福寺242
105	延宝3年	10月	16日	1675010016	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	光鶴西堂	丹陽光鶴	東福寺243
106	延宝6年	8月	5日	1678008005	徳川家綱公帖	—	黒印	無	昭薫首座	天桂昭薫	長興寺
107	延宝6年	10月	17日	1678010017	徳川家綱公帖	—	朱印	有	慧忠西堂	丹心慧忠	東福寺247
108	延宝6年	10月	17日	1678010017	徳川家綱公帖	—	朱印	有	昭薫西堂	天桂昭薫	真如寺
109	延宝6年	11月	24日	1678011024	徳川家綱公帖	—	黒印	無	光虔首座	実岩光虔	三聖寺
110	延宝6年	11月	24日	1678011024	徳川家綱公帖	—	黒印	無	光安首座	石田光安	三聖寺
111	延宝6年	12月	20日	1678012020	徳川家綱公帖	—	朱印	有	光権西堂	実岩光権	真如寺
112	延宝7年	正月	17日	1679001017	徳川家綱公帖	—	朱印	有	光安西堂	石田光安	真如寺
113	元禄5年	2月	24日	1692002024	徳川家綱公帖	内大臣	朱印	有	玄棟西堂	松陰玄棟	東福寺245
114	元禄8年	12月	7日	1695012007	徳川家綱公帖	内大臣	朱印	欠	南宗和尚	南宗祖辰	南禪寺

表2 東福寺公帖様式表（その1）

番号	年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持
115	元禄11年	10月	17日	1698010017	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	有	龍楚西堂	龍楚西堂	東福寺249
116	元禄11年	11月	17日	1698011017	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	有	宗寔西堂	宗寔西堂	東福寺250
117	元禄12年	正月	18日	1699001018	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	有	松陰和尚	松陰和尚	南福寺
118	元禄16年	9月	15日	1703009015	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	有	光権西堂	光権西堂	東福寺?
119	宝永4年	11月	8日	1707011008	徳川綱吉公帖	—	印	無	元怡首座	元怡首座	永福寺
120	宝永4年	11月	15日	1707011015	徳川綱吉公帖	—	黒印	無	永機首座	永機首座	安養寺
121	宝永4年	11月	22日	1707011022	徳川綱吉公帖	—	黒印	無	惠槐首座	西川惠槐	永福寺
122	宝永4年	12月	8日	1707012008	徳川綱吉公帖	—	黒印	無	龍蒼首座	石霜龍蒼	光雲寺
123	宝永4年	12月	17日	1707012017	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	永機西堂	永機西堂	真如寺
124	宝永4年	12月	24日	1707012024	徳川綱吉公帖	—	黒印	無	玄郁首座	梅陽玄郁	光雲寺
125	宝永4年	12月	26日	1707012026	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	惠槐西堂	西川惠槐	真如寺
126	宝永4年	12月	27日	1707012027	徳川綱吉公帖	—	黒印	無	宝永5年閏正月8日	永隆首座	安養寺
127	宝永5年	正月	28日	1708001028	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	龍昌西堂	龍昌西堂	真如寺
128	宝永5年	閏正月	8日	1708001508	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	玄郁西堂	玄郁西堂	真如寺
129	宝永5年	閏正月	20日	1708001520	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	永隆西堂	永隆西堂	真如寺
130	宝永7年	6月	17日	1710006017	徳川家宣公帖	内大臣	黒印	有	智貞西堂	智貞西堂	真如寺
131	宝永7年	9月	10日	1710009010	徳川家宣公帖	—	黒印	無	10月8日家宣公帖と共包	清田祖泰	海会寺
132	宝永7年	10月	8日	1710010008	徳川家宣公帖	内大臣	黒印	有	祖泰西堂	祖泰西堂	真如寺
133	正徳3年	4月	16日	1713004016	徳川家継公帖	—	黒印	無	4月29日家宣公帖と共包	祖薫首座	安養寺
134	正徳3年	4月	29日	1713004029	徳川家継公帖	内大臣	朱印	有	惠槐西堂	惠槐西堂	東福寺?
135	正徳3年	5月	9日	1713005009	徳川家継公帖	内大臣	黒印	有	祖薫西堂	祖薫西堂	真如寺
136	享保3年	4月	12日	1718004012	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	龍昌西堂	龍昌西堂	東福寺254
137	享保3年	4月	15日	1718004015	徳川吉宗公帖	—	黒印	無	5月17日吉宗公帖と共包	玄寅首座	光雲寺
138	享保3年	5月	17日	1718005017	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	玄寅西堂	玄寅西堂	真如寺
139	享保6年	10月	10日	1721010010	徳川吉宗公帖	—	黒印	無	11月27日吉宗公帖と共包	慧般首座	華藏寺
140	享保6年	10月	26日	1721010026	徳川吉宗公帖	—	黒印	無	12月24日吉宗公帖と共包	光宣首座	三聖寺
141	享保6年	11月	27日	1721011027	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	玄郁西堂	玄郁西堂	東福寺?
142	享保6年	11月	27日	1721011027	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	慧般西堂	慧般西堂	真如寺
143	享保6年	12月	24日	1721012024	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	光宣西堂	藍溪光宣	真如寺
144	享保11年	2月	4日	1726002004	徳川吉宗公帖	—	黒印	無	3月5日吉宗公帖と共包	柏隠心桓	三聖寺260
145	享保11年	2月	17日	1726002017	徳川吉宗公帖	内大臣	花押	有	石霜和尚	石霜和尚	南福寺
146	享保11年	3月	3日	1726003003	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	欠	宗見西堂	龍源宗見	真如寺
147	享保11年	3月	5日	1726003005	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	心桓西堂	柏隠心桓	真如寺
148	享保15年	11月	15日	1730011015	徳川吉宗公帖	—	黒印	無	12月14日吉宗公帖と共包	一遠首座	高城寺
149	享保15年	12月	14日	1730012014	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	一遠西堂	一遠西堂	真如寺
150	享保15年	12月	17日	1730012017	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	光宣西堂	藍溪光宣	東福寺258
151	享保20年	2月	24日	1735002024	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	宗見西堂	龍源宗見	東福寺259
152	寛保元年	9月	15日	1741109015	徳川吉宗公帖	右大臣	花押	有	藍溪和尚	藍溪和尚	南福寺

表2 東福寺公帖様式表(その1)

番号	年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持
153	寛延3年	7月	晦日	1750007030	徳川家重公帖	—	黒印	無	8月28日家重公帖と共包	士淵首座	海会寺
154	寛延3年	8月	5日	1750008005	徳川家重公帖	—	黒印	無	9月4日家重公帖と共包	恵祥首座	安国寺
155	寛延3年	8月	12日	1750008012	徳川家重公帖	—	黒印	無	9月10日家重公帖と共包	龍芳首座	光雲寺
156	寛延3年	8月	14日	1750008014	徳川家重公帖	—	黒印	無	9月12日家重公帖と共包	士順首座	海会寺
157	寛延3年	8月	28日	1750008028	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	士淵西堂 差出無	靈雲士淵	真如寺
158	寛延3年	9月	4日	1750009004	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	恵祥西堂 差出無	恵祥	真如寺
159	寛延3年	9月	10日	1750009010	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	龍芳西堂 差出無	桂巖龍芳	真如寺
160	寛延3年	9月	12日	1750009012	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	士順西堂 差出無	士順	真如寺
161	宝暦4年	2月	13日	1754002013	徳川家重公帖	内大臣	朱印	有	士淵西堂 差出無	靈雲士淵	東福寺?
162	宝暦11年	11月	17日	1761011017	徳川家重公帖	内大臣	朱印	有	龍芳西堂 差出無	桂巖龍芳	東福寺264
163	宝暦11年	11月	20日	1761011020	徳川家重公帖	—	黒印	無	12月9日家治公帖と共包	一或首座	華藏寺
164	宝暦11年	12月	9日	1761012009	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	一或西堂 差出無	一或	真如寺
165	明和元年	7月	28日	1764107028	徳川家重公帖	—	黒印	無	8月25日家治公帖と共包	大桃首座	安養寺
166	明和元年	8月	25日	1764108025	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	大桃西堂 差出無	大桃	真如寺
167	安永5年	9月	12日	1776009012	徳川家重公帖	内大臣	花押	有	桂巖和尚 差出無	桂巖龍芳	南禅寺
168	安永7年	12月	12日	1778012012	徳川家重公帖	—	黒印	無	安永8年正月13日家治公帖と共包	古堂大稀	安国寺
169	安永7年	12月	14日	1778012014	徳川家重公帖	—	黒印	無	安永8年正月15日家治公帖と共包	貫道令文	永福寺
170	安永7年	12月	20日	1778012020	徳川家重公帖	—	黒印	無	安永8年正月22日家治公帖と共包	熙陽龍育	光雲寺
171	安永8年	正月	13日	1779001013	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	大稀西堂 差出無	古堂大稀	真如寺
172	安永8年	正月	15日	1779001015	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	令文西堂 差出無	貫道令文	真如寺
173	安永8年	正月	22日	1779001022	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	龍育西堂 差出無	龍育西堂	真如寺
174	天明4年	12月	14日	1784012014	徳川家重公帖	—	黒印	無	天明5年正月24日家治公帖と共包	龍河玄禎	光雲寺
175	天明5年	正月	24日	1785001024	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	玄禎西堂 差出無	龍河玄禎	真如寺
176	天明5年	2月	15日	1785002015	徳川家重公帖	内大臣	朱印	有	龍育西堂 差出無	熙陽龍育	東福寺265
177	天明8年	12月	17日	1788012017	徳川家重公帖	内大臣	朱印	有	大稀西堂 差出無	古堂大稀	東福寺266
178	天明9年	正月	20日	1788012020	徳川家重公帖	—	黒印	無	天明9年正月17日家治公帖と共包	慧龍首座	永福寺
179	天明9年	正月	17日	1789001017	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	慧龍西堂 差出無	慧龍	真如寺
180	寛政6年	6月	12日	1794006012	徳川家重公帖	内大臣	朱印	有	玄禎西堂 差出無	龍河玄禎	東福寺267
181	寛政6年	6月	20日	1794006020	徳川家重公帖	—	黒印	無	8月8日家治公帖と共包	宗常首座	安国寺
182	寛政6年	6月	24日	1794006024	徳川家重公帖	—	黒印	無	8月12日家治公帖と共包	玄的	宝福寺
183	寛政6年	8月	8日	1794008008	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	宗常西堂 差出無	宗常	真如寺
184	寛政6年	8月	12日	1794008012	徳川家重公帖	内大臣	黒印	有	玄的西堂 差出無	宗常	真如寺
185	寛政6年	8月	14日	1794008014	徳川家重公帖	—	黒印	異	恵運西堂 差出無	玄的	永福寺
186	寛政6年	9月	17日	1794009017	徳川家重公帖	内大臣	花押	有	熙陽和尚 差出無	恵運	永福寺
187	寛政12年	2月	24日	1800002024	徳川家重公帖	内大臣	花押	有	龍河和尚 差出無	熙陽龍育	南禅寺
188	文化2年	12月	17日	1805012017	徳川家重公帖	内大臣	花押	有	古堂和尚 差出無	龍河玄禎	南禅寺
189	文化3年	正月	8日	1806001008	徳川家重公帖	—	黒印	無	2月10日家治公帖と共包	古堂大稀	南禅寺
190	文化3年	正月	14日	1806001014	徳川家重公帖	—	黒印	無	2月11日家治公帖と共包	守釋	澄心寺
										玄林	光雲寺

表2 東福寺公帖様式表（その1）

番号	年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持
191	文化3年	2月	10日	1806002010	徳川家斉公帖	内大臣	黒印	有 守釋西堂 差出無	守釋西堂	守釋	真如寺
192	文化3年	2月	11日	1806002011	徳川家斉公帖	内大臣	黒印	有 玄林西堂 差出無	玄林西堂	玄林	真如寺
193	文化11年	6月	5日	1814006005	徳川家斉公帖	—	黒印	無 7月8日家斉公帖と共包	光均首座	光均	高城寺
194	文化11年	7月	8日	1814007008	徳川家斉公帖	内大臣	黒印	有 光均西堂 差出無	光均西堂	光均	真如寺
195	文政元年	12月	24日	1818112024	徳川家斉公帖	—	黒印	無	晚器首座	晚器	永福寺
196	文政7年	正月	20日	1824001020	徳川家斉公帖	—	黒印	無 2月晦日家斉公帖と共包	宗牧首座	宗牧	安国寺
197	文政7年	2月	晦日	1824002030	徳川家斉公帖	左大臣	黒印	有 宗牧西堂 差出無	宗牧西堂	宗牧	真如寺
198	文政8年	12月	14日	1825012014	徳川家斉公帖	—	黒印	無 文政9年正月17日家斉公帖と共包	令禎首座	令禎	三聖寺
199	文政9年	正月	17日	1826001017	徳川家斉公帖	左大臣	黒印	有 令禎西堂 差出無	令禎西堂	令禎	真如寺
200	天保6年	正月	8日	1835001008	徳川家慶公帖	—	黒印	無	周良首座	周良	宝福寺
201	天保10年	7月	8日	1839007008	徳川家慶公帖	—	黒印	無 8月12日家慶公帖と共包	惠然首座	東然	安国寺
202	天保10年	7月	10日	1839007010	徳川家慶公帖	—	黒印	無 8月14日家慶公帖と共包	士融首座	士融	澄心寺
203	天保10年	7月	20日	1839007020	徳川家慶公帖	—	黒印	無 8月晦日家慶公帖と共包	玄勝首座	玄勝	願成寺
204	天保10年	8月	12日	1839008012	徳川家慶公帖	左大臣	黒印	有 惠然西堂 差出無	惠然西堂	東然	真如寺
205	天保10年	8月	14日	1839008014	徳川家慶公帖	左大臣	黒印	有 士融西堂 差出無	士融西堂	士融	真如寺
206	天保10年	8月	晦日	1839008030	徳川家慶公帖	左大臣	黒印	有 玄勝西堂 差出無	玄勝西堂	玄勝	真如寺
207	天保14年	8月	10日	1843008010	徳川家慶公帖	左大臣	朱印	有 士融西堂 差出無	士融西堂	士融	東福寺?
208	弘化4年	8月	12日	1847008012	徳川家慶公帖	左大臣	朱印	有 周良西堂 差出無	周良西堂	周良	東福寺?

表 3 東福寺公帖様式表（その2）

年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持	番号
延徳3年	4月	10日	1491004010	室町義材公帖	—	花押	守懺西堂 左馬頭・花押	守懺首座	自悦守懺	安芸永福寺	375
文亀2年	4月	16日	1502004016	室町義高公帖	—	花押	令才西堂 權大納言・花押(義植)	令才首座	茂伯令才	安芸安国寺	377
文亀2年	5月	2日	1502005002	室町義高公帖	左馬頭	花押	令才西堂 左馬頭・花押	令才西堂	茂伯令才	真如寺	378
永正18年	2月	23日	1521002023	室町義植公帖	—	花押	2月23日義植公帖と共包	周仙首座	彭叔守仙	志岐海印寺	380
永正18年	2月	26日	1521002026	室町義植公帖	權大納言	花押	周仙西堂 權大納言・花押	周仙西堂	彭叔守仙	真如寺	381
天文7年	4月	5日	1538004005	室町義晴公帖	權大納言	花押	守仙西堂 權大納言・花押	守仙西堂	彭叔守仙	東福寺207	382
天文16年	5月	7日	1547005007	室町義藤公帖	左中將	花押	有 彭叔和尚 左中將・花押	彭叔和尚	彭叔守仙	南禪寺	386
天文7年	12月	12日	1538012012	室町義晴公帖	權大納言	花押	無 同日義晴公帖と共包	元龍首座	竹莖元龍	安芸永福寺	385
天文7年	12月	12日	1538012012	室町義晴公帖	權大納言	花押	有 元龍西堂 權大納言・花押	元龍西堂	竹莖元龍	真如寺	384
天文20年	4月	19日	1551004019	室町義藤公帖	—	花押	無 4月19日義藤公帖と共包	守澄首座	月汀守澄	安芸永福寺	387
天文20年	4月	21日	1551004021	室町義藤公帖	左中將	花押	有 守澄西堂 左中將・花押	守澄西堂	真如寺	真如寺	388
天文24年	閏10月	16日	1555010516	室町義輝公帖	—	花押	無 弘治2年義輝公帖と共包	龍喜首座	熙春龍喜	撰津光雲寺	389
弘治2年	5月	3日	1556005003	室町義輝公帖	左中將	花押	有 龍喜西堂 左中將・花押	龍喜西堂	熙春龍喜	真如寺	390
元龜2年	12月	18日	1571012018	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 龍喜西堂 權大納言・花押	龍喜西堂	熙春龍喜	東福寺214	393
天正17年	9月	13日	1589009013	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	有 熙春和尚 閑白・花押	熙春和尚	熙春龍喜	南禪寺	28
永祿3年	12月	28日	1560012028	室町義輝公帖	—	花押	無 永祿7年義輝公帖と共包	元珪首座	大玄元珪	景德寺	391
永祿7年	5月	19日	1564005019	室町義輝公帖	左中將	花押	有 元珪西堂 左中將・花押	元珪西堂	大玄元珪	真如寺	392
天正3年	正月	14日	1575001014	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 善禪西堂 權大納言・花押	善禪西堂	笑隱善禪	東福寺	395
天正3年	5月	27日	1575005027	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 元珪和尚 權大納言・花押	元珪和尚	竹園玄珪	東福寺?	396
天正11年	4月	15日	1583004015	室町義昭公帖	—	花押	無 12月6日義昭公帖と共包	令懇首座	文坡令懇	總三聖寺	397
天正11年	12月	6日	1583012006	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 令懇西堂 權大納言・花押	令懇西堂	文坡令懇	真如寺	398
天正18年	2月	14日	1590002014	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	有 令懇西堂 差出無	令懇西堂	文坡令懇	東福寺221	401
文祿5年	2月	5日	1596002005	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 文坡和尚 太閤・朱印	文坡和尚	文坡令懇	南禪寺	404
天正12年	12月	4日	1584012004	室町義昭公帖	權大納言	花押	有 守広西堂 權大納言・花押	守広首座	桂庵守広	安芸永福寺	399
天正17年	3月	27日	1589003027	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	無	永鶴首座	永鶴	景德寺	27
天正17年	4月	11日	1589004011	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	欠	永鶴首座	永鶴	真如寺	400
天正17年	9月	15日	1589009015	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	無 9月22日秀吉公帖と共包	龍珊首座	友月龍珊	撰津光雲寺	29
天正17年	9月	22日	1589009022	豊臣秀吉公帖	閑白	花押	有 龍珊西堂 閑白・花押	龍珊西堂	友月龍珊	真如寺	30
慶長9年	8月	26日	1604008026	徳川家康公帖	從一位	花押	有 友月和尚 從一位・花押	友月和尚	友月龍珊	南禪寺	413
文祿2年	10月	13日	1593010013	豊臣秀次公帖	閑白	花押	無 10月15日秀吉公帖と共包	玄素首座	玄素	安芸永福寺	32
文祿2年	10月	15日	1593010015	豊臣秀次公帖	閑白	花押	有 玄素西堂 閑白・朱印	玄素西堂	玄素	禪興寺	33
文祿4年	11月	12日	1595011012	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	無 12月10日秀吉公帖と共包	令柔首座	剛外令柔	三聖寺	402
文祿4年	12月	10日	1595012010	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 令柔西堂 太閤・朱印	令柔西堂	剛外令柔	真如寺	403
慶長14年	8月	28日	1609008028	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 令柔西堂 内大臣・花押	令柔西堂	剛外令柔	東福寺230	423
元和9年	8月	5日	1623008005	徳川家光公帖	内大臣	花押	有 剛外和尚 内大臣・黒印	剛外和尚	剛外令柔	南禪寺	434
文祿5年	正月	10日	1596001010	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	無 2月5日秀吉公帖と共包	龍玄首座	圭叔龍玄	三聖寺	34
文祿5年	2月	5日	1596002005	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	有 龍玄西堂 太閤・朱印	龍玄西堂	圭叔龍玄	真如寺	35
慶長16年	5月	3日	1611005003	徳川秀忠公帖	内大臣	花押	有 龍玄西堂 太閤・朱印	龍玄西堂	圭叔龍玄	東福寺232	424

表3 東福寺公帖様式表（その2）

年	月	日	西曆	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持	番号
文禄5年	9月	5日	1596009005	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	9月10日秀吉公帖と共包	清韓首座	文英清韓	伊勢安養寺	36
文禄5年	9月	10日	1596009010	豊臣秀吉公帖	太閤	花押	清韓西堂 太閤・朱印	清韓首座	文英清韓	真如寺	37
慶長5年	7月	3日	1600007003	豊臣秀頼公帖	中納言	一	清韓西堂 中納言 差出無	清韓西堂	文英清韓	東福寺227	407
慶長9年	5月	16日	1604005016	徳川家康公帖	右大臣	花押	文英和尚 右大臣・花押	文英和尚	文英清韓	南禅寺	411
慶長2年	2月	21日	1597002021	豊臣秀吉公帖	太閤	朱印	守藤西堂 太閤・朱印	守藤西堂	集雲守藤	東福寺223	405
慶長9年	7月	5日	1604007005	徳川家康公帖	従一位	花押	守藤西堂 准三宮・兼孝花押	集雲和尚	集雲守藤	南禅寺	412
慶長9年	4月	11日	1604004011	徳川家康公帖	右大臣	花押	光沢西堂	光沢西堂	天倫光沢	東福寺228	410
慶長13年	9月	10日	1608009010	徳川家康公帖	内大臣	花押	天倫和尚	天倫和尚	天倫光沢	南禅寺	417
慶長10年	3月	5日	1605003005	徳川家康公帖	従一位	花押	義超西堂 従一位・花押	義超西堂	越溪義超	真如寺233?	414
慶長13年	6月	18日	1608006018	徳川家康公帖	内大臣	花押	7月5日秀忠公帖と共包	令悦首座	怡伯令悦	三聖寺	415
慶長13年	7月	5日	1608007005	徳川家康公帖	内大臣	花押	令悦西堂 内大臣・花押	令悦西堂	怡伯令悦	真如寺	416
慶長13年	9月	18日	1608009018	徳川家康公帖	内大臣	花押	10月10日秀忠公帖と共包	龍俊首座	龍俊	伊勢安養寺	418
慶長13年	10月	10日	1608010010	徳川家康公帖	内大臣	花押	龍俊西堂 内大臣・花押	龍俊首座	龍俊	真如寺	422
慶長13年	9月	28日	1608009028	徳川家康公帖	内大臣	花押	龍俊西堂 内大臣・花押	受倫首座	受倫	出雲華藏寺	419
慶長13年	10月	2日	1608010002	徳川家康公帖	内大臣	花押	受倫西堂 内大臣・花押	受倫首座	僑甫受倫	真如寺	421
慶長13年	10月	1日	1608010001	徳川家康公帖	内大臣	花押	明知西堂 内大臣・花押	明知西堂	性宗明知	東福寺234	420
慶長16年	10月	10日	1611010010	徳川家康公帖	内大臣	花押	11月2日秀忠公帖と共包	惠有首座	惠有	安芸永福寺	426
慶長16年	11月	2日	1611011002	徳川家康公帖	内大臣	花押	惠有西堂 内大臣・花押	惠有西堂	惠有	真如寺	427
寛永2年	3月	10日	1625003010	徳川家光公帖	内大臣	花押	惠有西堂 内大臣・黒印	惠有西堂	惠有	東福寺?	439
慶長17年	5月	26日	1612005026	徳川家康公帖	内大臣	花押	6月2日秀忠公帖と共包	光勝首座	俊甫光勝	三聖寺	428
慶長17年	6月	2日	1612006002	徳川家康公帖	内大臣	花押	光勝西堂 内大臣・花押	光勝首座	俊甫光勝	真如寺	429
元和6年	5月	3日	1620005003	徳川家康公帖	従一位	花押	守元首座	守元首座	湖雪守元	安芸永福寺	430
元和8年	3月	5日	1622003005	徳川家康公帖	従一位	花押	6月20日秀忠公帖と共包	聖興首座	雲喬聖興	三聖寺	431
元和8年	6月	20日	1622006020	徳川家康公帖	従一位	花押	聖興西堂 従一位・黒印	聖興西堂	雲喬聖興	真如寺	432
元和9年	2月	5日	1623002005	徳川家康公帖	従一位	花押	永俊西堂 従一位・黒印	永俊西堂	雄峰永俊	東福寺236	433
元和9年	8月	10日	1623008010	徳川家光公帖	内大臣	花押	8月20日家光公帖と共包	明宗首座	明宗	加賀安国寺	435
元和9年	8月	20日	1623008020	徳川家光公帖	内大臣	花押	明宗西堂 内大臣・黒印	明宗首座	明宗	真如寺	436
元和9年	8月	21日	1623008021	徳川家光公帖	内大臣	花押	閏8月5日家光公帖と共包	見恕首座	顕宗見恕	三河長興寺	437
元和9年	閏8月	5日	1623008505	徳川家光公帖	内大臣	花押	見恕西堂 内大臣・黒印	見恕西堂	顕宗見恕	真如寺	438
寛永3年	9月	27日	1626009027	徳川家光公帖	左大臣	花押	龍傑	龍傑西堂	龍傑	真如寺	440
寛永3年	10月	1日	1626010001	徳川家光公帖	左大臣	花押	10月25日家光公帖と共包	清賢首座	清賢	伊勢安養寺	441
寛永3年	10月	25日	1626010025	徳川家光公帖	左大臣	花押	清賢西堂 左大臣・黒印	清賢西堂	清賢	真如寺	442
寛永8年	8月	10日	1631008010	徳川家光公帖	左大臣	花押	9月3日家光公帖と共包	惠云首座	聘叔惠云	出雲華藏寺	466
寛永8年	9月	3日	1631009003	徳川家光公帖	左大臣	花押	惠云西堂 左大臣・朱印	惠云西堂	聘叔惠云	真如寺	444
寛永8年	10月	10日	1631010010	徳川家光公帖	左大臣	花押	善忠西堂 左大臣・朱印	善忠首座	牧庵善忠	安芸永福寺	445
寛永13年	2月	9日	1636002009	徳川家光公帖	従一位	花押	永周首座 従一位・朱印	永周首座	永周	伊勢安養寺	446
寛永13年	3月	5日	1636003005	徳川家光公帖	従一位	花押	永周西堂 従一位・朱印	永周西堂	永周	真如寺	447
明暦3年	9月	23日	1657009023	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	永周西堂 右大臣・黒印	永周西堂	永周	東福寺?	458

表3 東福寺公帖様式表(その2)

年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持	番号	
77	寛永16年	6月	12日	1639006012	徳川家光公帖	從一位	花押	有	蒙陰和尚	從一位・黒印	蒙陰和尚	448
78	寛永17年	10月	17日	1640010017	徳川家光公帖	從一位	花押	有	円旦西堂	從一位・黒印	円旦西堂	449
79	承応2年	9月	5日	1653009005	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	無	10月17日家綱公帖と共包		士寿首座	450
80	承応2年	10月	17日	1653010017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	士寿西堂	右大臣・黒印	士寿	454
81	承応2年	9月	12日	1653009012	徳川家綱公帖	右大臣	印	無	11月2日家綱公帖と共包		無外令用	451
82	承応2年	11月	2日	1653011002	徳川家綱公帖	右大臣	印	有	令用西堂	右大臣・黒印	無外令用	455
83	承応2年	10月	17日	1653010017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	欠			玉峰光隣	452
84	明暦3年	3月	10日	1657003010	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	無	4月14日家綱公帖と共包		相光	456
85	明暦3年	4月	14日	1657004014	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	相光西堂	右大臣・黒印	相光	457
86	寛文3年	7月	17日	1663007017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	令瞻西堂	右大臣・黒印	太華令瞻	459
87	寛文10年	10月	23日	1670010023	徳川家綱公帖	右大臣	花押	有	太華和尚	差出無	太華令瞻	473
88	寛文7年	6月	7日	1667006007	徳川家綱公帖	右大臣	黒印	無	7月17日家綱公帖と共包		南宗祖辰	461
89	寛文7年	7月	17日	1667007017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	相辰西堂	差出無	南宗祖辰	462
90	寛文13年	8月	17日	1673008017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	相辰西堂	差出無	南宗祖辰	480
91	元禄8年	12月	7日	1695012007	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	欠			南宗祖辰	492
92	寛文7年	9月	18日	1667009018	徳川家綱公帖	右大臣	黒印	無	10月21日家綱公帖と共包		丹陽光鶴	463
93	寛文7年	10月	21日	1667010021	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	光鶴西堂	差出無	丹陽光鶴	464
94	延宝3年	10月	16日	1675010016	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	光鶴西堂	差出無	丹陽光鶴	481
95	寛文7年	11月	24日	1667011024	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	欠			義旭	465
96	寛文10年	7月	10日	1670007010	徳川家綱公帖	一	黒印	無	8月26日家綱公帖と共包		九峰光虔	467
97	寛文10年	8月	26日	1670008026	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	光虔西堂	差出無	九峰光虔	470
98	寛文10年	8月	15日	1670008015	徳川家綱公帖	一	黒印	無	9月15日家綱公帖と共包		玉田大珠	469
99	寛文10年	9月	15日	1670009015	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	大珠西堂	差出無	玉田大珠	471
100	寛文10年	9月	20日	1670009020	徳川家綱公帖	一	黒印	無	10月17日家綱公帖と共包		慧忠首座	468
101	寛文10年	10月	17日	1670010017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	慧忠西堂	差出無	丹心慧忠	472
102	延宝6年	10月	17日	1678010017	徳川家綱公帖	一	朱印	有	慧忠西堂	差出無	丹心慧忠	485
103	寛文13年	正月	20日	1673001020	徳川家綱公帖	一	黒印	無	2月17日家綱公帖と共包		雲岩龍楚	474
104	寛文13年	2月	17日	1673002017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	龍楚西堂	差出無	雲岩龍楚	475
105	元禄11年	10月	17日	1698010017	徳川家綱公帖	内大臣	朱印	有	龍楚西堂	差出無	雲岩龍楚	494
106	寛文13年	3月	22日	1673003022	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	宗寔西堂	差出無	香林宗寔	477
107	元禄11年	11月	17日	1698011017	徳川家綱公帖	内大臣	朱印	有	宗寔西堂	差出無	香林宗寔	495
108	寛文13年	5月	17日	1673005017	徳川家綱公帖	一	黒印	無	6月17日家綱公帖と共包		松陰玄棟	478
109	寛文13年	6月	17日	1673006017	徳川家綱公帖	右大臣	朱印	有	玄棟西堂	差出無	松陰玄棟	479
110	元禄5年	2月	24日	1692002024	徳川家綱公帖	内大臣	朱印	有	玄棟西堂	差出無	松陰玄棟	490
111	元禄12年	正月	18日	1699001018	徳川家綱公帖	内大臣	朱印	有	松陰和尚	差出無	松陰玄棟	497
112	延宝6年	8月	5日	1678008005	徳川家綱公帖	一	黒印	無	10月17日家綱公帖と共包		昭薫首座	483
113	延宝6年	10月	17日	1678010017	徳川家綱公帖	一	朱印	有	昭薫西堂	差出無	天桂昭薫	484
114	延宝6年	11月	24日	1678011024	徳川家綱公帖	一	黒印	無	12月20日家綱公帖と共包		雲岩光権	486

表3 東福寺公帖様式表(その2)

年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持	番号
延宝6年	12月	20日	1678012020	徳川家綱公帖	一	朱印	有	光権西堂	光権西堂	真如寺	488
元禄16年	9月	15日	1703009015	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	有	光権西堂	実岩光権	東福寺?	499
延宝6年	11月	24日	1678011024	徳川家綱公帖	一	黒印	無	延宝7年1月17日家綱公帖と共包	石田光安	三聖寺	487
延宝7年	正月	17日	1679001017	徳川家綱公帖	一	黒印	有	光安西堂	石田光安	真如寺	489
宝永4年	11月	8日	1707011008	徳川綱吉公帖	一	印	無	元怡首座	悦溪元怡	永福寺	443
宝永4年	11月	15日	1707011015	徳川綱吉公帖	一	黒印	無	永機首座	永機	安養寺	500
宝永4年	12月	17日	1707012017	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	永機西堂	永機	真如寺	503
宝永4年	11月	22日	1707011022	徳川綱吉公帖	一	黒印	無	12月26日綱吉公帖と共包	西川恵槐	永福寺	501
宝永4年	12月	26日	1707012026	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	恵槐西堂	西川恵槐	真如寺	505
宝永4年	4月	29日	1713004029	徳川家継公帖	内大臣	朱印	有	恵槐西堂	西川恵槐	東福寺?	514
正徳3年	12月	8日	1707012008	徳川綱吉公帖	一	黒印	無	宝永5年正月28日綱吉公帖と共包	石霜龍喜	光雲寺	502
宝永4年	正月	28日	1708001028	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	龍喜西堂	石霜龍喜	真如寺	507
宝永5年	4月	12日	1718004012	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	龍喜西堂	石霜龍喜	東福寺254	516
享保3年	2月	17日	1726002017	徳川吉宗公帖	内大臣	花押	有	石霜和尚	石霜龍喜	南禅寺	527
享保11年	12月	24日	1707012024	徳川綱吉公帖	一	黒印	無	宝永5年正月28日綱吉公帖と共包	梅陽玄郁	光雲寺	504
宝永4年	閏正月	8日	1708001508	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	玄郁西堂	梅陽玄郁	真如寺	508
宝永5年	11月	27日	1721011027	徳川綱吉公帖	内大臣	朱印	有	玄郁西堂	梅陽玄郁	東福寺?	523
宝永4年	12月	27日	1707012027	徳川綱吉公帖	一	黒印	無	宝永5年閏正月8日綱吉公帖と共包	永隆	安養寺	506
宝永5年	閏正月	20日	1708001520	徳川綱吉公帖	右大臣	黒印	有	永隆西堂	永隆	真如寺	509
宝永7年	6月	17日	1710006017	徳川家宣公帖	内大臣	黒印	有	智貞西堂	実伝智貞	真如寺	510
宝永7年	9月	10日	1710009010	徳川家宣公帖	一	黒印	無	10月8日家宣公帖と共包	清田祖泰	海会寺	511
宝永7年	10月	8日	1710010008	徳川家宣公帖	内大臣	黒印	有	祖泰西堂	清田祖泰	真如寺	512
正徳3年	4月	16日	1713004016	徳川家継公帖	一	黒印	無	4月29日家宣公帖と共包	祖薫	安養寺	513
正徳3年	5月	9日	1713005009	徳川家継公帖	内大臣	黒印	有	祖薫西堂	祖薫	真如寺	515
享保3年	4月	15日	1718004015	徳川吉宗公帖	一	黒印	無	5月17日吉宗公帖と共包	玄寅	光雲寺	517
享保3年	5月	17日	1718005017	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	玄寅西堂	玄寅	真如寺	518
享保6年	10月	10日	1721010010	徳川吉宗公帖	一	黒印	無	11月27日吉宗公帖と共包	慧般	華藏寺	520
享保6年	11月	27日	1721011027	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	慧般西堂	慧般	真如寺	522
享保6年	10月	26日	1721010026	徳川吉宗公帖	一	黒印	無	12月24日吉宗公帖と共包	藍溪光宣	三聖寺	521
享保6年	12月	24日	1721012024	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	光宣西堂	藍溪光宣	真如寺	524
享保15年	12月	17日	1730012017	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	光宣西堂	藍溪光宣	東福寺258	532
寛保元年	9月	15日	1741109015	徳川吉宗公帖	右大臣	花押	有	藍溪和尚	藍溪光宣	南禅寺	535
享保11年	2月	4日	1726002004	徳川吉宗公帖	一	黒印	無	3月5日吉宗公帖と共包	柏隠心相	三聖寺260	526
享保11年	3月	5日	1726003005	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	心相西堂	柏隠心相	真如寺	529
享保11年	3月	3日	1726003003	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	宗見西堂	龍源宗見	真如寺	528
享保20年	2月	24日	1735002024	徳川吉宗公帖	内大臣	朱印	有	宗見西堂	龍源宗見	東福寺259	533
享保15年	11月	15日	1730011015	徳川吉宗公帖	一	黒印	無	12月14日吉宗公帖と共包	一遠	高城寺	530
享保15年	12月	14日	1730012014	徳川吉宗公帖	内大臣	黒印	有	一遠西堂	一遠	真如寺	531

表 3 東福寺公帖様式表（その2）

年	月	日	西曆	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持	番号
寛延3年	7月	晦日	1750007030	徳川家重公帖	一	黒印	8月28日家重公帖と共包	士淵首座	雲士淵	海会寺	536
寛延3年	8月	28日	1750008028	徳川家重公帖	内大臣	黒印	差出無	士淵西堂	雲士淵	真如寺	540
宝曆4年	2月	13日	1754002013	徳川家重公帖	内大臣	朱印	差出無	士淵西堂	雲士淵	東福寺?	544
寛延3年	8月	5日	1750008005	徳川家重公帖	一	黒印	9月4日家重公帖と共包	恵祥首座	恵祥	安国寺	537
寛延3年	9月	4日	1750009004	徳川家重公帖	内大臣	黒印	差出無	恵祥西堂	恵祥	真如寺	541
寛延3年	8月	12日	1750008012	徳川家重公帖	一	黒印	9月10日家重公帖と共包	龍芳首座	桂藏龍芳	光雲寺	538
寛延3年	9月	10日	1750009010	徳川家重公帖	内大臣	黒印	差出無	龍芳西堂	桂藏龍芳	真如寺	542
宝曆11年	11月	17日	1761011017	徳川家治公帖	内大臣	朱印	差出無	龍芳西堂	桂藏龍芳	東福寺264	546
安永5年	9月	12日	1776009012	徳川家治公帖	内大臣	花押	差出無	桂藏和尚	桂藏龍芳	南禅寺	551
寛延3年	8月	14日	1750008014	徳川家重公帖	一	黒印	9月12日家重公帖と共包	士順首座	順士	海会寺	539
寛延3年	9月	12日	1750009012	徳川家重公帖	内大臣	黒印	差出無	士順西堂	士順	真如寺	543
宝曆11年	11月	20日	1761011020	徳川家治公帖	一	黒印	12月9日家治公帖と共包	一或西座	一或	華藏寺	547
宝曆11年	12月	9日	1761012009	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	一或西堂	一或	真如寺	548
明和元年	7月	28日	1764107028	徳川家治公帖	一	黒印	8月25日家治公帖と共包	大桃首座	大桃	安養寺	549
明和元年	8月	25日	1764108025	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	大桃西堂	大桃	真如寺	550
安永7年	12月	12日	1778012012	徳川家治公帖	一	黒印	安永8年正月13日家治公帖と共包	大稀首座	古堂大稀	廻寺	552
安永8年	正月	13日	1779001013	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	大稀西堂	古堂大稀	真如寺	555
天明8年	12月	17日	1788012017	徳川家治公帖	内大臣	朱印	差出無	大稀西堂	古堂大稀	東福寺266	562
文化2年	12月	17日	1805012017	徳川家治公帖	内大臣	花押	差出無	古堂和尚	古堂大稀	南禅寺	574
安永7年	12月	14日	1778012014	徳川家治公帖	一	黒印	安永8年正月15日家治公帖と共包	令文首座	眞道令文	永福寺	553
安永8年	正月	15日	1779001015	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	令文西堂	眞道令文	真如寺	556
安永7年	12月	20日	1778012020	徳川家治公帖	一	黒印	安永8年正月22日家治公帖と共包	龍育首座	熙陽龍育	光雲寺	554
安永8年	正月	22日	1779001022	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	龍育西堂	熙陽龍育	真如寺	557
天明5年	2月	15日	1785002015	徳川家治公帖	内大臣	朱印	差出無	龍育西堂	熙陽龍育	育東福寺265	560
寛政6年	9月	17日	1794009017	徳川家治公帖	内大臣	花押	差出無	熙陽和尚	熙陽龍育	南禅寺	571
天明4年	12月	14日	1784012014	徳川家治公帖	一	黒印	天明5年正月24日家治公帖と共包	玄禎首座	龍河玄禎	光雲寺	558
天明5年	正月	24日	1785001024	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	玄禎西堂	龍河玄禎	真如寺	559
寛政6年	6月	12日	1794006012	徳川家治公帖	内大臣	朱印	差出無	玄禎西堂	龍河玄禎	東福寺267	565
寛政12年	2月	24日	1800002024	徳川家治公帖	内大臣	花押	差出無	龍河和尚	龍河玄禎	南禅寺	573
天明8年	12月	20日	1788012020	徳川家治公帖	一	黒印	天明9年正月17日家治公帖と共包	慧龍首座	慧龍	永福寺	563
天明9年	正月	17日	1789001017	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	慧龍西堂	慧龍	真如寺	564
寛政6年	6月	20日	1794006020	徳川家治公帖	一	黒印	8月8日家治公帖と共包	宗常首座	宗常	安国寺	566
寛政6年	8月	8日	1794008008	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	宗常西堂	宗常	真如寺	568
寛政6年	6月	24日	1794006024	徳川家治公帖	一	黒印	8月12日家治公帖と共包	玄的首座	玄的	宝福寺	567
寛政6年	8月	12日	1794008012	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	玄的西座	玄的	真如寺	569
寛政6年	8月	14日	1794008014	徳川家治公帖	一	黒印	恵運西堂差出無	恵運首座	恵運	永福寺	570
文化3年	正月	8日	1806001008	徳川家治公帖	一	黒印	2月10日家治公帖と共包	守釋首座	守釋	澄心寺	575
文化3年	2月	10日	1806002010	徳川家治公帖	内大臣	黒印	差出無	守釋西堂	守釋	真如寺	577

表3 東福寺公帖様式表（その2）

年	月	日	西暦	文書名	差出	印判	包紙	宛名	僧名	住持	番号
191	文化3年	正月	14日	1806001014	徳川家齊公帖	—	無	2月11日家齊公帖と共包	玄林首座	光雲寺	576
192	文化3年	2月	11日	1806002011	徳川家齊公帖	内大臣	有	玄林西堂 差出無	玄林	真如寺	578
193	文化11年	6月	5日	1814006005	徳川家齊公帖	—	無	7月8日家齊公帖と共包	光均首座	高城寺	579
194	文化11年	7月	8日	1814007008	徳川家齊公帖	内大臣	有	光均西堂 差出無	光均	真如寺	580
195	文政元年	12月	24日	1818112024	徳川家齊公帖	—	無	—	陝器	永福寺	581
196	文政7年	正月	20日	1824001020	徳川家齊公帖	—	無	2月晦日家齊公帖と共包	宗牧首座	安国寺	582
197	文政7年	2月	晦日	1824002030	徳川家齊公帖	左大臣	有	宗牧西堂 差出無	宗牧	真如寺	583
198	文政8年	12月	14日	1825012014	徳川家齊公帖	—	無	文政9年正月17日家齊公帖と共包	令禎首座	三聖寺	584
199	文政9年	正月	17日	1826001017	徳川家齊公帖	左大臣	有	令禎西堂 差出無	令禎	真如寺	585
200	天保6年	正月	8日	1835001008	徳川家齊公帖	—	無	—	周良首座	宝福寺	586
201	弘化4年	8月	12日	1847008012	徳川家慶公帖	左大臣	有	周良西堂 差出無	周良	東福寺?	594
202	天保10年	7月	8日	1839007008	徳川家慶公帖	—	無	8月12日家慶公帖と共包	周良	安国寺	587
203	天保10年	8月	12日	1839008012	徳川家慶公帖	左大臣	有	惠然西堂 差出無	惠然首座	真如寺	590
204	天保10年	7月	10日	1839007010	徳川家慶公帖	—	無	8月14日家慶公帖と共包	士融首座	澄心寺	589
205	天保10年	8月	10日	1839008014	徳川家慶公帖	左大臣	有	士融西堂 差出無	士融	真如寺	591
206	天保14年	8月	10日	1843008010	徳川家慶公帖	左大臣	有	士融西堂 差出無	士融	東福寺?	593
207	天保10年	7月	20日	1839007020	徳川家慶公帖	—	無	8月晦日家慶公帖と共包	玄勝首座	願成寺	588
208	天保10年	8月	晦日	1839008030	徳川家慶公帖	左大臣	有	玄勝西堂 差出無	玄勝	真如寺	592

表 4 東福寺僧名別任寺別公帖整理表

道号僧名	諸山禅寺名	諸山公帖 充名	諸山公帖 任年	諸山公帖 年西曆	十刹公帖 充名	十刹公帖 任年	十刹公帖 年西曆	東福寺公 帖充名	住持 代数	東福寺公 帖任年	東福寺公 帖年西曆	九条家公 帖充名	九条家公 帖任年	九条家公 帖年西曆	南禅寺公 帖充名	南禅寺公 帖任年	南禅寺公 帖年西曆
1	自悦守權	守權首座	延應 3年	1491004010	令才西堂	文龜 2年	1502005002		184	天文 7年	1538004005	守仙西堂	天文 7年	1538004012	彭叔和尚	天文 16年	1547005007
2	茂伯令才	令才首座	文龜 2年	1502004016	周仙西堂	永正 18年	1521002026	守仙西堂	207	天文 7年	1538004005	守仙西堂	天文 7年	1538004012	彭叔和尚	天文 16年	1547005007
3	彭叔守仙	周仙首座	永正 18年	1521002023	元龍西堂	天文 7年	1538012012	龍喜西堂									
4	竹英元龍	元龍首座	天文 7年	1538012012	守忍西堂	天文 20年	1551004021	龍喜西堂									
5	安芸永福寺	守忍首座	天文 20年	1551004019	龍喜西堂	弘治 2年	1556005003	龍喜西堂	214	元龜 2年	1571012018				照香和尚	天正 17年	1589009013
6	照春龍喜	龍喜首座	天文 24年	1555010516	元珪西堂	永祿 7年	1564005019	善禪西堂	216	天正 3年	1575001014	善禪西堂	天正 3年	1575001014			
7	大玄元珪	元珪首座	永祿 3年	1560012028				元珪和尚									
8	英隱善禪							令鶴西堂	221	天正 18年	1590002014				文敏和尚	文祿 5年	1596002005
9	竹園玄桂	令鶴首座	天正 11年	1583004015	令鶴西堂	天正 11年	1583012006	令鶴西堂	223	慶長 2年	1597002021				兼靈和尚	慶長 9年	1604007005
10	文敏守廣	守廣首座	天正 12年	1584012004													
11	柱庵守廣	守廣首座	天正 12年	1584012004													
12	兼靈守廣	守廣首座	天正 12年	1584012004													
13	永鶴	永鶴首座	天正 17年	1589003027	永鶴西堂	天正 17年	1589004011	永鶴西堂	225			龍冊西堂	慶長 4年	1599002013	友月和尚	慶長 9年	1604008026
14	友月龍冊	龍冊首座	天正 17年	1589009015	龍冊西堂	天正 17年	1589009022	龍冊西堂									
15	安芸永福寺	安芸永福寺	文祿 2年	1593010013	*玄素西堂	文祿 2年	1593010015	龍喜西堂									
16	文英清禪	清禪首座	文祿 5年	1596009005	清禪西堂	文祿 5年	1596009010	清禪西堂	227	慶長 5年	1600007003	清禪西堂	慶長 5年	1600007003	文英和尚	慶長 9年	1604005016
17	天倫光沢							光沢西堂	228	慶長 9年	1604004011				天倫和尚	慶長 13年	1608009010
18	惟宗明知							明知西堂	230	慶長 14年	1609008028				剛外和尚	元和 9年	1623008005
19	剛外令柔	令柔首座	文祿 4年	1595011012	令柔西堂	文祿 4年	1595012010	令柔西堂	232	慶長 16年	1611005003	龍玄西堂	慶長 16年	1611005015			
20	圭叔龍玄	龍玄首座	文祿 5年	1596001010	龍玄西堂	文祿 5年	1596002005	龍玄西堂	233								
21	越深義超							義超西堂									
22	怡伯令悦	令悦首座	慶長 13年	1608006018	令悦西堂	慶長 10年	1605003005	令悦西堂									
23	慶南受倫	受倫首座	慶長 13年	1608009028	受倫西堂	慶長 13年	1608007005	受倫西堂									
24	龍俊	龍俊首座	慶長 13年	1608009018	龍俊西堂	慶長 13年	1608010010	龍俊西堂	235						兼靈和尚	慶長 9年	1604008026
25	兼靈守廣																
26	雄峰永俊							永俊西堂	236	元和 9年	1623002005						
27	惠有	惠有首座	慶長 16年	1611010010	惠有西堂	慶長 16年	1611011002	惠有西堂									
28	俊南光勝	光勝首座	慶長 17年	1612005026	光勝西堂	慶長 17年	1612006002	光勝西堂									
29	湘雲守元	守元首座	元和 6年	1620005003													
30	雲高聖興	聖興首座	元和 8年	1622003005	聖興西堂	元和 8年	1622006020	聖興西堂									
31	明宗	加賀安國寺	元和 8年	1623008010	明宗西堂	元和 9年	1623008020	明宗西堂									
32	顯宗見忍	三河長興寺	元和 9年	1623008021	見忍西堂	元和 9年	1623008505	見忍西堂									
33	龍傑							龍傑西堂									
34	清賢	伊勢安養寺	清賢首座	寬永 3年	清賢西堂	寬永 3年	1626010001	清賢西堂									
35	轉叔惠云	出雲華嚴寺	惠云首座	寬永 8年	惠云西堂	寬永 8年	1631008010	惠云西堂									
36	牧庵善忠	安芸永福寺	善忠首座	寬永 8年													
37	周南円日								238	寬永 17年	1640010017						
38	玉峰光隣							光隣西堂						1653010017			
39	永周	伊勢安養寺	永周首座	寬永 13年	永周西堂	寬永 13年	1636003005	永周西堂						光隣西堂	承応 2年	1653010017	
40	太華令麟								241	寬文 3年	1663007017	令麟西堂	寬文 3年	1663007017	太華和尚	寬文 10年	1670010023
41	士壽	円福寺	士壽首座	承応 2年	士壽西堂	承応 2年	1653010017	士壽西堂									
42	無外令用	三聖寺	令用首座	承応 2年	令用西堂	承応 2年	1653011002	令用西堂									
43	祖光	安養寺	祖光首座	明曆 3年	祖光西堂	明曆 3年	1657003010	祖光西堂									
44	南宗祖辰	安養寺	祖辰首座	寬文 7年	祖辰西堂	寬文 7年	1667006007	祖辰西堂	242	寬文 13年	1673008017	祖辰西堂	延宝 4年	1676003014	南宗和尚	元祿 8年	1695012007
45	丹陽光鶴	三聖寺	光鶴首座	寬文 7年	光鶴西堂	寬文 7年	1667009018	光鶴西堂	243	延宝 3年	1675010016						
46	釋旭							釋旭西堂									
47	九峰光虔	三聖寺	光虔首座	寬文 10年	光虔西堂	寬文 10年	1670007010	光虔西堂									
48	玉田大珠	安養寺	大珠首座	寬文 10年	大珠西堂	寬文 10年	1670008015	大珠西堂									

表 4 東福寺僧名別任寺別公帖整理表

道号	僧名	諸山公帖 充名	諸山公帖 任年	諸山公帖 任年	諸山公帖 任年	十刹公帖 任年	十刹公帖 任年	十刹公帖 任年	東福寺公帖 充名	東福寺公帖 任年	東福寺公帖 任年	九条家公帖 充名	九条家公帖 任年	九条家公帖 任年	南禅寺公帖 充名	南禅寺公帖 任年	南禅寺公帖 任年
49	丹心慧忠	慧忠西堂	寶文10年	寶文10年	寶文10年	寶文10年	寶文10年	寶文10年	慧忠西堂	1670010017	1678010017	慧忠西堂	1698005028	1698005028	松陰和尚	元祿12年	1699001018
50	松陰玄棟	玄棟西堂	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	玄棟西堂	1673006017	1673006017	玄棟西堂	1692012008	1692012008			
51	雲岩龍楚	龍楚西堂	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	龍楚西堂	1673001020	1673001020	龍楚西堂	1699007007	1699007007			
52	香林宗雲	宗雲西堂	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	寶文13年	宗雲西堂	1673003022	1673003022	宗雲西堂	1701003022	1701003022			
53	天桂昭耀	昭耀西堂	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	昭耀西堂	1678008005	1678008005						
54	寒岩光權	光權西堂	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	光權西堂	1678011024	1678011024						
55	石田光安	光安西堂	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	延寶6年	光安西堂	1678011024	1678011024						
56	悅溪元怡	元怡西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	元怡西堂	1707011008	1707011008						
57	永機	永機西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	永機西堂	1707011015	1707011015						
58	西川惠棟	惠棟西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	惠棟西堂	1707011022	1707011022						
59	石霜龍菴	龍菴西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	龍菴西堂	1707012008	1707012008						
60	梅隆玄郁	玄郁西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	玄郁西堂	1707012024	1707012024						
61	永隆	永隆西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	永隆西堂	1707012027	1707012027						
62	實伝智貞	智貞西堂	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	寶永4年	智貞西堂	1707012027	1707012027						
63	清田祖桑	祖桑西堂	寶永7年	寶永7年	寶永7年	寶永7年	寶永7年	寶永7年	祖桑西堂	1710009010	1710009010						
64	祖養	祖養西堂	寶永7年	寶永7年	寶永7年	寶永7年	寶永7年	寶永7年	祖養西堂	1713004016	1713004016						
65	玄實	玄實西堂	享保3年	享保3年	享保3年	享保3年	享保3年	享保3年	玄實西堂	1718004015	1718004015						
66	慧般	慧般西堂	享保6年	享保6年	享保6年	享保6年	享保6年	享保6年	慧般西堂	1721010010	1721010010						
67	藍溪光宣	光宣西堂	享保6年	享保6年	享保6年	享保6年	享保6年	享保6年	光宣西堂	1721010026	1721010026						
68	龍源宗見	宗見西堂	享保11年	享保11年	享保11年	享保11年	享保11年	享保11年	宗見西堂	1726002004	1726002004						
69	相隱心桓	心桓西堂	享保11年	享保11年	享保11年	享保11年	享保11年	享保11年	心桓西堂	1726002004	1726002004						
70	一遠	一遠西堂	享保15年	享保15年	享保15年	享保15年	享保15年	享保15年	一遠西堂	1730011015	1730011015						
71	高城寺	高城西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	高城西堂	1750007030	1750007030						
72	惠雲士淵	惠雲西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	惠雲西堂	1750008005	1750008005						
73	安國寺	安國西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	安國西堂	1750008005	1750008005						
74	桂藏龍芳	龍芳西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	龍芳西堂	1750008012	1750008012						
75	士順	士順西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	士順西堂	1750008014	1750008014						
76	一或	一或西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	一或西堂	1761011020	1761011020						
77	實道令文	令文西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	令文西堂	1761107028	1761107028						
78	照隱龍菴	龍菴西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	龍菴西堂	1778012014	1778012014						
79	古堂大禎	大禎西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	大禎西堂	1778012014	1778012014						
80	龍河玄禎	玄禎西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	玄禎西堂	1778012014	1778012014						
81	慧龍	慧龍西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	慧龍西堂	1778012014	1778012014						
82	宗常	宗常西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	宗常西堂	1794006020	1794006020						
83	玄蓮	玄蓮西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	玄蓮西堂	1794006024	1794006024						
84	守釋	守釋西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	守釋西堂	1794008014	1794008014						
85	玄林	玄林西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	玄林西堂	1806001008	1806001008						
86	光均	光均西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	光均西堂	1806001014	1806001014						
87	晚器	晚器西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	晚器西堂	1814006005	1814006005						
88	宗牧	宗牧西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	宗牧西堂	1818112024	1818112024						
89	令禎	令禎西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	令禎西堂	1824001020	1824001020						
90	東然	東然西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	東然西堂	1825012014	1825012014						
91	士融	士融西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	士融西堂	1839007008	1839007008						
92	周良	周良西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	周良西堂	1839007010	1839007010						
93	願成	願成西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	願成西堂	1835001008	1835001008						
94	玄勝	玄勝西堂	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	寶延3年	玄勝西堂	1839007020	1839007020						

表5 東福寺公帖料紙計測測測一々表

番号	年	月	日	西暦	文書名	僧名	住持	紙様	目録	目幅	目高	自立	刷立	縦線束	米粉	非線	線寸法	線比	面積	厚み	重さ	密度	乾燥法	干版	版付法
375	延徳3年	4月	10日	14910004010	室町藏村公帖	自院守傳	安芸永福寺	強形原	顕著	13	39	顕	顕	有	なし	あり	361	568	23.35	140	0.29	紙干	四隅	刷目版	
376	文龜2年	4月	16日	15020004016	室町藏高公帖	茂伯令才	安芸安國寺	強形原	顕著	18	41	不詳	顕	多	なし	あり	339	160008	23.2	140	0.38	紙干	四隅	刷目版	
377	文龜2年	5月	2日	15020005002	室町藏高公帖	茂伯令才	安芸安國寺	強形原	顕著	15	29	不詳	不詳	多	なし	あり	472	141	159264	26.9	143	0.33	紙干	刷目版	
378	永正18年	2月	23日	15210002023	室町藏福公帖	彰叔守仙	志岐海印寺	強形原	顕著	13	60	不詳	不詳	少	なし	あり	337	559	188383	27.85	133	0.25	紙干	刷目版	
379	永正18年	2月	26日	15210002026	室町藏福公帖	彰叔守仙	志岐海印寺	強形原	顕著	13	82	不詳	不詳	少	なし	あり	337	559	188383	29.05	144	0.26	紙干	刷目版	
380	永正18年	2月	4日	15210002004	室町藏福公帖	彰叔守仙	真如寺	強形原	顕著	15	29	不詳	不詳	多	なし	あり	358	523	146	188666	24.3	144	0.31	紙干	刷目版
381	永正18年	2月	5日	15210002005	室町藏福公帖	彰叔守仙	真如寺	強形原	顕著	12	28	不詳	不詳	多	なし	あり	354	519	147	183726	28.1	148	0.29	紙干	刷目版
382	天文7年	12月	12日	15380012012	室町藏晴公帖	竹元元龍	安芸永福寺	強形原	顕著	13	29	顕	顕	有	なし	あり	353	525	149	183325	30.3	143	0.29	紙干	刷目版
383	天文7年	12月	12日	15380012012	室町藏晴公帖	竹元元龍	真如寺	強形原	顕著	13	29	顕	顕	有	なし	あり	353	525	149	183325	30.3	143	0.29	紙干	刷目版
384	天文16年	5月	7日	15470005007	室町藏福公帖	彰叔守仙	真如寺	強形原	顕著	15	27	不詳	顕	多	なし	あり	332	515	155	170980	21.4	128	0.35	紙干	刷目版
385	天文20年	4月	19日	15510004019	室町藏福公帖	月汀守澄	安芸永福寺	強形原	透現	15	28	不詳	顕	多	なし	なし	340	514	151	174760	18.45	97	0.3	紙干	刷目版
386	天文20年	4月	21日	15510004021	室町藏福公帖	月汀守澄	安芸永福寺	強形原	透現	14	28	不詳	顕	多	なし	なし	340	514	151	174760	18.45	97	0.3	紙干	刷目版
387	天文20年	4月	19日	15510004019	室町藏福公帖	月汀守澄	安芸永福寺	強形原	透現	15	28	不詳	顕	多	なし	なし	340	514	151	174760	18.45	97	0.3	紙干	刷目版
388	天文24年	10月	16日	15550010516	室町藏輝公帖	照善龍書	持津光堂寺	強形原	顕著	16	25	不詳	顕	多	なし	あり	338	518	153	175084	20.55	119	0.33	紙干	刷目版
389	弘治2年	5月	3日	15560005003	室町藏輝公帖	照善龍書	真如寺	強形原	顕著	13	28	不詳	顕	多	なし	あり	329	523	156	178992	25.3	129	0.28	紙干	刷目版
390	永祿2年	12月	28日	15600012028	室町藏輝公帖	大五元廷	真如寺	強形原	顕著	18	26	不詳	顕	多	なし	あり	328	518	153	178343	27	129	0.27	紙干	刷目版
391	永祿3年	12月	28日	15600012018	室町藏輝公帖	大五元廷	真如寺	強形原	顕著	14	29	不詳	不詳	有	なし	あり	350	558	159	195300	21.8	146	0.34	紙干	刷目版
392	永祿7年	5月	19日	15640005019	室町藏輝公帖	照善龍書	東福寺	強形原	顕著	14	30	不詳	顕	多	なし	あり	316	493	156	155788	19.75	86	0.28	紙干	刷目版
393	元龜2年	12月	18日	15710012018	室町藏昭公帖	照善龍書	東福寺	強形原	顕著	13	27	不詳	顕	多	なし	あり	316	493	156	155788	19.75	86	0.28	紙干	刷目版
394	元龜2年	正月	14日	15750001014	室町藏昭公帖	照善龍書	東福寺	強形原	顕著	13	27	不詳	顕	多	なし	あり	316	493	156	155788	19.75	86	0.28	紙干	刷目版
395	天正3年	5月	27日	15750005027	室町藏昭公帖	文殊令延	東福寺	強形原	透現	11	40	不詳	顕	有	なし	なし	468	667	143	312156	25.9	216	0.27	紙干	刷目版
396	天正3年	5月	27日	15750005027	室町藏昭公帖	文殊令延	東福寺	強形原	透現	11	40	不詳	顕	有	なし	なし	468	667	143	312156	25.9	216	0.27	紙干	刷目版
397	天正11年	4月	15日	15830004015	室町藏昭公帖	文殊令延	三聖寺	強形原	透現	13	30	不詳	顕	有	なし	あり	356	526	148	187256	23	113	0.26	紙干	刷目版
398	天正11年	12月	6日	15830012006	室町藏昭公帖	文殊令延	真如寺	強形原	透現	13	31	不詳	顕	有	なし	あり	393	587	149	230691	25.8	182	0.31	紙干	刷目版
399	天正12年	12月	4日	15840012004	室町藏昭公帖	文殊令延	安芸永福寺	強形原	透現	14	30	不詳	顕	有	なし	あり	400	596	149	238400	22.85	199	0.25	紙干	刷目版
400	天正12年	3月	27日	15890003027	豊臣秀吉公帖	永親	東福寺	大高摺紙①	顕著	10	36	不詳	顕	有	なし	あり	465	661	142	307365	25.65	199	0.25	紙干	刷目版
401	天正17年	4月	11日	15890004011	豊臣秀吉公帖	照善龍書	真如寺	大高摺紙①	顕著	10	36	不詳	顕	有	なし	なし	468	667	143	312156	25.9	216	0.27	紙干	刷目版
402	天正17年	9月	13日	15890009013	豊臣秀吉公帖	照善龍書	真如寺	大高摺紙①	透現	11	40	不詳	顕	有	なし	なし	461	631	137	290891	26.8	246	0.32	紙干	刷目版
403	天正17年	9月	15日	15890009015	豊臣秀吉公帖	及月龍備	持津光堂寺	大高摺紙①	透現	11	40	不詳	顕	有	なし	なし	463	638	138	295394	23.15	219	0.32	紙干	刷目版
404	天正17年	9月	22日	15890009022	豊臣秀吉公帖	及月龍備	真如寺	大高摺紙①	透現	11	37	不詳	顕	有	なし	なし	464	639	138	296496	26.95	273	0.34	紙干	刷目版
405	天正18年	2月	14日	15900002014	豊臣秀吉公帖	文殊令延	真如寺	大高摺紙①	透現	10	34	不詳	顕	有	なし	なし	475	665	141	315875	28.9	211	0.23	紙干	刷目版
406	文祿2年	10月	13日	15930010013	豊臣秀吉公帖	文殊令延	安芸永福寺	大高摺紙①	透現	10	35	不詳	顕	有	なし	なし	462	663	144	308306	26.75	214	0.26	紙干	刷目版
407	文祿2年	10月	15日	15930010015	豊臣秀吉公帖	文殊令延	真如寺	大高摺紙①	透現	9	35	不詳	顕	有	なし	なし	462	659	143	304458	29.45	203	0.23	紙干	刷目版
408	文祿2年	11月	12日	15930011012	豊臣秀吉公帖	文殊令延	三聖寺	大高摺紙①	透現	11	37	不詳	不詳	有	なし	なし	453	647	143	293091	22.55	190	0.29	紙干	刷目版
409	文祿4年	12月	10日	15950012010	豊臣秀吉公帖	關外令委	伊勢安養寺	大高摺紙①	顕著	9	32	不詳	不詳	有	なし	なし	452	647	143	292444	21.55	191	0.3	紙干	刷目版
410	文祿4年	正月	10日	15950012010	豊臣秀吉公帖	關外令委	真如寺	大高摺紙①	透現	13	35	不詳	顕	有	なし	なし	455	650	143	295750	20.4	180	0.3	紙干	刷目版
411	文祿5年	2月	5日	15951002005	豊臣秀吉公帖	圭叔龍玄	真如寺	大高摺紙①	透現	14	37	不詳	顕	有	なし	なし	451	648	144	292248	22.7	198	0.3	紙干	刷目版
412	文祿5年	2月	5日	15951002005	豊臣秀吉公帖	圭叔龍玄	真如寺	大高摺紙①	透現	11	40	微	微	有	なし	あり	453	647	143	293091	21.35	174	0.28	紙干	刷目版
413	文祿5年	9月	5日	15960009005	豊臣秀吉公帖	文殊令延	伊勢安養寺	大高摺紙①	透現	11	38	不詳	顕	有	なし	なし	450	646	144	290700	25.05	223	0.31	紙干	刷目版
414	文祿5年	9月	10日	15960009010	豊臣秀吉公帖	文殊令延	真如寺	大高摺紙①	透現	11	38	不詳	顕	有	なし	なし	450	646	144	290700	24	202	0.29	紙干	刷目版
415	慶長2年	2月	21日	15970002021	豊臣秀吉公帖	集雲守藤	東福寺	大高摺紙①	透現	11	34	不詳	不詳	有	なし	あり	464	662	143	307168	19.65	182	0.3	紙干	刷目版
416	慶長2年	7月	3日	16000007003	豊臣秀吉公帖	文殊令延	東福寺	大高摺紙①	透現	12	35	不詳	不詳	有	なし	あり	466	671	144	312686	22.65	158	0.22	紙干	刷目版
417	慶長9年	5月	16日	16040005016	徳川家康公帖	天眞光沢	東福寺	大高摺紙①	透現	10	40	不詳	不詳	有	なし	あり	466	671	144	312686	22.65	158	0.22	紙干	刷目版
418	慶長9年	7月	5日	16040007005	徳川家康公帖	集雲守藤	南禅寺	大高摺紙①	透現	10	37	不詳	不詳	有	なし	あり	467	661	142	308687	28	202	0.23	紙干	刷目版
419	慶長9年	8月	26日	16040008026	徳川家康公帖	及月龍備	南禅寺	大高摺紙①	透現	11	35	不詳	不詳	有	なし	あり	464	665	143	308560	25.65	193	0.24	紙干	刷目版
420	慶長10年	3月	5日	16050003005	徳川家康公帖	越深兼超	真如寺	大高摺紙①	顕著	10	37	不詳	不詳	有	なし	なし	465	665	143	309225	29.9	218	0.24	紙干	刷目版
421	慶長13年	6月	18日	16080006018	徳川秀忠公帖	怡伯令悦	三聖寺	大高摺紙①	顕著	9	35	不詳	不詳	有	なし	なし	460	628	137	288880	34.2	208	0.21	紙干	刷目版
422	慶長13年	7月	5日	16080007005	徳川秀忠公帖	怡伯令悦	真如寺	大高摺紙①	顕著	10	34	不詳	不詳	有	なし	なし	458	626	137	286708	32.45	199	0.21	紙干	刷目版
423	慶長13年	9月	10日	16080009010	徳川秀忠公帖	怡伯令悦	南禅寺	大高摺紙①	透現	11	37	不詳	不詳	有	なし	あり	460	624	136	287040	27.7	205	0.26	紙干	刷目版
424	慶長13年	9月	18日	16080009018	徳川秀忠公帖	龍復	伊勢安養寺	大高摺紙①	透現	10	38	不詳	不詳	有	なし	あり	457	623	136	284711	30.9	195	0.26	紙干	刷目版
425	慶長13年	9月	28日	16080009028	徳川秀忠公帖	龍復	伊勢安養寺	大高摺紙①	透現	11	37	不詳	不詳	有	なし	あり	450	618	137	278100	27.3	195	0.26	紙干	刷目版
426	慶長13年	10月	1日	16080010001	徳川秀忠公帖	龍復	東福寺	大高摺紙①	透現	11	37	不詳	不詳	有	なし	あり	464	628	135	291332	32.95	208	0.22	紙干	刷目版
427	慶長13年	10月	2日	16080010002	徳川秀忠公帖	龍復	東福寺	大高摺紙①	透現	10	38	不詳	不詳	有	なし	あり	452	621	137	280692	25.4	191	0.27	紙干	刷目版
428	慶長13年	10月	10日	16080010010	徳川秀忠公帖	龍復	真如寺	大高摺紙①	透現	11	37	不詳	不詳	有	なし	あり	452	621	137	280692	25.4	191	0.27	紙干	刷目版
429	慶長14年	5月	28日	16090005028	徳川秀忠公帖	關外令委	東福寺	大高摺紙①	透現	11	38	不詳	顕	有	なし	あり	460	632	137	290720	31.1	192	0.21	紙干	

表5 東福寺公帖料紙計測観測データ表

番号	年	月	日	西暦	文書名	僧名	住持	紙種	裏目自立	裏目本幅	幅目自立	幅目本幅	筒毛自立	筒毛本幅	縁結束	米粉	非織維	織寸法	構造比	面積	厚み	重量	密度	乾燥法	千歳	綴付法
172	安永8年	正月	15日	17790001015	徳川家治公帖	貫道令文	真如寺	大高摺紙②	透視	14	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	657	1.42	304848	60.45	550	0.3		
173	安永8年	正月	22日	17790001022	徳川家治公帖	照陽龍背	真如寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	658	1.42	305312	63.45	578	0.3		
174	天明4年	12月	14日	17840012014	徳川家治公帖	龍河玄嶺	光靈寺	大高摺紙②	透視	15	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	657	1.42	304848	56.6	528	0.31		
175	天明5年	正月	24日	17850001024	徳川家治公帖	龍河玄嶺	真如寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	465	658	1.42	305970	61.2	548	0.29		
176	天明5年	2月	15日	17850002015	徳川家治公帖	東福寺265	東福寺265	大高摺紙②	透視	15	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	658	1.42	304654	58.55	536	0.3		
177	天明5年	12月	17日	17850012017	徳川家治公帖	古堂大橋	東福寺266	大高摺紙②	透視	12	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	656	1.42	303728	59.05	537	0.3		
178	天明8年	正月	20日	17880001200	徳川家治公帖	龍河玄嶺	真如寺	大高摺紙②	透視	15	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	658	1.42	305312	58.15	492	0.28		
179	天明9年	正月	17日	17890001017	徳川家治公帖	龍河玄嶺	真如寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	465	659	1.42	306435	57.6	523	0.3		
180	寛政6年	6月	12日	17940006012	徳川家治公帖	東福寺267	東福寺267	大高摺紙②	透視	13	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	655	1.41	303920	61.3	543	0.29		
181	寛政6年	6月	20日	17940006020	徳川家治公帖	宗常	安国寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	658	1.42	305312	56.85	426	0.25		
182	寛政6年	6月	24日	17940006024	徳川家治公帖	玄的	宝福寺	大高摺紙②	透視	14	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	657	1.42	304191	49.1	484	0.32		
183	寛政6年	8月	8日	17940008008	徳川家治公帖	宗常	真如寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	658	1.42	305312	63.45	572	0.3		
184	寛政6年	8月	12日	17940008012	徳川家治公帖	宗常	真如寺	大高摺紙②	透視	13	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	657	1.42	304848	53.3	525	0.32		
185	寛政6年	8月	14日	17940008014	徳川家治公帖	惠運	水福寺	大高摺紙②	透視	13	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	658	1.42	305312	53.65	520	0.32		
186	寛政6年	9月	17日	17940009017	徳川家治公帖	龍河玄嶺	南禅寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	657	1.42	303728	60.4	547	0.3		
187	寛政12年	2月	24日	18060002024	徳川家治公帖	龍河玄嶺	南禅寺	大高摺紙②	透視	13	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	461	657	1.43	302877	56.6	505	0.29		
188	文化2年	12月	17日	180500012017	徳川家治公帖	玄林	南禅寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	464	657	1.42	304848	64.15	592	0.3		
189	文化3年	正月	8日	18060001008	徳川家治公帖	守輝	光靈寺	大高摺紙②	透視	13	34	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	658	1.42	304654	55.1	502	0.3		
190	文化3年	正月	14日	18060001014	徳川家治公帖	玄林	光靈寺	大高摺紙②	透視	15	34	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	656	1.42	303728	58.6	529	0.3		
191	文化3年	2月	10日	18060002010	徳川家治公帖	守輝	真如寺	大高摺紙②	透視	14	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	652	1.41	301876	54.85	523	0.32		
192	文化3年	2月	11日	18060002011	徳川家治公帖	玄林	真如寺	大高摺紙②	透視	13	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	656	1.42	303728	53.65	508	0.31		
193	文化11年	6月	5日	18140006005	徳川家治公帖	光均	高城寺	大高摺紙②	透視	13	37	不詳	無	なし	なし	なし	なし	465	656	1.42	306900	65.3	605	0.3		
194	文化11年	7月	8日	18140007008	徳川家治公帖	光均	真如寺	大高摺紙②	透視	14	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	658	1.42	304654	69.8	594	0.28		
195	文化元年	12月	24日	18181012024	徳川家治公帖	晚器	安福寺	大高摺紙②	透視	13	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	453	658	1.45	298074	70.35	701	0.33		
196	文政7年	正月	20日	18240001020	徳川家治公帖	宗牧	安国寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	461	658	1.43	303338	59.35	572	0.32		
197	寛政7年	2月	晦日	18240002030	徳川家治公帖	宗牧	真如寺	大高摺紙②	透視	13	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	462	659	1.43	304458	64.15	634	0.32		
198	文政7年	12月	14日	182500012014	徳川家治公帖	合禎	三如寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	461	652	1.41	300572	65.6	649	0.33		
199	文政9年	正月	17日	18260001017	徳川家治公帖	合禎	真如寺	大高摺紙②	透視	13	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	463	657	1.42	304191	69.95	702	0.33		
200	天保6年	正月	8日	18350001008	徳川家治公帖	周良	安福寺	大高摺紙②	透視	13	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	461	658	1.43	303338	71.6	713	0.33		
201	天保10年	7月	8日	18390007008	徳川家治公帖	東然	安国寺	大高摺紙②	透視	10	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	449	660	1.47	296340	64.05	592	0.31		
202	天保10年	7月	10日	18390007010	徳川家治公帖	士融	澄心寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	461	658	1.43	303338	80.2	782	0.32		
203	天保10年	7月	20日	18390007020	徳川家治公帖	女勝	蘭成寺	大高摺紙②	透視	12	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	459	656	1.43	301104	61.85	581	0.31		
204	天保10年	8月	12日	18390008012	徳川家治公帖	東然	真如寺	大高摺紙②	透視	11	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	458	657	1.43	300906	68.65	652	0.32		
205	天保10年	8月	14日	18390008014	徳川家治公帖	士融	真如寺	大高摺紙②	透視	11	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	460	658	1.43	302680	69.4	674	0.32		
206	天保10年	8月	晦日	18390008030	徳川家治公帖	士融	真如寺	大高摺紙②	透視	11	36	不詳	無	なし	なし	なし	なし	461	656	1.42	302416	73.85				
207	天保14年	8月	10日	18430008010	徳川家治公帖	士融	東福寺?	大高摺紙②	透視	12	37	不詳	無	なし	なし	なし	なし	456	657	1.44	299592	67.25	628	0.31		
208	弘化4年	8月	12日	18470008012	徳川家治公帖	周良	東福寺?	大高摺紙②	透視	12	35	不詳	無	なし	なし	なし	なし	458	658	1.44	301364	59.4	578	0.32		

図13 東福寺公帖料紙縦寸法の年代変化

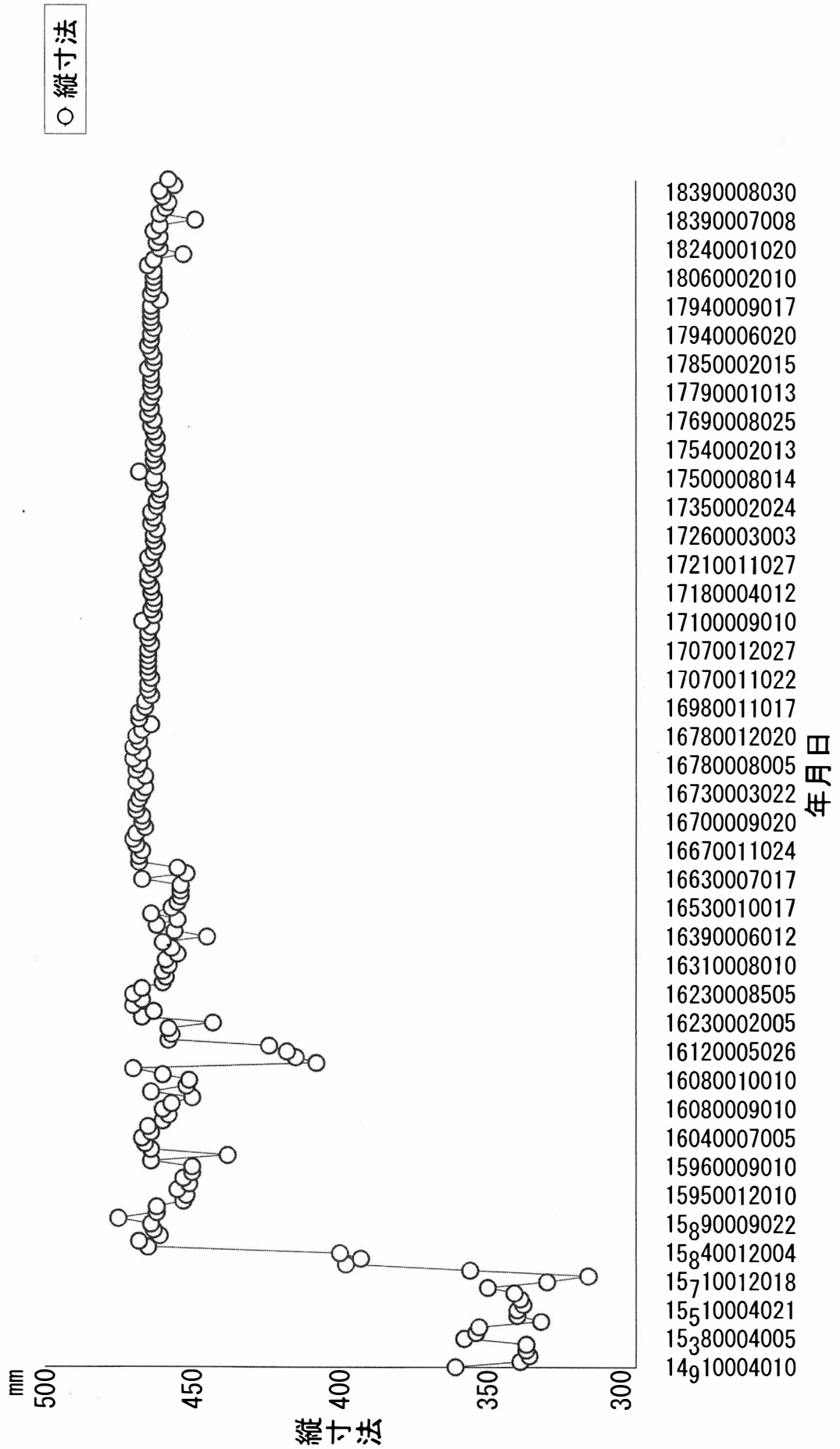


図14 東福寺公帖料紙横寸法の年代変化

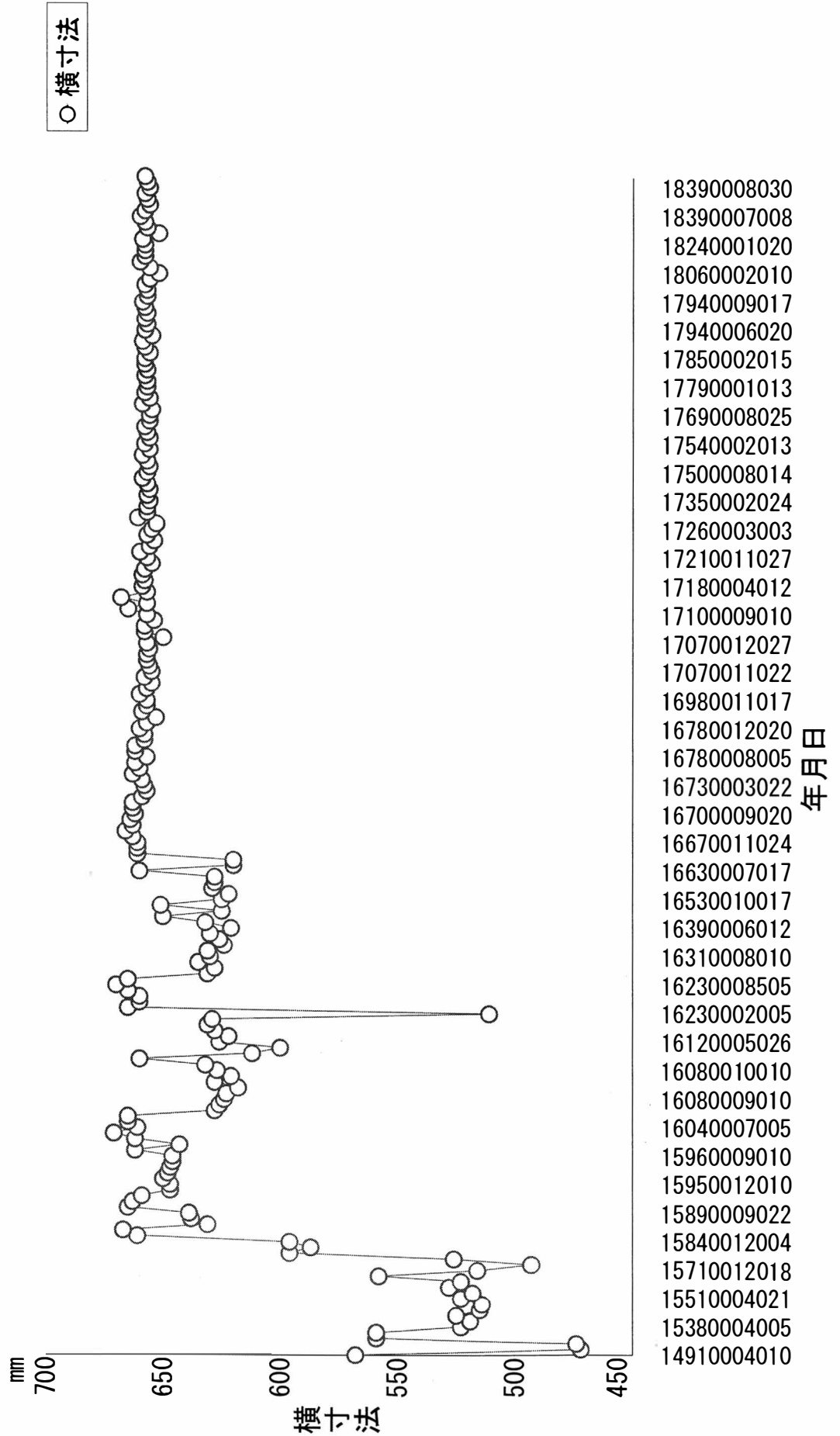


図15 東福寺公帖料紙縦横比の年代変化

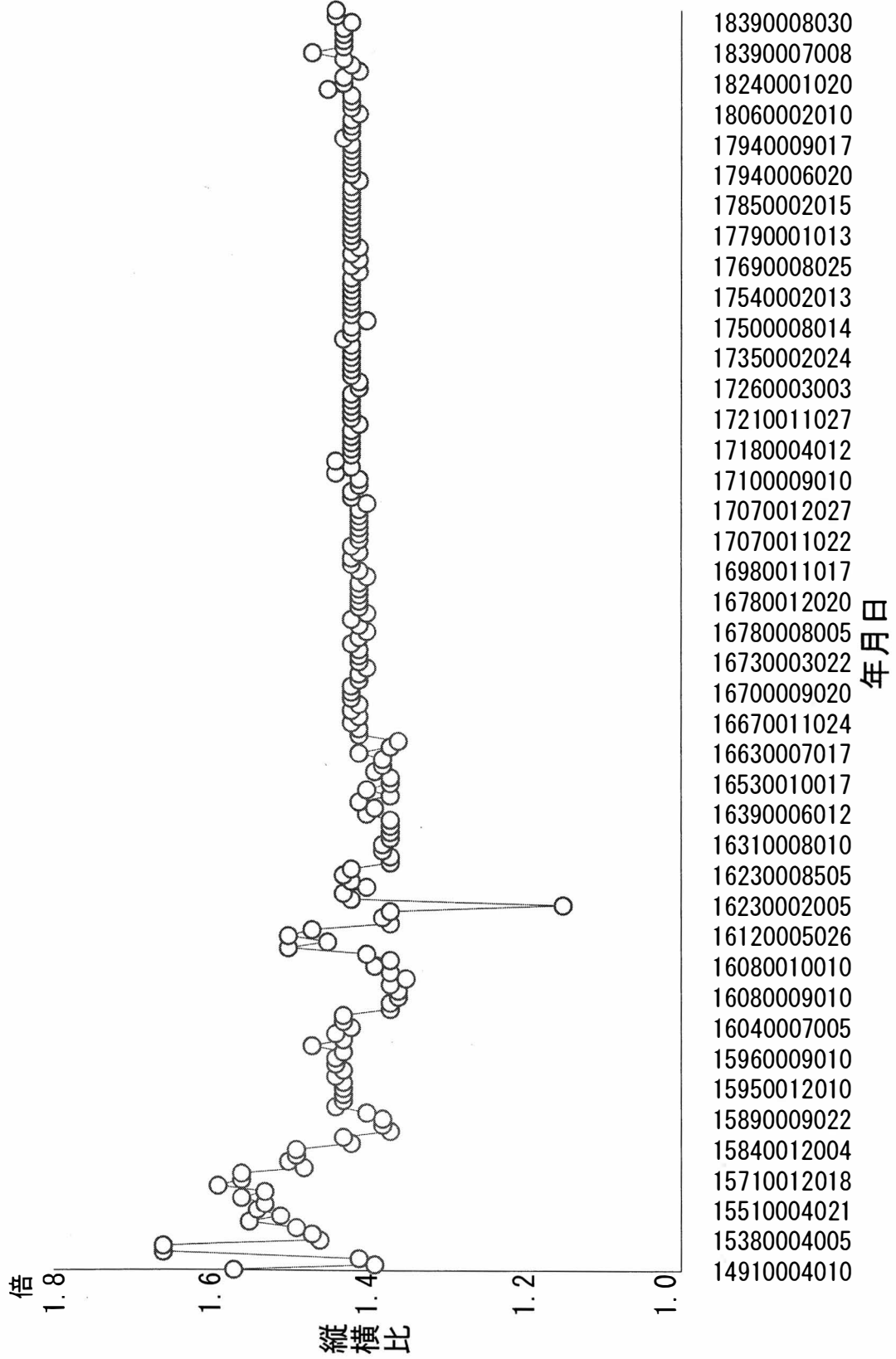


図16 東福寺公帖料紙面積の年代変化

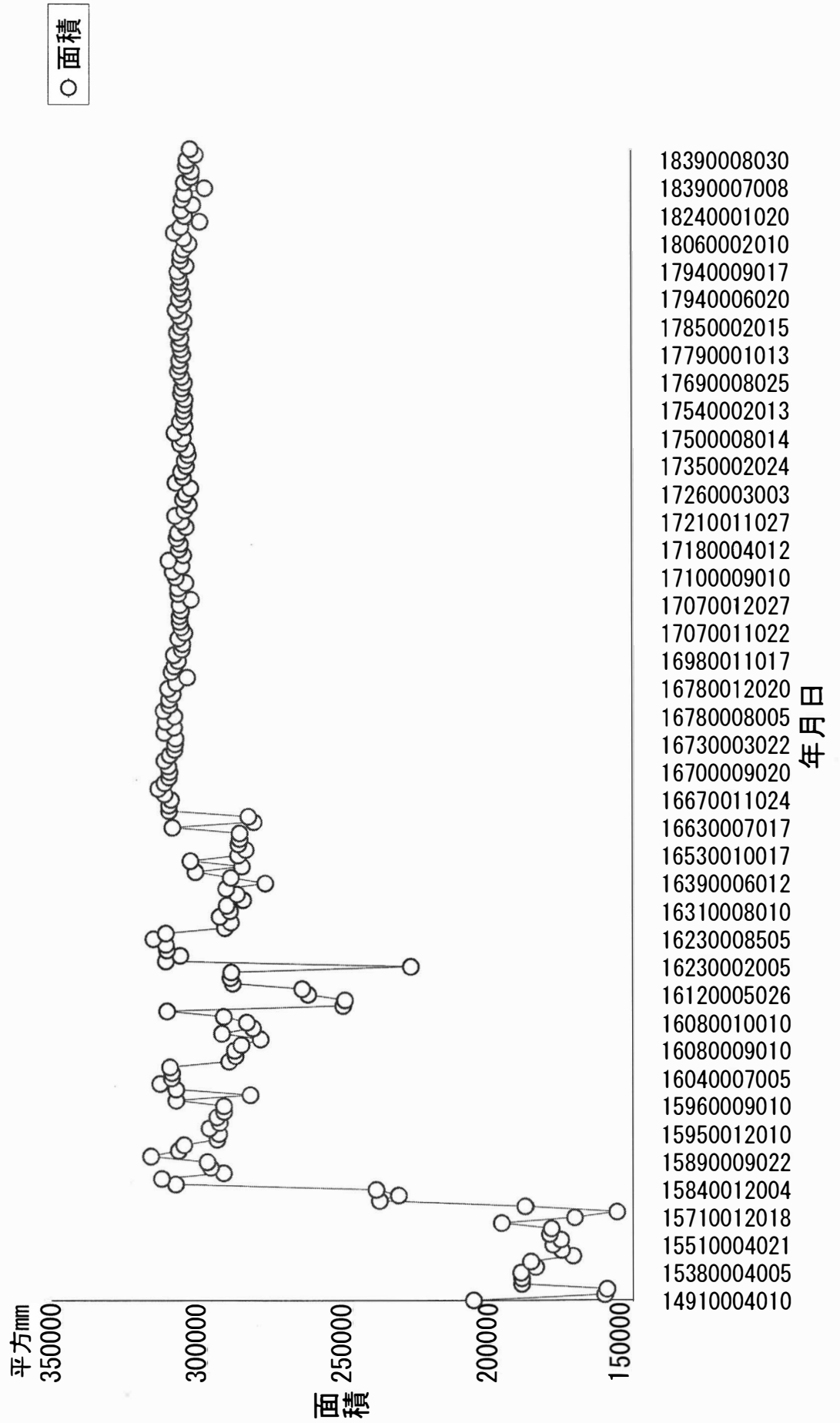


図17 東福寺公帖料紙厚みの年代変化

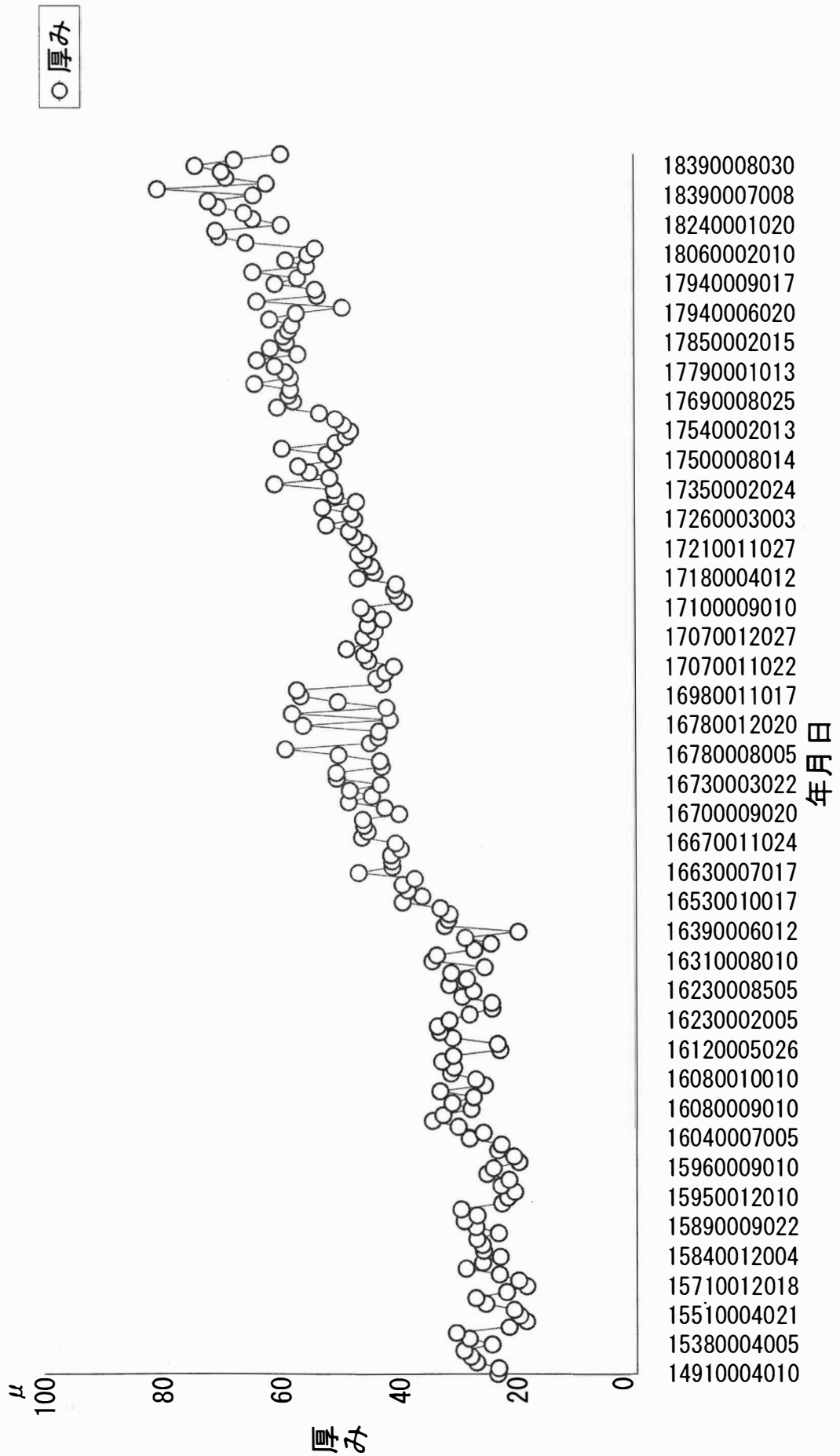


図18 東福寺公帖料紙重さの年代変化

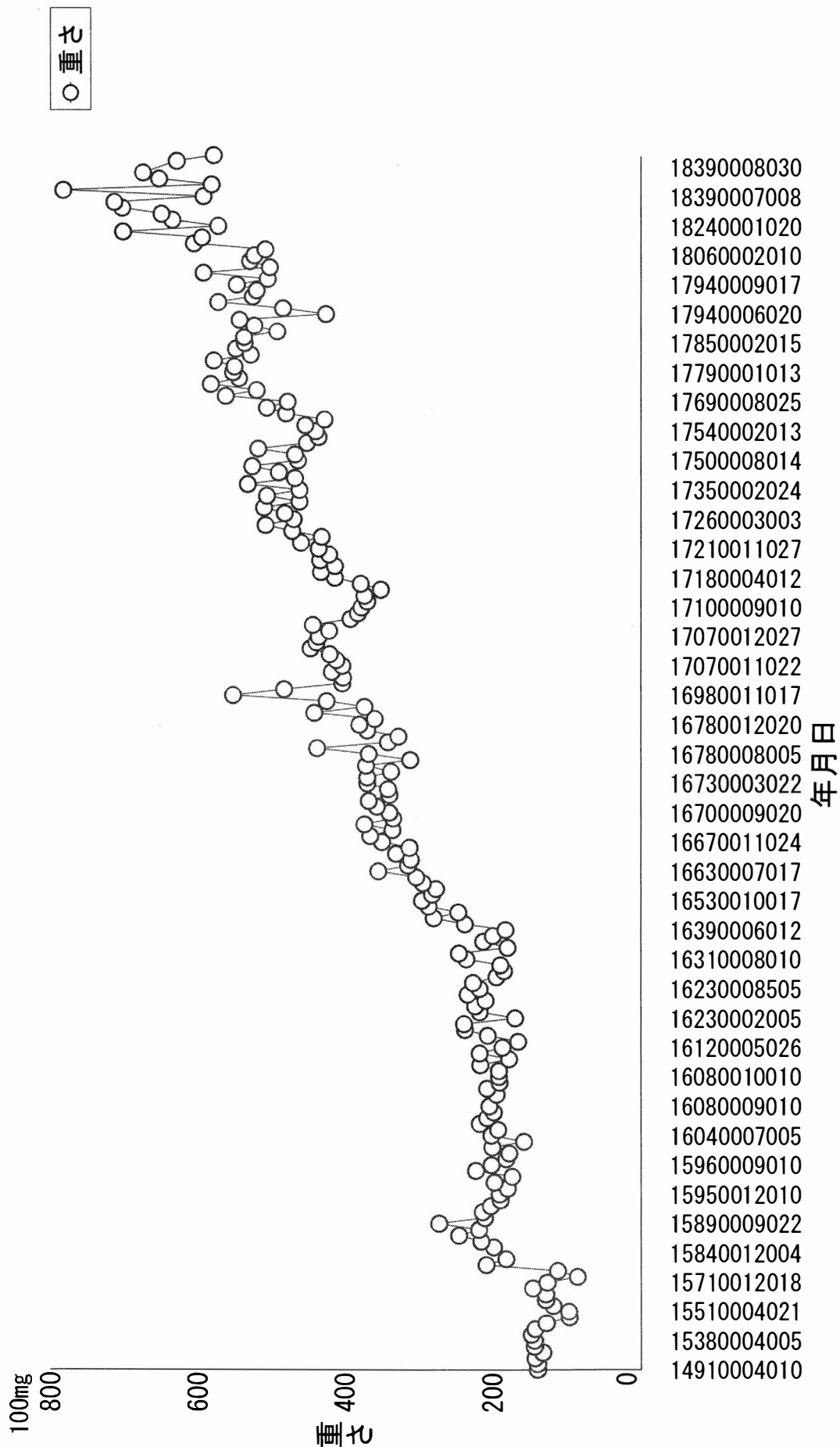


図19 東福寺公帖料紙密度の年代変化

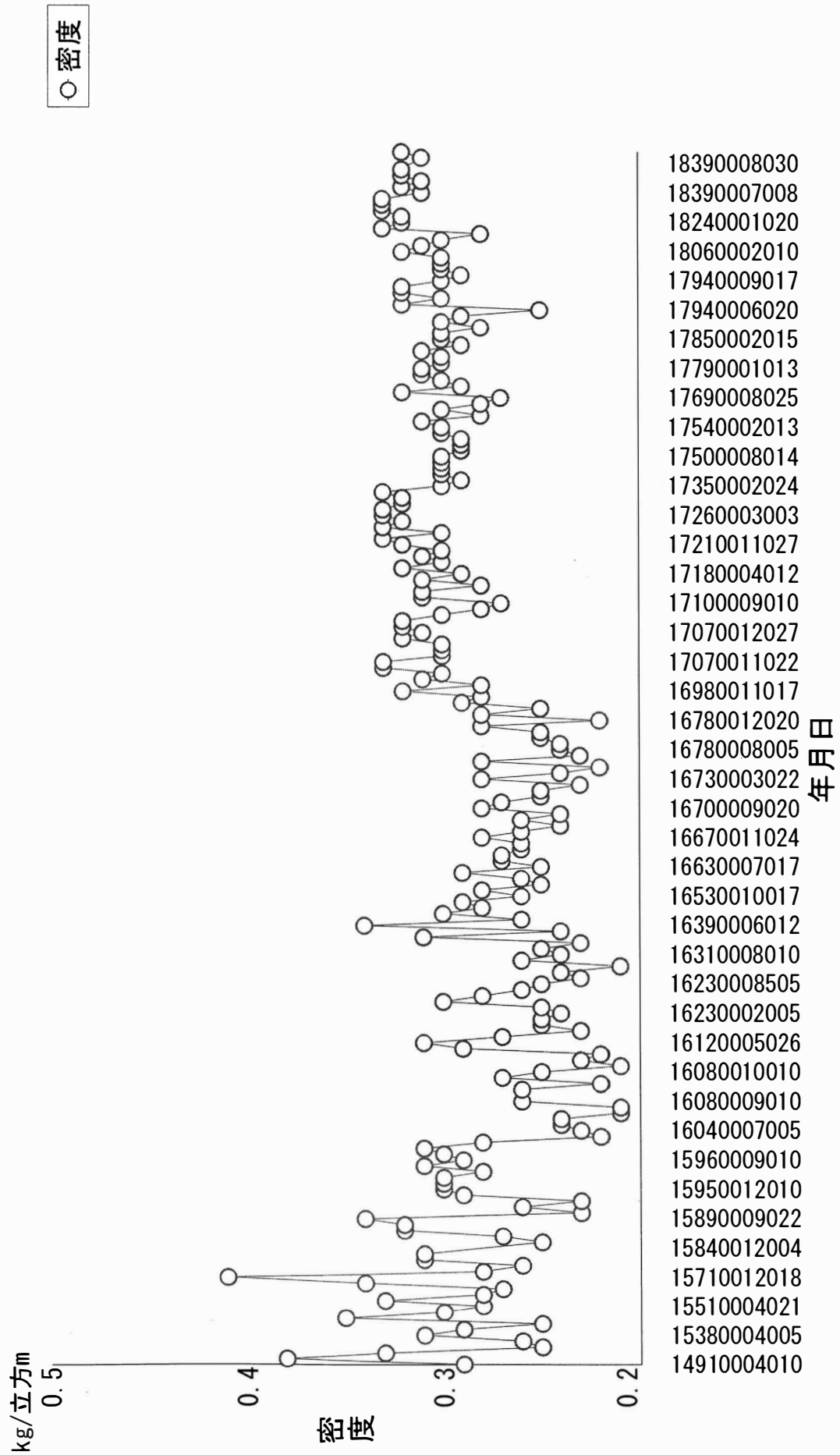


図20 東福寺公帖料紙簀目本数の年代変化

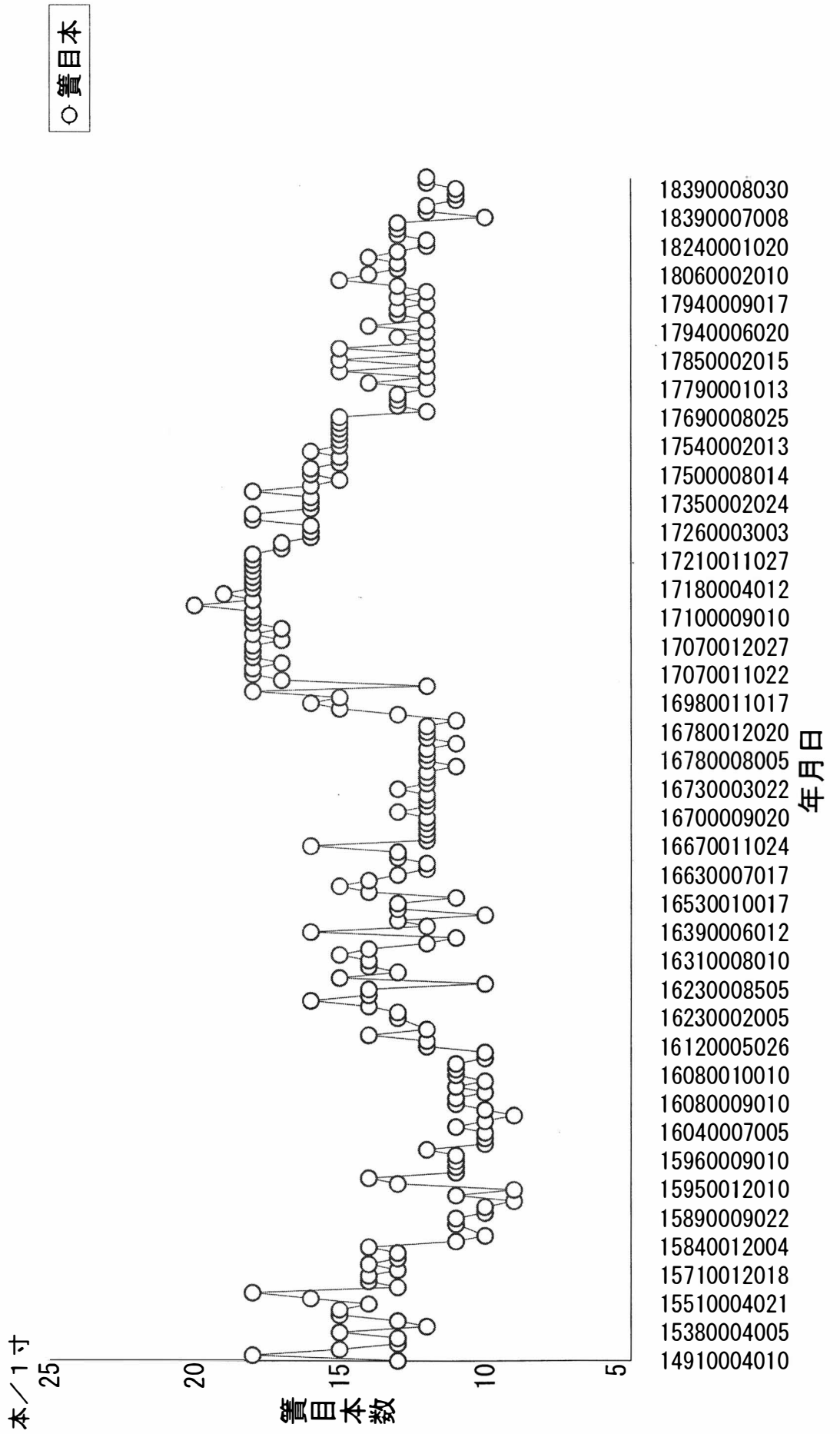


図21 東福寺公帖料紙糸目幅の年代変化

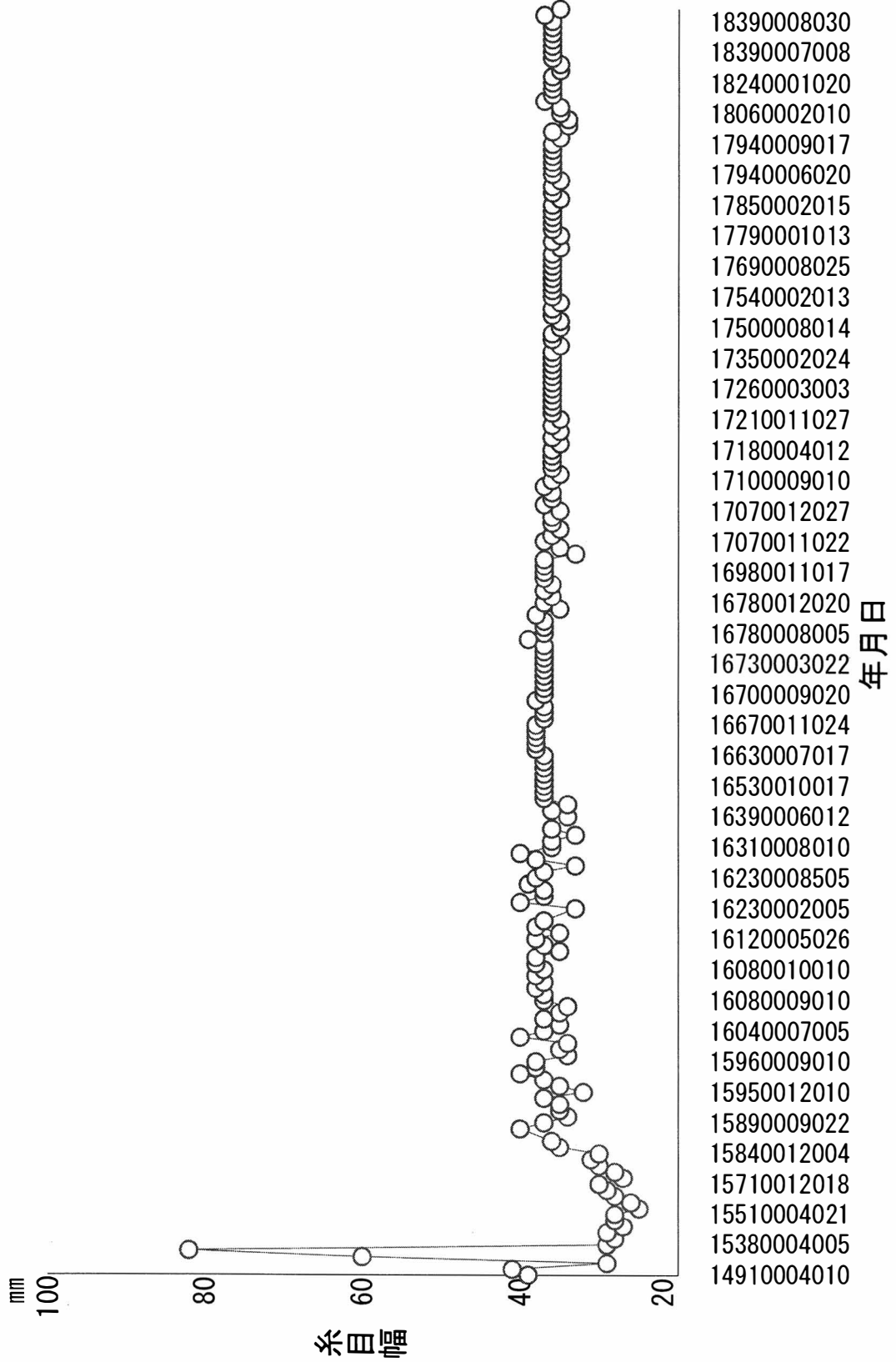


表6 東福寺住持補任九条家公帖料紙一々表

年	月	日	西曆	文書名	僧名	寸法縦	寸法横	縦横比	面積	厚さ	重さ	密度	實目自立	實目本	糸目自立	糸目巾	織継束	米糊	非纖維	乾燥法	綴付法	紙種	番号	
1	明応8年	8月	18日	1499008018	一糸冬良公帖	自悦守輝	368	537	1.46	197616	24.6	135	0.28	顕著	12	僅か	33	有	なし	少ない	吊干	實目綴	強杉原	376
2	天文7年	4月	12日	1538004012	九条植通公帖	彭叔守仙	333	466	1.4	155178	22.55	77	0.22	顕著	15	僅か	29	有	なし	あり	吊干	實目綴	強杉原	383
3	天正3年	正月	14日	1575001014	九条兼孝公帖	笑隠善輝	354	495	1.4	175230	18.4	75	0.23	透視	13	透視	29	多	なし	あり	吊干	實目綴	強杉原	394
4	慶長4年	2月	13日	1599002013	九条兼孝公帖	友月龍冊	462	656	1.42	303072	33	226	0.23	顕著	11	僅か	36	有	なし	あり	吊干	實目綴	大高檀紙①	406
5	慶長5年	7月	3日	1600007003	九条兼孝公帖	文英清輝	427	667	1.56	284809	24.15	187	0.27	透視	11	透視	35	有	なし	あり	吊干	實目綴	大高檀紙①	408
6	慶長5年	10月	19日	1600010019	九条兼孝公帖	文英清輝	462	652	1.41	301224	37.15	230	0.21	透視	10	僅か	40	有	なし	あり	吊干	實目綴	大高檀紙①	409
7	慶長16年	5月	15日	1611005015	九条忠栄公帖	圭叔龍玄	465	635	1.37	295275	21	183	0.3	顕著	12	透視	48	有	なし		吊干	實目綴	大高檀紙①	425
8	承応2年	10月	17日	1653010017	九条兼晴公帖	玉峰光隣	416	658	1.58	273728	37.9	283	0.27	僅か	15	微か	38	有	なし		吊干	實目綴	大高檀紙①	453
9	寛文3年	7月	17日	1663007017	九条兼晴公帖	大善令隣	466	659	1.41	307094	27.2	231	0.28	僅か	13	顕著	37	有	なし	ほとんどなし	吊干	實目綴	大高檀紙①	460
10	延宝4年	3月	14日	1676003014	九条兼晴公帖	南宗祖辰	472	648	1.37	305856	41.4	287	0.23	顕著	12	顕著	38	無	なし		吊干	實目綴	大高檀紙①	482
11	元禄5年	12月	8日	1692012008	九条兼晴公帖	松煙玄棟	474	645	1.36	305730	55.05	420	0.25	微か	15	透視	39	有	若干	なし	板干	剥ぎ綴	大高檀紙②	491
12	元禄11年	5月	28日	1698005028	九条輔実公帖	丹心慧虫	472	637	1.35	300664	65.5	406	0.21	透視	16	透視	36	無	若干			剥ぎ綴	大高檀紙②	493
13	元禄12年	7月	7日	1699007007	九条輔実公帖	壘岩龍楚	458	643	1.4	294494	50.6	418	0.28	微か	21	透視	36	有	若干			剥ぎ綴	大高檀紙②	496
14	元禄14年	3月	22日	1701003022	九条輔実公帖	香林宗雲	469	658	1.4	308602	57	450	0.26	透視	11	透視	37	無	なし		吊干	實目綴	大高檀紙①	498
15	享保5年	6月	3日	1720006030	九条輔実公帖	石籍龍藹	501	638	1.27	319638	45.85	419	0.29			透視	32	有	入り	あり		剥ぎ綴	細紙奉書	519
16	元文5年	2月	22日	1740002022	九条植基公帖	龍源宗見	493	680	1.34	325380	36.3	354	0.3	顕著	16	透視	32	無	入り			剥ぎ綴	細紙奉書	534
17	宝暦11年	11月	17日	1761011017	九条尚実公帖	桂藏龍芳	462	658	1.42	303996	44.5	440	0.33	透視	16	透視	35	無	なし	なし			大高檀紙②	545
18	天明5年	2月	15日	1785002015	九条尚実公帖	照隱龍香	504	657	1.3	331128	40.6	404	0.3	微か	18	透視	37	無	入り		吊干	剥ぎ綴	細紙奉書	561
19	寛政9年	9月	12日	1797009012	九条輔嗣公帖	龍河玄楯	448	658	1.47	294784	48.85	447	0.31	透視	15	透視	36	無	なし			大高檀紙②	572	

